栃木県埋蔵文化財調査報告第368集

くるま橋遺跡

―農地整備事業（畑地帯担い手育成型）石島地区における埋蔵文化財発掘調査―

2014.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

くるま橋遺跡

―農地整備事業（畑地帯担い手育成型）石島地区における埋蔵文化財発掘調査―

2014.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

くるま橋遺跡は、栃木県の南東部、真岡市に位置しています。遺跡の東側には五行川が南流しており、それが形成する肥沃な低地は、古来から周辺の人々の生活を支えたものと考えられます。こうした良好な立地条件にあることから、くるま橋遺跡周辺には古墳時代を中心とする数多くの遺跡の存在が知られております。

このたび、農地整備事業（畑地帯担い手育成型）石島地区の施工に先立ち、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。その結果、主に古墳時代後期から中世にかかわる遺構・遺物が確認され、当時の人々の生活を知る上で、有意義な成果を挙げることができました。

本報告書は、その調査成果をまとめたものであり、本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県農政部、真岡市教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

栃木県教育委員会

教育長　古澤　利通

例　言

1．本報告書は、平成 24 年度農地整備事業（畑地帯担い手育成型）石島地区における埋蔵文化財発掘調査によって、平成 25 年 1 月 15 日～ 3 月 15 日、同年 11 月 14 日～ 12 月 9 日に実施された栃木県真岡市石島地内に所在する『くるま橋遺跡』の発掘調査成果報告書である。
2．くるま橋遺跡は栃木県真岡市石島に所在する。
3．本報告書は、栃木県教育委員会文化財課からの委託業務を受け、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターによって実施された発掘調査の調査成果報告書である。
4．発掘作業から整理作業および報告書作成までの担当は次のとおりである。

【第 1 次発掘調査】

くるま橋遺跡発掘調査　（平成 25 年 1 月 15 日～ 3 月 15 日）

担当者　副所長　初山孝行
担当者　調査課 副主幹　津野　仁
担当者　嘱託調査員　中山　晋
担当者　嘱託調査員　村田沙織

【第 2 次発掘調査】

くるま橋遺跡発掘調査　（平成 25 年 11 月 14 日～ 12 月 9 日）

担当者　調査課　係長　植木茂雄
担当者　嘱託調査員　　市川岳朗

【整理作業・報告書作成】

くるま橋遺跡整理作業　（平成 25 年 6 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

担当者　調査課　係長　植木茂雄
担当者　嘱託調査員　　市川岳朗

5．第 1 次調査の発掘調査参加者は、次の通りである。
池沢恵子　岩本文子　大登　昇　笠野　大　北田政司　坂田一男　澤田邦子　篠崎明美
杉山善四郎　杉山美由紀　瀬下勇夫　高橋千代子　高山文雄　谷貝幸作　栃本　勇　直井恵子
林　勝彦　藤原美枝　皆川典男　皆川まさ子　望月　保　山内愛子　湯田仁淑　（五十音順）
6．第 2 次調査の発掘調査参加者は、次の通りである。
大登　昇　北田政司　坂田一男　佐藤かほる　佐藤すみ子　澤田邦子　篠崎明美　杉山美由紀
鶴見幸子　本田マチ子　皆川典男　皆川まさ子　望月　保　（五十音順）
7．平成 25 年整理作業・報告書作成参加者は、次の通りである。
赤羽根潤子　石田静枝　上野美紗子　大谷小穂　君島みどり　田村範子　和田恵美　（五十音順）
8．第 1 次調査では、国家座標の移設及び遺構平面図･遺構断面図の作図は株式会社リッケイに委託した。
9．第 2 次調査では、国家座標の移設および遺構平面図作図は株式会社ニッコーに委託した。
10．本遺跡の遺物・資料類は、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターで保管している。
11．平成 25 年度から『公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター』となったが、委託契約時は『財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター』であったため、本文中では名称を使い分ける。

凡　例

遺構

1．遺跡の略号は、くるま橋遺跡：MO-KR（MOKA　KURUMABASHI）である。
2．遺構の略号は奈良文化財研究所が用いる SI(竪穴建物跡)、SB(掘立柱建物跡)、SK(土坑)、SD(溝状遺構)、SX(不明遺構) などの呼称に準拠した。また、SB(掘立柱建物跡) の柱穴は、個別観察では P と番号を付している。
3．遺構番号は遺構の種類に関わらず､調査を行った順で付している。報告書においてもこれを踏襲する。
4．遺構実測図の縮尺は実測図中にスケールで示した。原則として、各調査区の全体図は 1/100。各遺構の平面図及び断面図は 1/60 としたが、遺構によっては 1/200・1/30 で示した。
5．遺構平面図中の方位は、世界測地系 (日本測地系 2000・Japanese Geodetic Datum2000) 平面直角座標系第Ⅸ系に基づいている。
6．遺構断面図中の水準は、公共測量作業規定に基づき日本水準原点を用いている。
7．土層説明の記載は発掘調査時の観察に準拠している。土層含有物の含有量については、微量・少量・多量の３段階に分け、しまりと粘性は、なし・ややなし・ややあり・あり、の４段階に分け記載した。

遺物

1．遺物実測図の縮尺は実測図中にスケールで示した。原則として、土器類は 1/4、石器・鉄製品は 1/2 とした。ただし、遺物の残存状況によっては縮尺を変更している。
2．土師器の内面黒色処理と施釉陶器などの釉薬。そして、漆はスクリーントーンを用いて表現した。また、断面図において陶磁器はスクリーントーンを貼り、須恵器の断面は黒く塗り表現した。
3．拓本の掲載方法は、断面図の左に内面を、右に外面を掲載した。しかし、縄文土器については、断面図の左に外面を、右に内面を配置している。また、底部の木葉痕などは底部下に配置しているが、紙面の都合で配置を変更しているものもある。
4．遺物観察表における計測値の（　）内は残存値を表す。
5．遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監査の『新斑標準土色帖 1994 年度版』を参考とした。
6．土器胎土内含有物の含有量は、微量・少量・多量に分け、それぞれは土色帖の面積測合を基に、１～２％を微量、３～５％を少量、７～ 10％を多量とした。
7．写真図版の縮尺は基本的に不統一である。

目　次

序
例言
凡例
第１章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の方法と経過 …… 1
第２章　遺跡周辺の環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　くるま橋遺跡発掘調査 …… 9
　第１節　発掘調査の概要 …… 9
　第２節　第１次調査　発見された遺構と遺物 …… 9
　　1.　1区 …… 20
　　2.　2区 …… 27
　　3.　3区 …… 27
　　4.　4区 …… 28
　　5.　5区 …… 29
　　6.　6区 …… 33
　　7.　7区 …… 35
　　8.　8区 …… 39
　　9.　9区 …… 42
　　10. 10区 …… 46
　　11. 11区 …… 46
　　12. 12区 …… 51
　　13. 13区 …… 55
　　14. 遺構外出土遺物 …… 55
　第３節　第２次調査　発見された遺構と遺物 …… 74
　　1.　14区 …… 74
　　2.　15区 …… 86
　　3.　16区 …… 93
　　4.　遺構外出土遺物 …… 96
第４章　総括 …… 109

挿図目次

第 1 図　遺跡位置図 …… 2
第 2 図　遺跡周辺の地形図 …… 3
第 3 図　周辺の遺跡分布図 …… 6
第 4 図　石島地区事業計画範囲地図 …… 9
第 5 図　発掘調査箇所 …… 10
第 6 図　調査区全体図 …… 11
第 7 図　調査区 1・2 区 …… 12
第 8 図　調査区 3・5 区 …… 13
第 9 図　調査区 4・8 区 …… 14
第 10 図　調査区 7 区・南 …… 15
第 11 図　調査区 7 区・北 …… 16
第 12 図　調査区 9・10 区 …… 17
第 13 図　調査区 11 区 …… 18
第 14 図　調査区 6・12・13 区 …… 19
第 15 図　1 区 SI-3 ～ 6 実測図 …… 21
第 16 図　1 区 SI-5 カマド・SI-7 カマド実測図 …… 24
第 17 図　SB-1 遺物実測図 …… 25
第 18 図　1 区 SB-1・2 実測図 …… 26
第 19 図　2 区 SI-9・10 ／ 3 区 SI-11・22 実測図 …… 30
第 20 図　4 区 SB-12 ～ 18 ／ 5 区 SI-20 実測図 …… 32
第 21 図　5 区 SI-21・SB-23・96・SD-19 実測図 …… 34
第 22 図　6 区 SI-24 ～ 26 実測図 …… 36
第 23 図　7 区 SI-28・29・38・40
・SD-39・101 実測図 …… 38
第 24 図　7 区 SI-41・SK-27・30 ～ 35
／ 8 区 SI-49 実測図 …… 40
第 25 図　8 区 SI-52・53・SD-54 実測図 …… 44
第 26 図　8 区 SK-46・47・55・SD-42・44
／ 9 区 SI-58・69 実測図 …… 45
第 27 図　9 区 SI-68・SB-59・60・64・67・95
・SK-62・63・66・70・94 実測図 …… 47
第 28 図　11 区 SI-72・82 実測図 …… 48
第 29 図　11 区 SI-78・SK-73・75・77
・81・83・93・SX-80 実測図 …… 50
第 30 図　11 区 SD-71・74・76 実測図 …… 52
第 31 図　12 区 SI-87・SD-86・SK-84・85 実測図 …… 53
第 32 図　13 区 SI-88・SK-89 ～ 92・97 実測図 …… 54
第 33 図　SI-3・4・5 遺物実測図 …… 57
第 34 図　SI-6・7・9・10・20・21（1）
・SB-14・SD-19 遺物実測図 …… 58
第 35 図　SI-21（2）・24・25・26・29 遺物実測図 …… 59
第 36 図　SI-40・41・53・58・68・69
・72・78・SD-54・74 遺物実測図 …… 60
第 37 図　SI-82・87・SD-74・86・SX-88 遺物実測図
／ 8 区（1）遺構外出土遺物実測図 …… 61
第 38 図　8 区（2）・11 区・12 区
遺構外出土遺物実測図 …… 62
第 39 図　遺物実測図（縄文土器） …… 62
第 40 図　遺物実測図（鉄製品） …… 62
第 41 図　調査区 14 区（1）・（2） …… 76
第 42 図　調査区 14 区（3） …… 77
第 43 図　調査区 15 区（1） …… 78
第 44 図　調査区 15 区（2）・16 区（1）・（6） …… 79
第 45 図　調査区 16 区（2） …… 80
第 46 図　調査区 16 区（3） …… 81
第 47 図　調査区 16 区（4） …… 82
第 48 図　調査区 16 区（5） …… 83
第 49 図　14 区 SI-103・104・106・109
・110 実測図 …… 84
第 50 図　14 区 SI-111・112 実測図 …… 85
第 51 図　14 区 SI-113・114・115
・116 実測図 …… 87
第 52 図　15 区 SI-117・118・119
・120・121・122・SK-137 実測図 …… 89
第 53 図　15 区 SI-124・125・126 実測図 …… 91
第 54 図　15 区 SI-127・128・129・130・138
／ 16 区 SI-131 実測図 …… 92
第 55 図　16 区 SI-132・133
・SD-134・SK-135・136 実測図 …… 94
第 56 図　16 区 SD-134・SK-135・136 実測図 …… 95
第 57 図　SI-104・106・109・110・111
・112 遺物実測図 …… 97
第 58 図　SI-113・114・116・117
・119 遺物実測図 …… 98
第 59 図　SK-137・SI-124・127 遺物実測図 …… 99
第 60 図　SI-128・129・131 遺物実測図 …… 100
第 61 図　SI-132・133・SD-134 遺物実測図
／ 14 区・15 区遺構外出土遺物実測 …… 101
第 62 図　遺物実測図（縄文・弥生土器・鉄製品） …… 101

表目次

第 1 表　くるま橋遺跡周辺の遺跡 …… 7
第 2 表　SI-3 出土遺物観察表 …… 63
第 3 表　SI-4 出土遺物観察表 …… 63
第 4 表　SI-5 出土遺物観察表 …… 63
第 5 表　SI-6 出土遺物観察表 …… 64
第 6 表　SI-7 出土遺物観察表 …… 64
第 7 表　SI-9 出土遺物観察表 …… 64
第 8 表　SI-10 出土遺物観察表 …… 64
第 9 表　SB-14 出土遺物観察表（土製品） …… 65
第 10 表　SD-19 出土遺物観察表 …… 65
第 11 表　SI-20 出土遺物観察表 …… 65
第 12 表　SI-21 出土遺物観察表 …… 65
第 13 表　SI-24 出土遺物観察表 …… 66
第 14 表　SI-25 出土遺物観察表 …… 66
第 15 表　SI-26 出土遺物観察表 …… 67
第 16 表　SI-29 出土遺物観察表 …… 67

第 17 表　SI-40 出土遺物観察表……67
第 18 表　SI-41 出土遺物観察表……67
第 19 表　SI-53 出土遺物観察表 …… 68
第 20 表　SD-54 出土遺物観察表 …… 68
第 21 表　SI-58 出土遺物観察表 …… 68
第 22 表　SI-68 出土遺物観察表 …… 68
第 23 表　SI-69 出土遺物観察表 …… 68
第 24 表　SI-72 出土遺物観察表 …… 69
第 25 表　SD-74 出土遺物観察表 …… 69
第 26 表　SI-78 出土遺物観察表 …… 69
第 27 表　SI-82 出土遺物観察表 …… 69
第 28 表　SD-86 出土遺物観察表 …… 69
第 29 表　SD-86 出土遺物観察表（土製品）…… 70
第 30 表　SI-87 出土遺物観察表 …… 70
第 31 表　SI-88 出土遺物観察表 …… 70
第 32 表　8 区遺構外出土遺物観察表 …… 70
第 33 表　11 区遺構外出土遺物観察表 …… 71
第 34 表　12 区遺構外出土遺物観察表 …… 71
第 35 表　遺構外出土遺物観察表 …… 71
第 36 表　出土遺物観察表（石器）…… 72
第 37 表　出土遺物観察表（縄文土器）…… 72
第 38 表　出土遺物観察表（鉄製品）…… 72
第 39 表　出土遺物観察表（陶磁器）…… 73
第 40 表　SI-104 出土遺物観察表 …… 102
第 41 表　SI-106 出土遺物観察表 …… 102
第 42 表　SI-109 出土遺物観察表 …… 102
第 43 表　SI-110 出土遺物観察表 …… 102
第 44 表　SI-111 出土遺物観察表 …… 102
第 45 表　SI-112 出土遺物観察表 …… 103
第 46 表　SI-113 出土遺物観察表 …… 103
第 47 表　SI-114 出土遺物観察表 …… 103
第 48 表　SI-116 出土遺物観察表 …… 104
第 49 表　SI-117 出土遺物観察表 …… 104
第 50 表　SI-119 出土遺物観察表（土製品）…… 104
第 51 表　SK-137 出土遺物観察表 …… 104
第 52 表　SI-124 出土遺物観察表 …… 104
第 53 表　SI-127 出土遺物観察表 …… 106
第 54 表　SI-128 出土遺物観察表 …… 106
第 55 表　SI-129 出土遺物観察表 …… 106
第 56 表　SI-131 出土遺物観察表 …… 106
第 57 表　SI-132 出土遺物観察表 …… 107
第 58 表　SI-133 出土遺物観察表 …… 107
第 59 表　SD-134 出土遺物観察表 …… 107
第 60 表　遺構外出土遺物観察表 …… 107
第 61 表　出土遺物観察表（石器）…… 108
第 62 表　出土遺物観察表（縄文・弥生土器）…… 108
第 63 表　出土遺物観察表（鉄製品）…… 108
第 64 表　出土遺物観察表（陶磁器）…… 108

図 版 目 次

図版一　くるま橋遺跡
くるま橋遺跡遠景（南東から）
くるま橋遺跡遠景（北東から）

図版二　第 1 次発掘調査　遺構（1 区）
1 区全景（北から）
SB-1　P 1 完掘状況（東から）
SB-1　P 2 完掘状況（東から）
SB-1　P 3 完掘状況（東から）
SB-2　P 1 土層堆積状況（西から）
SB-2　P 2 完掘状況（西から）
SB-2　P 3 完掘状況（西から）
SI-3　完掘状況（西から・左は SD-98）

図版三　第 1 次発掘調査　遺構（1 区）
SI-4　完掘状況（西から）
SI-5　カマド完掘状況（南から）
SI-5　完掘状況（南から）
SI-6　完掘状況（南東から）
SI-7　完掘状況（南東から）

図版四　第 1 次発掘調査　遺構（2 ～ 4 区）
SI-9　完掘状況（南西から）
SI-10　完掘状況（南東から）
3 区全景（東から）
SI-11・SK-100　完掘状況（北から）
SI-22　完掘状況（南から）
4 区全景（北から）
SB-14　土層堆積状況（東から）
SB-14　完掘状況（東から）

図版五　第 1 次発掘調査　遺構（4 ・ 5 区）
SB-16　完掘状況（西から）
SD-19　完掘状況（西から）
SI-20　完掘状況（北西から）
SI-20　旧カマド・新カマド完掘状況（北西から）
SI-20　遺物出土状況（南から）
5 区調査風景（北西から）
SI-21　完掘状況（北西から）
SI-21　カマド完掘状況（北西から）

図版六　第 1 次発掘調査　遺構（6 区）
6 区全景（西から）
SI-24　完掘状況（南から）
SI-24　カマド完掘状況（南西から）
SI-25　完掘状況（西から）
SI-25　カマド完掘状況（西から）
SI-26　完掘状況（北東から）
SI-26　カマド確認状況（南から）
SI-26　遺物出土状況（南東から）

図版七　第１次発掘調査　遺構（７・８区）
７区全景（南から）
SI-28　完掘状況（北西から）
SI-29　土層堆積状況（北西から）
SI-38・SD-39　完掘状況（北西から）
SI-40　土層堆積状況（北西から）
SI-40　貯蔵穴（張り出しピット）遺物出土状況（東から）
SI-41　完掘状況（北西から）
８区全景（北から）

図版八　第１次発掘調査　遺構（８・９区）
SD-42・SD-44　土層堆積状況（南西から）
SI-53　完掘状況（西から）
SD-54　完掘状況（南東から）
９区全景（南から）
SI-58　完掘状況（南から）
SB-64・SK-62・SK-63　完掘状況（南西から）
SI-68　完掘状況（東から）
SI-69　完掘状況（北から）

図版九　第１次発掘調査　遺構（11区）
11区南全景（北西から）
SD-71　土層堆積状況（西から）
SI-72　完掘状況（西から）
SD-74・SD-76　完掘状況（南東から）
SI-78・SD-79　完掘状況（東から）
SI-82　カマド確認状況（南西から）
SI-82　完掘状況（南東から）
SK-83　完掘状況（東から）

図版一〇　第１次発掘調査　遺構（12・13区）
12区全景（北東から）
SD-86　遺物出土状況（南西から）
SD-86　土層堆積状況（西から）
SI-87　カマド完掘状況（南から）
SI-87　完掘状況（南東から）
12区調査風景（北東から）
13区全景（東から）
SI-88・SK-97　完掘状況（東から）

図版一一　第２次発掘調査　遺構（14区）
SI-111　カマド前遺物出土状況（南から）
SI-111　完掘状況（南から）
SI-112　カマド遺物出土状況（西から）
SI-112　完掘状況（西から）
SI-113　土層堆積状況（南から）
SI-113　貯蔵穴・土層堆積状況（南から）
SI-113　遺物（カマド袖構築材転用甕）出土状況（東から）
SI-113　貯蔵穴・カマド完掘状況（南から）

図版一二　第２次発掘調査　遺構（14・15区）
SI-113・114・115　完掘状況・西（南から）
SI-113・114・115　完掘状況・東（南から）
SI-114　遺物出土状況（北から）
SI-115　カマド完掘状況（南から）
SI-113・114・115　完掘状況（東から）
15区遠景（南から）
SI-117　カマド内土層堆積状況（西から）
SI-117　カマド内土層堆積状況（南から）

図版一三　第２次発掘調査　遺構（15区）
SI-117　遺物出土状況（南から）
SI-117　完掘状況（南から）
SI-118　完掘状況（北から）
SI-122・137　完掘状況（西から）
SI-124　カマド内土層堆積状況（西から）
SI-124　カマド内土層堆積状況（南から）
SI-124　土層堆積状況・南（東から）
SI-124　土層堆積状況・北（東から）

図版一四　第２次発掘調査　遺構（15区）
SI-124　土層堆積状況・カマド付近（東から）
SI-124　カマド完掘状況（西から）
SI-124　完掘状況（南から）
SI-127　遺物出土状況（西から）
SI-128　遺物出土状況（東から）
SI-128　遺物出土状況（北から）
SI-128　遺物（石錘）出土状況（北から）
SI-128　遺物出土状況（東から）

図版一五　第２次発掘調査　遺構（15・16区）
SI-129　完掘状況（南から）
SI-131　遺物出土状況（西から）
SI-133　完掘状況（西から）
SI-138　確認状況（西から）
SD-134　方墳周溝確認状況（東から）
SD-134　遺物（高坏）出土状況（南から）
SD-134　確認状況〔墓地西側〕（西から）
方墳〔SD-134〕調査風景（東から）

図版一六　第１次発掘調査 遺物１（土器）
図版一七　第１次発掘調査 遺物２（土器・土製品）
図版一八　第１次発掘調査 遺物３（土器・陶器・土製鏡）
図版一九　第１次発掘調査 遺物４（土器・土製品）
図版二〇　第１次発掘調査 遺物５（土器・石器・鉄製品）
図版二一　第１次発掘調査 遺物６（縄文土器・陶磁器）
図版二二　第２次発掘調査 遺物１（土師・土製品・瓦・陶器）
図版二三　第２次発掘調査 遺物２（土器・土製品）
図版二四　第２次発掘調査 遺物３（土器・補石・支脚）
図版二五　第２次発掘調査 遺物４（土器・石器）
図版二六　第２次発掘調査 遺物５（土器・鉄製品・陶磁器）

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

真岡市南部に位置する石島地区は、一級河川五行川右岸側真岡台地上に拓けた約 28ha の畑地帯である。この畑地帯の有効活用を目的とした、経営体の育成・農業経営の安定を図るための「畑地帯総合整備事業」の実施が平成 21 年３月 31 日に決定された。採択された「畑地帯総合整備事業」の事業内容には、事前に実施した県営圃場整備事業地内遺跡確認調査により、事業地内で遺構を確認したため、発掘調査の実施も含まれていた。この遺跡確認調査の成果は、栃木県埋蔵文化財調査報告第 332 集栃木県埋蔵文化財保護行政年報 33 号にて報告されている。

発掘調査は「県営畑地帯総合土地改良事業石島地区施工に伴う埋蔵文化財発掘調査」として計画され、平成 24 年 12 月 14 日に栃木県教育委員会から財団法人が委託を受け、契約を締結した。

委託業務の名称は「農地整備事業 (畑地帯担い手育成型) 石島地区における埋蔵文化財発掘調査 (くるま橋遺跡)」である。遺跡の名称は真岡市教育委員会と協議のうえ『くるま橋遺跡』とした。

その後、発掘調査は栃木県教育委員会、栃木県農政部、真岡市教育委員会等関係者各位に発掘調査の了承と承諾、協力依頼などを経て、第１次調査を平成 25 年１月 15 日～平成 25 年３月 15 日の期間行った。調査面積は 625 ㎡で発掘調査を受託し、業務委託料は 7,240,000 円（うち消費税及び地方消費税額 344,761 円）で実施された。

第２次調査は平成 25 年度 11 月 14 日～平成 25 年度 12 月９日の期間行った。調査面積は 455 ㎡で、発掘調査、整理作業、報告書刊行作業を受託し、業務委託料は 11,500,000 円（うち消費税及び地方消費税額 547,619 円）で実施された。報告書作成のための整理作業は平成 25 年６月より実施された。

第２節　発掘調査の方法と経過

ここでは発掘調査の方法と経過を示す。経過については、第１次調査・第２次調査時の調査全体の経過を指す事とし、各遺構毎の調査経過については省略する。

第１次調査の発掘調査の方法と調査の経過は以下の通りである。

第１次調査では、６区・７区は真岡鐵道の運行を配慮しながら表土除去を行い、１区～ 13 区を優先して表土除去を行った（第５図）。表土の除去後は調査区周辺の除草作業と調査区内の清掃を行い、１区から番号順に精査、遺構の確認と掘削を行い、土層断面作図・写真撮影・完掘・写真撮影を行った。

第１次調査では委託業者により、デジタルカメラを用いて土層断面の写真を撮影し、写真からコンピューター上で土層断面図を作成した。平面図の作成も同様で、区画毎の遺構調査が終了次第、遺構平面図作成のため俯瞰写真撮影を行った。これらの写真撮影は全て土層断面図と平面図作成のものであり、セクション写真等とは異なる。

続く第２次調査も、14 区～ 16 区と番号順に表土除去・遺構精査・遺構確認・掘削を行い、土層断面作図・写真撮影・完掘・写真撮影と、第１次調査とほぼ同様に調査を行った。第２次調査の測量作業については委託業者により、トータルステーションを用いた基準点・基準杭の設置と、平面図作成・床面出土遺物とカマド出土遺物などの測点作業が行われた。

第２章　遺跡周辺の環境

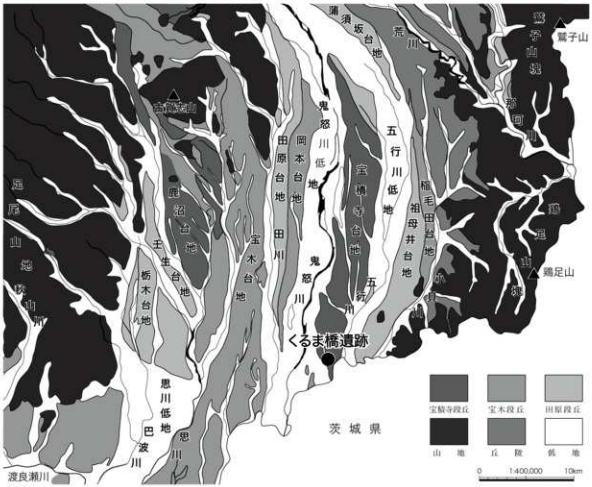
第１節　地理的環境

位　置　くるま橋遺跡は真岡市石島（旧芳賀郡二宮町大字石島）のほぼ中央に所在する（第１・３図）。本遺跡は昭和 40 年代には既に散布地として知られており、くるま橋遺跡周辺の遺跡はその所在する石島の名称から、石島地区遺跡群とまとめて呼称することもある。同地内の古墳群は石島古墳群と呼称される。

地形の分類　栃木県は関東平野の北端に位置し、東は茨城県、西は群馬県、南は群馬県の一部と埼玉県、北は福島県に隣接する内陸県である。地形は東部山地と西部山地、その間を南北に展開する中央部平地に三分される。東部山地は茨城県境を南北に走る八溝山地を指し、北から順に八溝山塊、鷲子山塊、鶏足山塊と続いて茨城県の筑波山塊へと至る。北方の八溝山が最も高く、山頂高度は南になるほど段階的に低い高度となる。西部山地は福島県境から群馬県境にかけて南北に走る北部に位置する帝釈山地と南部の足尾山地からなる。帝釈山地は 2,000 m級の山岳からなり、この帝釈山地の東部から南部にかけては、那須火山、高原火山、日光火山の各火山郡が位置している。足尾山地は北境を大谷川によって画され、東側及び南側は中央部平地に臨んでいる。山頂高度は東部山地同様、南方に行くに従って低位となる。中央平地は、主として南流する河川の浸食によってもたらされた沖積低地と河岸段丘面からなり、堆積した火山灰層（関東ローム層）の層序関係等で、宝積寺面・宝木面・田原面・絹島面（沖積低地）と形成時期が区分される。

宝積寺台地　本遺跡の所在する石島は宝積寺台地上にあり台地は南北に長く、くるま橋遺跡は宝積寺台地の南側に位置している（第１・２図）。台地は南北での比高差が大きく、北部の氏家町で標高約 160 m、南端の茨城県下館市では標高約 50 mで、石島では標高約 60 mである。この宝積寺台地は約二十五万年以前に鬼怒川の氾濫原がその後の地盤の隆起により台地化したもので、地形形成の原因から分類すると河岸段丘である。そのため、台地上には厚い関東ローム層が堆積しており、ローム層の下にこの台地の元となる砂礫層が見られる。砂礫層は東西の急傾斜面で確認することができ、この傾斜は宝積寺台地の西側に流れる鬼怒川と東側に流れる五行川によって形成さ

第１図　遺跡位置図



第２図　遺跡周辺の地形図

れたもので、両河川は宝積寺台地を挟むようにほぼ平行に南流している。

現　況　現在の石島地区内は、ほぼ畑地であり、畑地全体が遺跡・遺物の散布地のため、畑地の範囲に遺跡が所在すると想定される。

参考文献

栃木県企画部資源対策課	1990	『土地分類基本調査　真岡』
二宮町郷土誌編さん委員会	1970	『二宮町郷土誌』
芳賀町史編さん委員会	2002	『芳賀町史』「通史編 自然 民俗」
二宮町史編さん委員会	2006	『二宮町史』「考古・資料編」
二宮町史編さん委員会	2006	『二宮町史』「通史編１　古代中世」

第２節　歴史的環境

真岡市石島地区内とその周辺を含めて、旧二宮町周辺は宝積寺台地を中心として古墳時代～中世にかけての遺跡が数多く存在している。旧石器時代、縄文時代、弥生時代の遺跡・遺物も確認されているが、概観するに現在までの調査成果において、これらの時代の遺構・遺物は乏しい状態である。

本遺跡が所在する真岡台地（宝積寺台地）の東西周縁には多くの遺跡や古墳、散布地等があることは知られているが、その多くは分布調査などであり、実際に発掘調査が行われた遺跡は少ない。

古墳等は既に消滅しているものも多く、今回の調査範囲に所在する現況墓地の「三本松古墳」周囲には、かつては 17 基の古墳が所在していたと伝えられているが、現在目視で確認出来るのは三本松古墳のみである。五行川西岸、台地上の石島周辺の古墳は「石島古墳群」として分布調査・範囲確認調査が行われたこともある。近年の成果では、栃木県埋蔵文化財調査報告第 332 集栃木県埋蔵文化財保護行政年報 33 号の確認調査にて、周溝と思われる溝状遺構から古墳時代前期の遺物が出土した。このことから、石島地内に前期古墳が所在する可能性が指摘されている。

第３図の周辺の遺跡分布図は、周辺遺跡やくるま橋遺跡の存続していた期間と関わりのある遺跡を、平成 12 年度に二宮町教育委員会によって実施された遺跡分布調査結果等を基とし図化したものである。散布地などは表採資料を基に時期等を考慮した。

旧石器時代　くるま橋遺跡周辺で旧石器が出土した遺跡は、桑の川遺跡 (57)、峰高前遺跡 (77)、西物井遺跡 (70)、磯山遺跡 (82)、伊勢崎Ⅱ遺跡 (99)、図の範囲外だが、市ノ塚遺跡の６遺跡で、後期旧石器時代の資料が確認されている。磯山遺跡ではナイフ形石器が発見され、伊勢崎Ⅱ遺跡は後期旧石器時代の２枚の文化層が調査された。各遺跡出土の石器は全て台地下または台地周辺にて石器単体での出土が多いため、真岡市周辺における旧石器時代の遺跡の多くは、台地や丘陵の縁辺や中央部に作られていると想定されている。

縄文時代　現在までの調査成果から中期～後期が主体と考えられる。判明した中期～後期の遺跡は、中内遺跡 (73) 中期中葉～後葉。磯山遺跡 (82) 中期中葉～後葉。城内遺跡 (85) 中期中葉～後期の集落跡。熊倉遺跡 (87) 中期～後期初頭。稲荷山遺跡 (96) 中期中葉～後葉。於宮遺跡 (92) 中期中葉～後期前葉の土器石器などを多数採集。真岡市西物井遺跡 (70) では、散布数は少ないが、後期の堀之内式土器が確認されている。また、稲荷山遺跡 (96) では、草創期初期と思われる微隆起線文土器が確認された。今後の調査によっては草創期、早期、前期などの資料も増加するかもしれない。

弥生時代　栃木県全体で弥生時代の遺跡は少ない傾向にある。真岡市で確認された遺跡は、伊勢崎の伊勢崎Ⅱ遺跡 (99)、図の範囲外だが根本の柳久保遺跡が挙げられる。伊勢崎Ⅱ遺跡では住居跡２軒とそれに伴う二軒屋式土器が確認されている。柳久保遺跡は十王台式土器・二軒屋式土器と弥生時代後期の土器が確認されている。散布地も少なく、本田Ⅱ遺跡 (8)、程島北遺跡 (39)、高畦Ⅰ～３号遺跡 (54)、伊勢崎Ⅳ遺跡 (101) などである。また、少量だが弥生土器や同時期の資料を確認した遺跡では、熊倉遺跡 (87)、大曲北遺跡 (89)、下高岡木西Ａ・Ｂ遺跡 (98) などがある。

このように弥生時代の遺跡、散布地は少ないと言えるが、隣接する筑西市の女方遺跡では弥生時代の前期末から中期の再葬墓の良好な資料が発見されている。真岡市も今後の調査によっては弥生時代の資料が増加するかもしれない。

古墳時代　発掘調査の進展により集落や古墳の性格などが判明してきているが、時代ごとの代表的な集落を挙げるに留めて置く。前期（４世紀）では、長島南遺跡 (38)、西物井遺跡 (70)、峰高前遺跡 (77)、市ノ

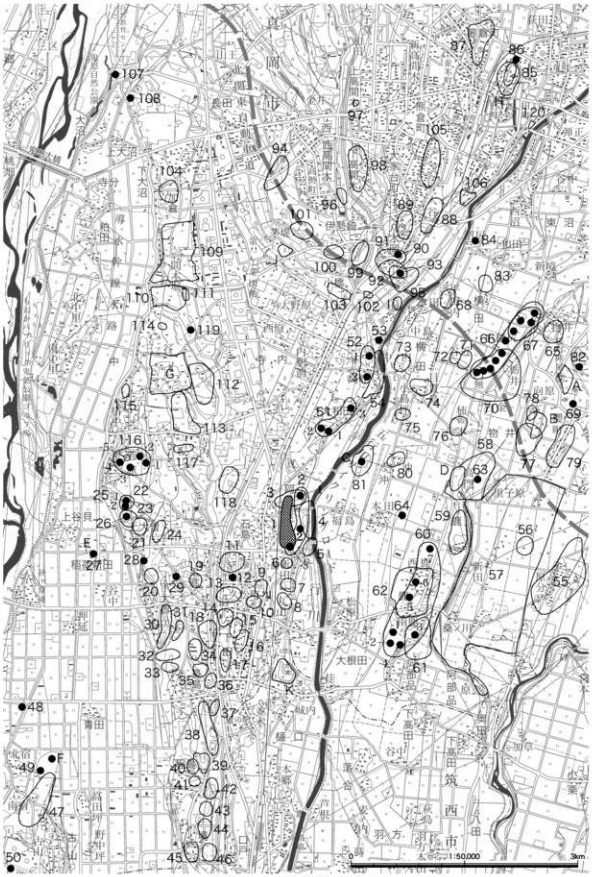
塚遺跡がある。中期（5世紀）では、蟹が入遺跡(34)、曲田遺跡、市ノ塚遺跡。後期（6・7世紀）では蟹が入遺跡(34)、西物井遺跡(70)、峰高前遺跡(77)、市ノ塚遺跡などがある。前代と比較して古墳時代では各時期を通して人が住んでおり、台地上よりも微高地に集落を造る傾向にあるのが伺える。また、市内には古墳時代と比定されている散布地が多くみられることから、今後はさらに遺跡数が増加すると考えられる。

古墳については時期別に代表的な古墳を挙げる。4世紀の古墳群が、市ノ塚遺跡や西物井遺跡(70)で発見されている。100年ほどの空白期を経て、5世紀後半には、前方後円墳である大和田富士山古墳(53)が造られる。6世紀代になると、周囲に古墳が造られるようになる。主な古墳は、鹿古墳群(60)、上大曽一号墳(25-1)、石島古墳群(2)、五軒家古墳群などである。

石島古墳群では前述した通り前期古墳が所在する可能性が高い。

奈良・平安時代　古代の下野国には足利、梁田、安蘇、都賀、寒川、河内、芳賀、塩屋、那須の9郡があり、くるま橋遺跡の所在する石島は旧二宮町に属し、二宮町域は古代では芳賀郡に入る。これまでの発掘調査で芳賀の郡家(郡の役所)は、五行川左岸の低台地上に立地する真岡市京泉の堂法田遺跡と比定されている。また、郡の下には郷（里）があり、芳賀郡には14の郷があるといわれている。発掘調査で奈良・平安時代の遺構が発見された西物井遺跡(70)は、物部郷の一部と考えられる。西物井遺跡以外にも、周辺には奈良・平安時代の遺跡は多数存在する。発掘調査された遺跡には、蟹が入遺跡(34)・峰高前遺跡(77)・馬場先遺跡・市ノ塚遺跡などがある。くるま橋遺跡も古代の資料が確認されており、灰釉陶器・緑釉陶器片、破片ではあるが円面硯も出土している。

五行川に架かるくるま橋（写真奥台地上に遺跡が所在する）



第３図　周辺の遺跡分布図

第1表　くるま橋遺跡周辺の遺跡

No.	遺跡名	時代	種類	No.	遺跡名	時代	種類	No.	遺跡名	時代	種類
1	くるま橋遺跡	旧石器・縄文・古墳～古代	散布地	48	長塚古墳	-	不明	88	八木岡Ⅰ遺跡	縄文・古墳～古代	集落跡
2	石島古墳群	古墳群	3基(現存)	49	鷲ノ巣根岡山古墳群	古墳群(後)	2基(現存)	89	大曲北遺跡	弥生・古代	集落跡
-1	石島西土山古墳	古墳（前）	円墳（または方墳）	50	天神山古墳群	古墳群(後)	1基(現存)	90	甑草塚古墳	古墳（中）	前方後円墳
-2	三本松古墳	-	不明	51	台山古墳群	古墳群(後)	3基(現存)	91	大曲遺跡	古墳～中世	集落跡・墓跡
-3	吾妻古墳	-	不明	-1	台山1号墳	-	円墳	92	於宮（大曲）遺跡	縄文・古代～近世	集落跡
3	石島1～2遺跡	古墳・奈良	散布地	-2	台山2号墳	-	円墳	93	大曲古墳	古墳	円墳
4	くるま橋西遺跡	奈良	散布地	-3	台山3号墳	-	円墳	94	原北遺跡	縄文・近世	集落跡
5	新田北遺跡	平安	散布地	52	大和田古墳群	古墳群(後)	2基(現存)	95	下陸遺跡	縄文・古墳～中世	集落跡・古墳
6	新田Ⅰ遺跡	古墳	散布地	-1	大和田大塚古墳	-	円墳	96	稲荷山遺跡	縄文～古墳	集落跡・古墳
7	本田Ⅰ遺跡	古墳（前）	散布地	-2	大和田巳待塚古墳	-	円墳	97	上高間木施寺跡	不明	寺院跡
8	本田Ⅱ遺跡	縄文・古墳・平安	散布地	53	大和田居士山古墳	古墳（中）	前方後円墳	98	下高間木内A・B遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	集落跡・墓域
9	久下田北Ⅰ遺跡	奈良	散布地	54	高畑1～3号遺跡	縄文・弥生・古墳（後）	散布地	99	伊勢崎Ⅱ遺跡	旧石器・弥生・古墳～近世	集落跡
10	久下田北Ⅱ遺跡	古墳	散布地	55	原分遺跡	縄文・古墳	散布地	100	伊勢崎Ⅲ遺跡	旧石器・古墳～近世	集落跡・散布地
11	寺山遺跡	古墳（中）・近世	集落跡	56	原分西遺跡	古墳	散布地	101	伊勢崎Ⅳ遺跡	弥生～平安	散布地
12	久松古墳群	古墳群(後)	2基	57	桑の川遺跡	旧石器・近世	耕地整理跡	102	小橋供跡	中世	供跡か
13	久松遺跡	中世	屋敷	58	北鹿・高門遺跡	古墳～古代	散布地	103	小橋Ⅰ遺跡	縄文・古墳～平安	散布地
14	久下田中遺跡	奈良	散布地	59	東鹿遺跡	古墳～古代	散布地	104	家木内遺跡	古代～中世	集落跡
15	久下田中Ⅱ遺跡	古墳・奈良	散布地	60	鹿古墳群	古墳群(後)	4基(現存)	105	大谷Ⅰ遺跡	古墳～古代	集落跡
16	久下田西Ⅰ遺跡	平安	散布地	-1	天神山古墳	-	前方後円墳	106	台町丸山遺跡	縄文・古墳～古代	集落跡
17	久下田西Ⅱ遺跡	古代	散布地	-2	庚申塚古墳	-	円墳	107	御殿山古墳群	古墳・中世	古墳群（3基）
18	久下田中学校前Ⅰ遺跡	古墳	散布地	-3	鹿神社古墳	-	不明	108	北原台古墳群	古墳	円墳2基
19	千代ヶ丘八幡宮遺跡	古墳～古代	散布地	-4	阿部品八幡山古墳	-	円墳	109	中村遺跡	古代	官衙関連遺跡
20	星宮神社遺跡	古墳	散布地	-5	南鹿古墳群	-	-	110	鶴木原（中村小学校前Ⅰ）遺跡	古代	集落跡
21	上大曽遺跡	古墳・平安	散布地	-6	西鹿根本古墳群	-	-	111	石ホロ（中村小学校前Ⅱ）遺跡	古代～中世	集落跡
22	上大曽北Ⅰ遺跡	平安	散布地	-7	鹿ノ狐塚古墳	-	-	112	寺東（中村城南Ⅰ）遺跡	古代～中世	集落跡
23	上大曽北Ⅱ遺跡	古代	散布地	61	南鹿遺跡	古墳～古代	散布地	113	寺内北遺跡	古代～中世	集落跡
24	上大曽東遺跡	奈良	散布地	62	西鹿遺跡	古墳～古代	散布地	114	中村大塚古墳群	古墳（後）	古墳群
25	上大曽古墳群	古墳群(後)	2基	63	神ノ東塚古墳	-	墳墓（推定位置）	115	宿中天神山古墳群	古墳（後）	古墳群
-1	上大曽1号墳	-	前方後円墳	64	因ノ塚古墳	-	墳墓（推定位置）	-1	天神山1号墳	-	-
-2	上大曽2号墳	-	不明	65	上物井遺跡	古墳～古代	散布地	-2	天神山2号墳	-	前方後円墳
26	炭焼古墳	古墳（後）	円墳か	66	十三塚古墳群	古墳（後～後）	墳墓（推定位置）	-3	天神山3号墳	-	前方後円墳
27	堀ノ内古墳	古墳（後）	不明（推定位置）	67	小櫛沢東遺跡	古墳～古代	散布地	116	若旅富士山古墳群	古墳（後）	4基(現存)
28	鹿島内古墳	古墳（後）	円墳か	68	御本新遺跡	古墳～古代	散布地	-1	星の宮神社古墳	-	前方後円墳
29	椋本古墳	古墳（後）	円墳か	69	物井山ノ崎古墳群	古墳（後）	墳墓（推定位置）	-2	星の宮神社西古墳	-	円墳
30	下大曽A・B遺跡	古墳・平安	散布地	70	西物井遺跡	旧石器・縄文・古墳～近世	古墳・集落跡	-3	富士山古墳	-	円墳
31	久下田中南遺跡	平安	散布地	71	谷近東遺跡	縄文	散布地	-4	大日塚古墳	-	前方後円墳
32	長島北A遺跡	縄・弥生・平安	散布地	72	谷近西遺跡	縄文・古墳～近代	散布地	-5	観塚古墳	-	-
33	長島北B遺跡	古墳・平安	散布地	73	中内遺跡	縄文	集落跡	117	御堂廻り遺跡	古代～中世	寺院跡
34	蟹が入遺跡	縄（中・後）・近代	集落跡・散布地	74	小島遺跡	古墳～古代	散布地	118	光明寺向（石島Ⅱ）遺跡	古墳	集落跡
35	長島Ⅰ遺跡	古墳	散布地	75	小島南遺跡	古墳～古代	散布地	119	岡本堀東古墳	古墳	古墳か（一部破壊）
36	長島Ⅱ遺跡	古墳～古代	散布地	76	柿の木遺跡	古墳～古代	散布地	120	愛鬼所南遺跡	古代・古墳	集落跡
37	久下田小西遺跡	古代	散布地	77	蜂高前遺跡	古墳～近世	集落跡	A	桜町陣屋跡	近世	役所跡
38	長島南遺跡	古墳（前）	散布地	78	蜂高北遺跡	縄文・古墳～近世	散布地	B	蜂高城跡	-	-
39	程島北遺跡	弥生～古代	散布地	79	桜町遺跡	縄文・古墳～近代	散布地	C	厚木城跡	-	-
40	神明神社北遺跡	古墳～古代	散布地	80	上沖遺跡	古墳～古代	散布地	D	平石館（殿館）跡	-	-
41	神明神社東遺跡	古墳～古代	散布地	81	厚木遺跡	古墳～古代	散布地	E	大曽城跡	-	-
42	程島東Ⅰ遺跡	古代	散布地	82	鶴山遺跡	旧石器・縄文	散布地	F	長沼城（鶴着城）跡	弥生・古墳・平安・中世・近世	城館跡・集落跡
43	程島東Ⅱ遺跡	古墳（前）	散布地	83	一ツ橋遺跡	縄文・古墳～近代	集落跡	G	中村城跡	中世	城館跡
44	境Ⅰ遺跡	縄（前）～古代	集落跡か	84	沼尻八幡山古墳	古墳（後）	円墳	H	芳賀城（芳賀城・鳥ヶ谷城）跡	中世	城館跡
45	境Ⅱ遺跡	古代	集落跡	85	城内遺跡	旧石器・縄文	集落跡	I	八木岡城跡	中世	城館跡
46	境Ⅲ遺跡	縄（前）～古代	集落跡	86	城内北B遺跡	縄文	散布地	J	茅場前屋敷	中世	城館跡
47	古山遺跡	古墳	集落跡	87	鷲谷遺跡（旧八岡遺跡・鷲谷遺跡）	縄文・弥生・古墳	集落跡	K	大日岡（河道岡・生子城）跡	中世	城館跡

第３章　くるま橋遺跡の発掘調査

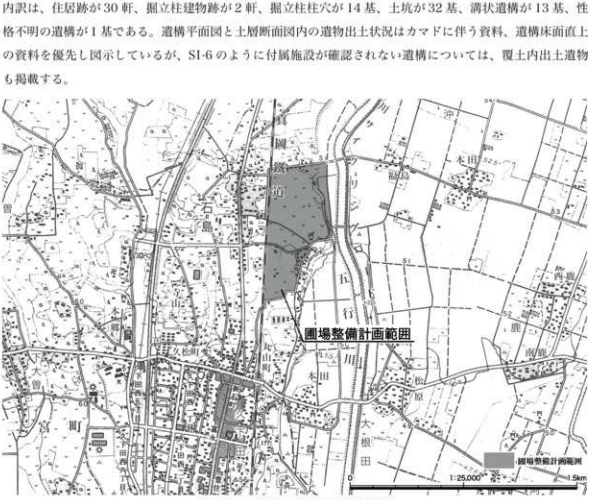
第１節　発掘調査の概要

くるま橋遺跡の発掘調査は水路幅内で行い、記録保存を目的として総面積 1080 ㎡を調査した。調査地の位置と発掘調査地点については第４図・第５図にて示す 。

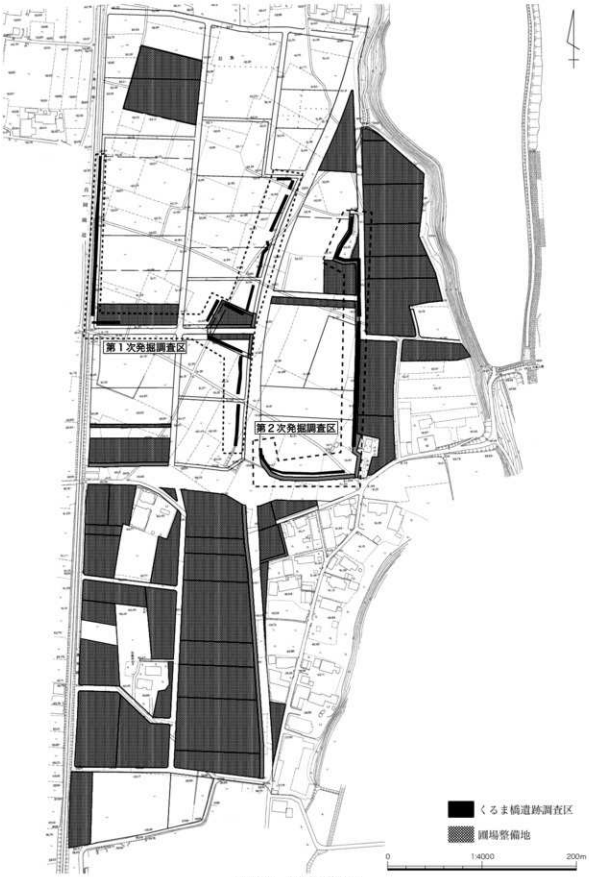
発掘調査では畑地の出入り口などで調査不可能な箇所もあり、分断された区画に任意の番号を割り振り各調査区とした（第６図）。第１次調査では１～13 区の調査区、面積にして 625 ㎡を調査し、第２次調査では第１次調査の続きとして 14 ～ 16 区に調査区を設定した。調査面積は 455 ㎡である。確認・調査した遺構は総数 124 基である。内訳は、古墳１基、住居跡 56 軒、掘立柱建物２軒、掘立柱柱穴 14 基、土坑 37 基、溝状遺構 13 基、性格不明１基である。

第２節　第１次調査　発見された遺構と遺物

平成 24 年度の第１次調査にて確認した遺構と出土遺物については、区画ごとに報告する。また、遺構に伴わない遺物は調査区の一括遺物として報告する。第１次調査で確認された遺構は総数 92 基であり、その内訳は、住居跡が 30 軒、掘立柱建物跡が２軒、掘立柱柱穴が 14 基、土坑が 32 基、溝状遺構が 13 基、性格不明の遺構が１基である。遺構平面図と土層断面図内の遺物出土状況はカマドに伴う資料、遺構床面直上の資料を優先し図示しているが、SI-6 のように付属施設が確認されない遺構については、覆土内出土遺物も掲載する。



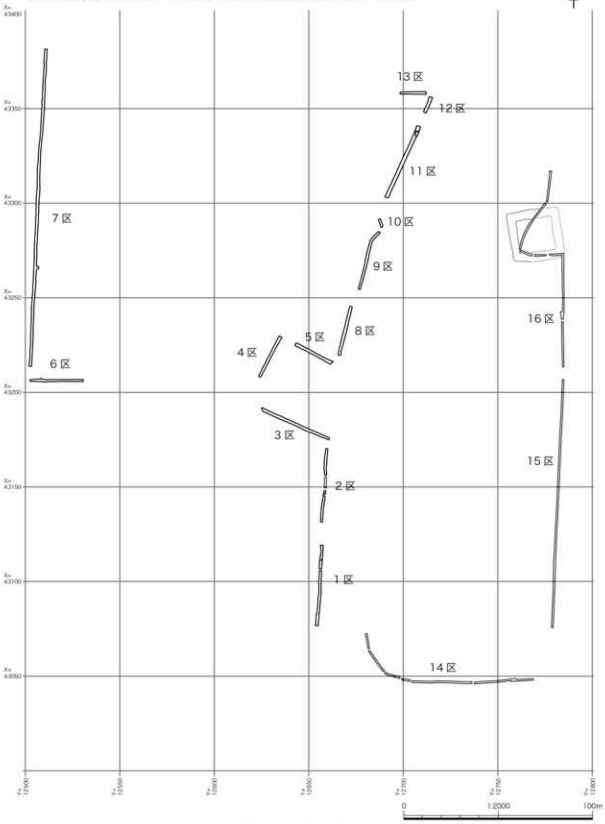
第４図　石島地区事業計画範囲地図



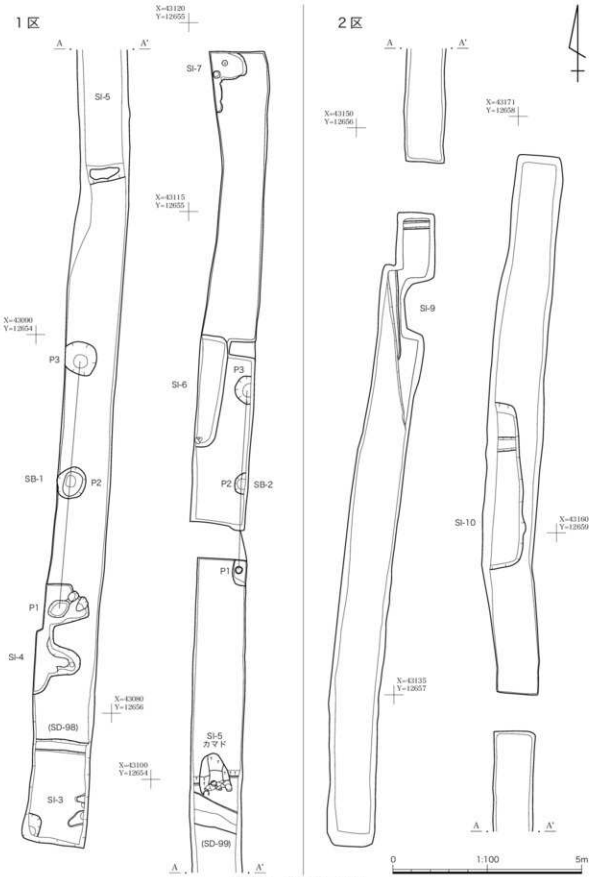
第５図　発掘調査箇所

くるま橋遺跡全体図

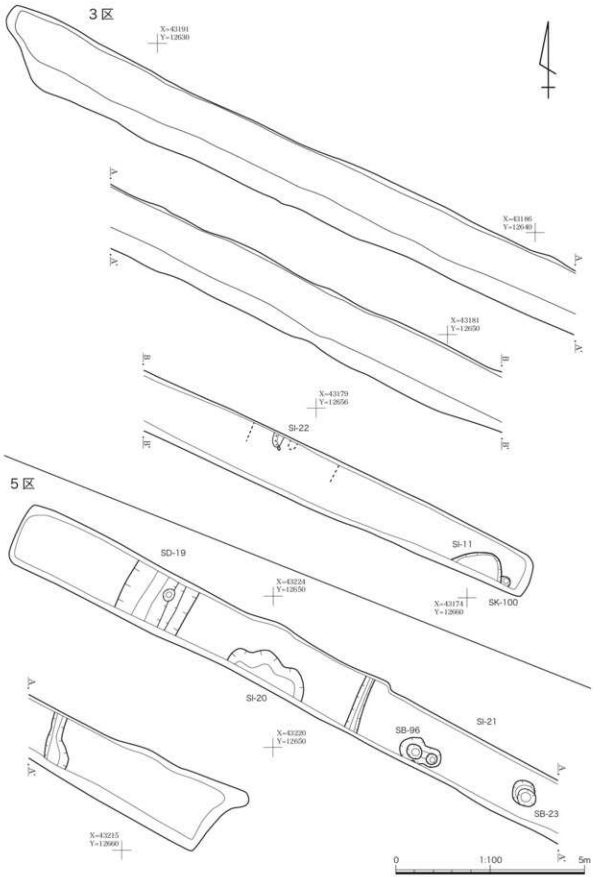
第１次発掘調査区（１～13 区）・第２次発掘調査区（14～16 区）



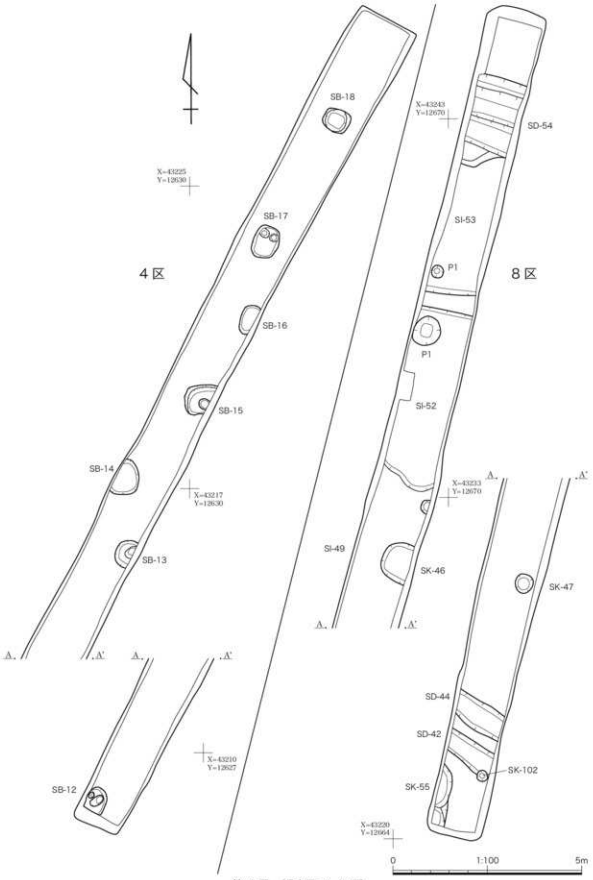
第６図　調査区全体図


1区
2区
A
A'
SI-5
SI-7
SI-6
SI-4
SI-3
SI-9
SI-10
P1
P2
P3
SB-1
SB-2
(SD-98)
(SD-99)
SI-5
カマド
X=43120
Y=12655
X=43115
Y=12655
X=43090
Y=12654
X=43080
Y=12656
X=43100
Y=12654
X=43150
Y=12656
X=43171
Y=12658
X=43160
Y=12659
X=43135
Y=12657
0
1:100
5m

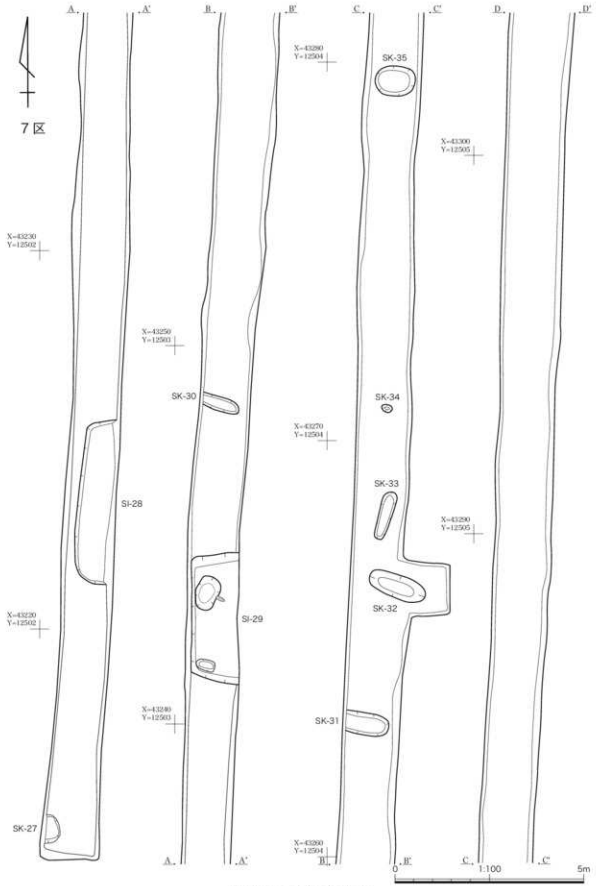
第７図　調査区１・２区


3区
X=43191
Y=12630
X=43186
Y=12640
X=43181
Y=12650
X=43179
Y=12656
SI-22
5区
SI-11
SD-19
X=43224
Y=12650
X=43174
Y=12660
SK-100
SI-20
SI-21
X=43220
Y=12650
SB-96
SB-23
X=43215
Y=12660
0
1:100
5m

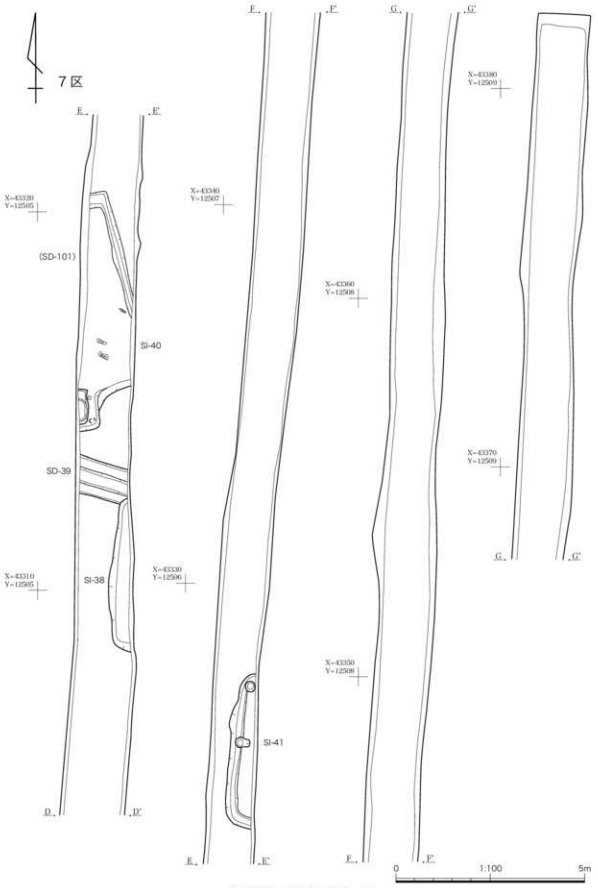
第８図　調査区３・５区


4区
8区
SB-18
SB-17
SB-16
SB-15
SB-14
SB-13
SB-12
SD-54
SI-53
P1
P1
SI-52
SI-49
SK-46
SK-47
SD-44
SD-42
SK-102
SK-55
X=43225
Y=12630
X=43217
Y=12630
X=43210
Y=12627
X=43243
Y=12670
X=43233
Y=12670
X=43220
Y=12664
A
A'
0
1:100
5m

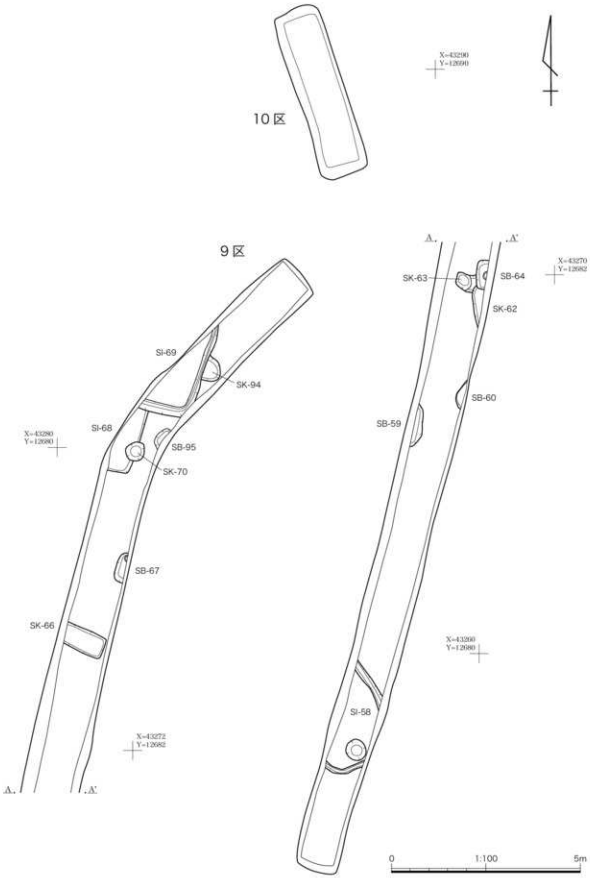
第９図　調査区４・８区


7区
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
X=43280
Y=12504
SK-35
X=43300
Y=12505
X=43230
Y=12502
X=43250
Y=12503
SK-30
SK-34
X=43270
Y=12504
SK-33
SI-28
X=43290
Y=12505
SK-32
SI-29
X=43220
Y=12502
X=43240
Y=12503
SK-31
SK-27
X=43260
Y=12504
B'
C
C'
0
1:100
5m

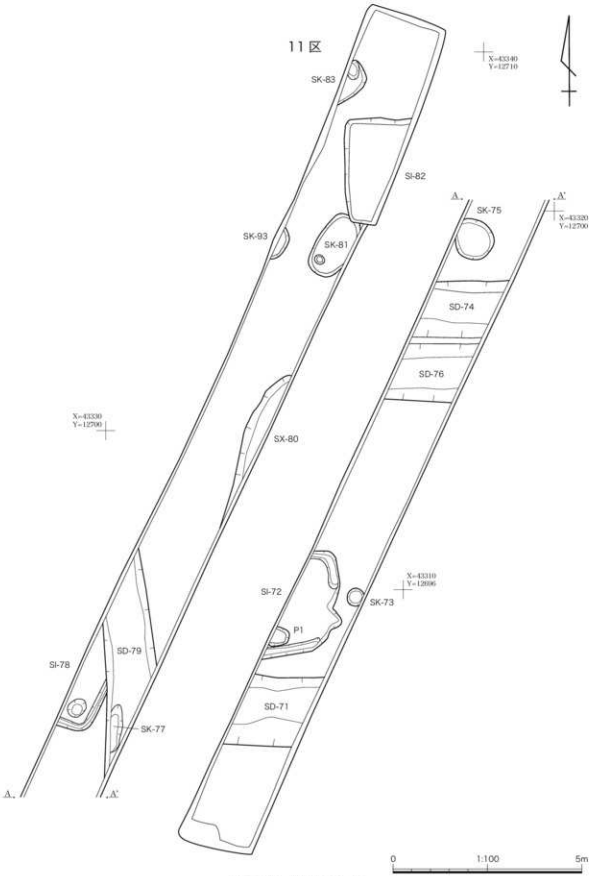
第10図　調査区７区・南


7区
E
E'
F
F'
G
G'
X=43320
Y=12505
X=43340
Y=12507
X=43360
Y=12508
X=43380
Y=12509
(SD-101)
SI-40
SD-39
SI-38
X=43310
Y=12505
X=43330
Y=12506
X=43350
Y=12508
X=43370
Y=12509
SI-41
D
D'
0
1:100
5m

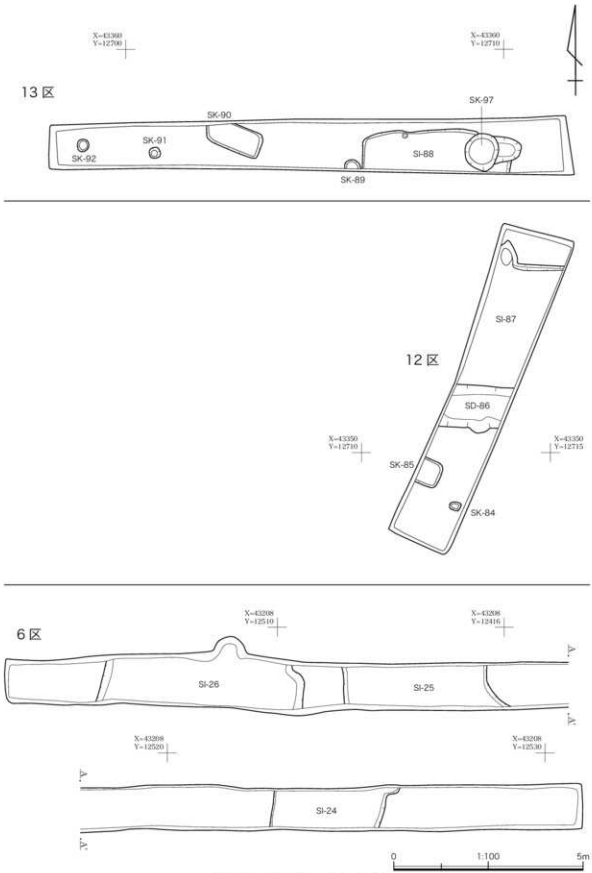
第 11 図　調査区７区・北



第12図　調査区９・10区


11 区
X=43340
Y=12710
SK-83
SI-82
SK-93
SK-81
SK-75
A
A'
X=43320
Y=12700
SD-74
SD-76
X=43330
Y=12700
SX-80
SI-72
X=43310
Y=12690
SK-73
P1
SI-78
SD-79
SD-71
SK-77
A
A'
0
1:100
5m

第 13 図　調査区 11 区



第 14 図　調査区６・12・13 区

１．１区

１区は調査範囲の南側に位置し東西は幅約 1.5m で南北は約 43m の長軸を測る調査区である。１区では住居跡が５軒、掘立柱建物跡が２軒、溝状遺構が２基確認された。

SI-3（第７・15・33・40 図、第２表、図版二・一六・二〇）

位置：１区南端に位置し、カマドを有する住居跡である。　**重複遺構：**SD-98 に北壁を切られている。

規模と形状：大半が調査区外へと続くため不明である。主軸の正確な角度は不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。５層にはカマドの構築材として使用された粘土の粒子や焼土粒がみられ、カマド自体が倒壊あるいは破壊されたと考えられる。　**カマド：**カマドは、調査区外に煙道から火床部付近までの大半が続くため、住居跡同様に規模と形状等は不明である。かろうじて確認されたカマドの袖部と火床部から土製支脚が２点出土したが、被熱により著しく脆い。支脚の片方はカマドの構築材に転用されたか、あるいは２連式カマドであった可能性も考えられる。A－A’ラインの２層・３層がカマドを構築した粘土であり、B－B’ラインで確認した１層はカマド天井部の一部と考えられるが、含有物から煙道部・火床部内の堆積物も含む土層であろう。　**その他：**SI-3 住居跡南西側に土坑が確認された。遺構確認面から土坑のプランは確認されず、SI-3 覆土除去後に確認され、新旧関係や住居跡に付随する遺構であるかは不明である。土坑から出土遺物は無く、時期・用途不明の遺構である。

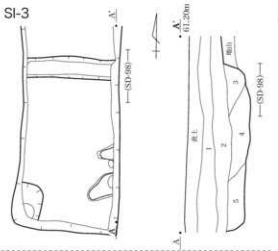
遺物：出土遺物のうち図示し得たのは、土師器坏１点、高台付坏２点、かわらけ１点、鉄製品１点である（第 33・40 図）。１の高台付坏は口縁部が広く開き、やや外反する。口縁部外面の一部には非常に浅い凹線があるが、部位によって凹線は認められないため意図的に施した可能性は低いだろう。被熱により内面が赤色に変色し一部が摩滅しているが、ミガキを確認できた。高台接合部付近ではケズリによる調整を行った後に高台をつけているのが確認できる。高台は粗雑な作りで、端部が外反し段状を呈している。２は内面に精緻なミガキを施し黒色処理を施した坏である。外面はヨコナデにより成形されているが、体部下部にはケズリの痕跡が僅かばかり認められるため、底部はケズリによって整えられていたと思われる。３のかわらけは皿状で底部には糸切り痕が残存し、外面の一部に黒斑が認められる。後世の流入である。４は内面底部に緻密な格子状のミガキをもつ高台付坏であり、内面は黒色処理されている。外面はヨコナデにより成形されているが、底部はヘラ切り痕が残存している。また、４は SI-4 の坏と接合関係にある。　**時期：**SI-3 は出土遺物から９世紀後半～ 10 世紀初頭と考えられる。

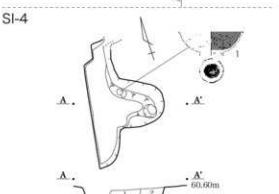
SD-98（第７・15 図、図版二）

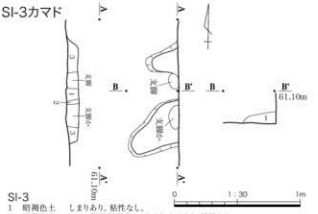
位置：SI-3 の埋没後に構築された溝状遺構。　**規模と形状：**平面形は不明。土層断面図から復元した幅は 88cm で、深度は 32cm と広く浅い溝であったと考えられるが、全体の規模と形状は不明である。

SI-4（第７・15・33 図、第３表、図版三・一六）

位置：SI-4 は１区南側 SI-3 から北へ約 1.7 m の地点に位置する住居跡である。　**重複遺構：**SI-4 の一部を SB-1-P1 が切っている。　**規模と形状：**SI-4 は調査区外へと続いているため、全体の規模と形状や付属施設等はカマド以外不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。　**カマド：**カマドは SI-4 の東壁に付設されており、長軸方向はN－80°–Wである。長軸は残存部で 90cm を計測する。短軸は 80cm を計り、上部は削平され袖部もほぼ残存しておらず、カマドを構築していた粘土などは確認出来なかった。袖部の粘土が確認されなかったことと住居跡覆土内にて粘土のブロックや粒子がみられなかったことから、SI-4 埋没時にカマドは解体されていた可能性がある。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏１点である。１は高台付坏である。外面はケズリによって体部上半まで成形した後、ミガキを全体に施してい







SI-3

1　暗褐色土　しまりあり，粘性なし。
2　暗褐色土　ローム微粒微量含む，しまりややあり，粘性なし。
3　暗褐色土　ローム粒少量，焼土微粒微量含む，しまりややなし，粘性なし。
4　褐色土　ローム粒多量含む，しまりややあり，粘性なし。
5　褐色土　焼土粒・ローム粒少量，白色粒やや少量含む，しまりややあり，粘性あり。

SI-3カマド

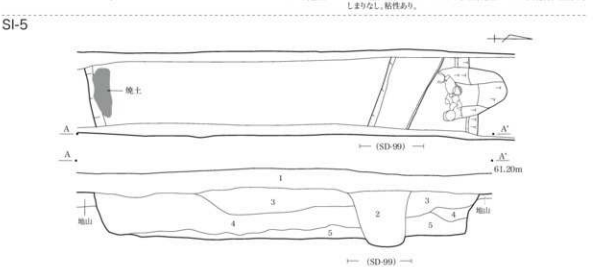
1　灰褐色土　白色粘土粒少量，焼土ブロック微量含む，しまりなし，粘性ややあり。
2　灰色粘土　褐色土少量含む，しまりややなし，粘性あり，袖。
3　灰褐色粘土　焼土粒微量含む，しまりややあり，粘性あり。

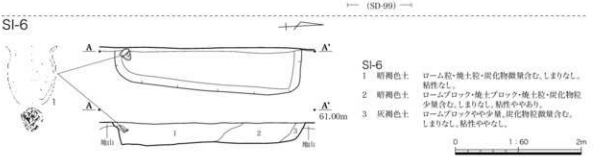
SI-4

1　褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む，しまりなし，粘性なし，覆土。
2　橙色粘土　焼土主体，灰色粘土粒・褐色土ブロック少量含む，しまりなし，粘性なし，燃焼石舟。
3　乳白色粘土　焼土ブロックやや多量含む，ブリッジの崩落土と火床土，しまりなし，粘性あり。
4　明褐色土　ローム粒・焼土粒・乳白色粘土粒少量，焼土ブロック微量含む，しまりややなし，粘性ややなし，燃焼痕入土。

SI-5

1　暗褐色土　ローム粒やや少量，焼土粒微量含む，しまりあり，粘性なし，表土。
2　褐色土　ローム粒やや多量，ロームブロックやや多量含む，しまりなし，粘性なし。
3　褐色土　ローム粒多量，焼土粒微量含む，しまりややなし，粘性なし。
4　暗褐色土　ローム粒やや多量，焼土粒少量含む，しまりややなし，粘性なし。
5　褐色土　ローム粒多量，ロームブロックやや少量，焼土ブロック・炭化物少量含む，しまりなし，粘性あり。





SI-6

1　暗褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物微量含む，しまりなし，粘性なし。
2　暗褐色土　ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒・炭化物粒少量含む，しまりなし，粘性ややあり。
3　灰褐色土　ロームブロックやや少量，炭化物粒微量含む，しまりなし，粘性ややなし。

第15図　1区SI-3～6実測図

る。ミガキは所々ミガキ残しがみられ、全体の印象では横位の縞状を呈しているように見える。底部内面ではミガキの方向は一方向に統一されている。高台はやや粗雑なつくりで、端部が外反する。また、高台部の破断面に植物繊維が混入していた痕跡がある。　**時期：**出土遺物から10世紀初頭と考えられる。

SI-5（第7・15・16・33・39図、第4・37表、図版三・一六・二〇・二一）

位置：SI-5は1区のほぼ中央に位置するカマドをもつ住居跡である。　**重複遺構：**SD-99が本住居跡を東西に切る。　**規模と形状：**調査区外へと遺構が続くため、全体の規模は不明だが、北壁と南壁の距離が約6.2 mあるため、一辺が約6 m前後の住居跡と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

カマド：カマドの主軸はN－5°－Wである。長軸約1 m、短軸80cmを測る。煙道は床面と壁面の境界から緩やかに立ち上がる。袖部には複数の土師器甕を用いており、これらの甕は底部付近が損壊している。煮沸具として機能しないためカマド構築材として再利用されたと考えられる。損壊した甕はカマド中央の火床部床面にも確認されているが、この甕は袖に転用されている甕と異なり底部から体部は完全に消失している。僅かに口縁部から頸部が残存しているが、被熱によるためかひどく脆い。この甕は倒位で口縁部が火床部にやや埋設された状態で出土しており、出土位置と出土状況から判断して、甕転用支脚とみて間違いないだろう。また、1点のみ残存状況の良好な甕がカマド内から出土している。この甕は他の転用甕と比較して薄手の器壁をもつ長胴甕で、口縁部から体部の一部にススが付着している。底部の一部を除けば口縁部から底部まで残存している。出土位置は甕転用支脚の上位で、カマドのブリッジが崩落して形成された6層の直上から面的に出土している。この甕の出土位置と残存状況から、SI-5を廃棄するまで煮沸容器として用いられていた甕とみて間違い無いだろう。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得たのは、土師器甕が8点・土師器坏が3点・縄文土器片が1点・砥石が1点・編物石が1点の合計14点である（第33・39図）。

1はカマドの中央から出土した甕で、甕転用支脚の上部から出土した。口縁部はくの字に外反し、口唇部直下をやや窪むようヨコナデを施している。器面外面は上から下方向へ縦位のケズリが施され、内面は横位のヘラナデが行われている。2はカマド構築材に転用された甕である。口縁部をくの字に外反させ、内外にはヨコナデを行っている。体部外面は全体的に縦位のケズリを施し、ケズリは上から下へ施されているが、底部～体部下半付近では横位にケズリ整えている。外面にイネ科植物と思われる種子圧痕が確認された。

3は土師器甕である。くの字状に屈曲する口縁部をもちヨコナデにより整形している。内面は横位のヘラナデにより整えられ、外面はヘラナデにより整形している。外面に黒斑がみられる。4はカマド構築材に転用された甕である。内面はヘラナデにより成形され、若干ハケメ様の痕跡を残している。外面は上から下へとケズリが施され、部分的にケズリの方向は逆になる。5はカマドの構築材に使用された甕である。内外共にヨコナデによって整形されている。器面外面は縦位のケズリによって整形している。ケズリの方向は上から下へ施しているが、部分的に逆になる。ケズリの切り合い関係から上からのケズリは、下からのケズリの後に行われたとみられる。内面は横位ヘラナデで整形している。部分的にうっすらとススが付着している。

7は甕転用支脚である。倒位状態で出土し、火熱により摩耗しているが埋設されていた口縁部の一部が残存していた。残存部位からこの甕は弱く外反する口縁で外面は乱調なナデにより整形されている。外面は粘土紐の痕跡が確認できる。9は土師器坏である。垂直に短く立ち上がる口縁部をもち、内外はヨコナデにより整形されている。また、口縁部の内面側は中央にやや膨らみをもち、口唇部に近づくにつれて小さくなる。器面外面に稜があり、稜より下の坏外面はケズリによって整形されている。10は土師器坏である。口縁部は短く内傾した後にやや外反し立ち上がる。外面底部はケズリによって成形し、口縁部は内外供にヨコナデである。内面は底部付近では摩滅が激しく調整は殆ど残存していないが、一部にミガキの痕跡が認められる。

また、内面には漆の痕跡が若干残る。14はカマド付近で出土した縄文土器片である。　**その他：**南壁面付近から焼土が確認された、住居跡床面に被熱等の痕跡が無いため、南壁付近へ人為的に焼土が運ばれた可能性がある。　**時期：**出土遺物から７世紀頃と考えられる。

SD-99（第７・15図）

位置：１区ほぼ中央に位置し、SI-5の埋没後に構築された。　**重複遺構：**SI-5を切っている。　**規模と形状：**土層断面と溝下部の形状からおよそ断面長方形で細長い溝状遺構であったと考えられる。　**覆土：**堆積土が１層で含有物にロームブロック・粒子などを多量含むことから人為的な埋没の可能性がある。

SI-6（第７・15・34図、第５表、図版三・一六）

位置：SI-6は１区北壁から南へ約8.5ｍの地点に位置する住居跡である。　**規模と形状：**遺構は調査区外へと続くため全容は不明だが、南北壁の距離が約３ｍであり住居の隅が丸いことから、一辺約３ｍ前後の隅丸方形の住居と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得たのは、覆土中出土の土師器坏１点、土師器甕１点の合計２点である（第34図）。１は床面から23cmの高さより出土した甕である。全体的に粗雑で胎土中の砂粒も大きい。内外供にナデによる調整が確認出来たが、体部内面にはヘラナデによる痕跡も認められた。また、SB-2-P2覆土出土の破片と接合し、両者の埋没時期は近似していると推察される。２の坏は内面にミガキと赤彩が確認された。底部は糸切り離しの痕跡があり、ヘラナデで丁寧に整えられている。口縁部内面の一部にススが付着しており灯明皿として用いられたと考えられる。

SI-7（第７・16・34図、第６表、図版三・一七）

位置：SI-7は１区北端に位置する住居跡である。　**規模と形状：**住居跡の大半が調査区外へ続くため、住居の規模は不明である。付属施設はカマドが確認されている。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

カマド：カマド主軸は東西方向で、調査区外へ続くため短軸・長軸は不明である。また、カマド上部は削平されており、煙りだしの周囲は残存していない。煙道の立ち上がりから、煙道は比較的垂直に近いものであった可能性が高い。カマドの天井部や崩落土、そして煙道内流入土の堆積状況からカマド廃棄時は、形状を保っており煙道内に流入土が堆積したと考えられる。火床部中央に倒位状態で土師器壺が埋設されており、出土位置と器面外面に広範囲に亘る火熱の痕跡から、支脚として用いられていた事がわかる。焚口付近に深度約10cmのピットがある。ピットは遺構外へと続いているため全体の形状は不明である。

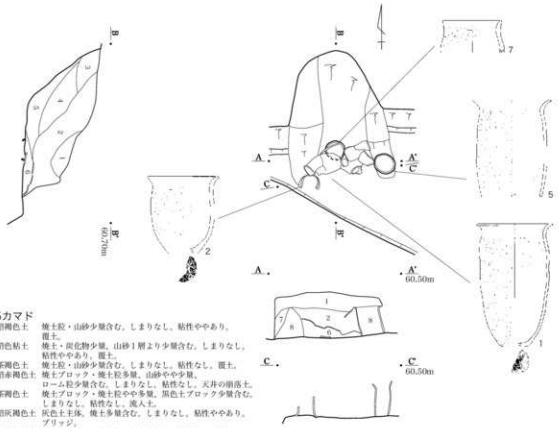
遺物：出土遺物は土師器甕が６点出土し、そのうち残存が良好な３点を図示した（第34図）。１の甕は火床部から倒位状態で出土した土師器甕である。内面はヘラナデ・ヘラケズリにより調整、整形されていた。外面は一部にミガキがみられる以外はナデ・ケズリによる調整、整形が施されている。２の甕は口縁部～体部の一部のみしか残存していないが、内外共にナデ・ケズリによる調整、整形が確認できた。２の甕も口縁部にやや降起の浅い受口をもつ甕である。３は口縁部が欠損した甕である。全体的に被熱を受け脆くなっている。残存部では、体部内面にヘラナデが施され、外面底部付近では縦位のミガキが確かにみられる。体部に対して底部が比較的小さい。下野型の甕と推察される。　**時期：**火床部出土の甕からおよそ８世紀中葉と考えられる。

SB-1（第７・17・18図、第36表、図版二・二〇）

位置：SB-1は１区南側にて確認した掘立柱建物で、柱穴が３基確認できた。　**重複遺構：**SI-4の一部を切る。

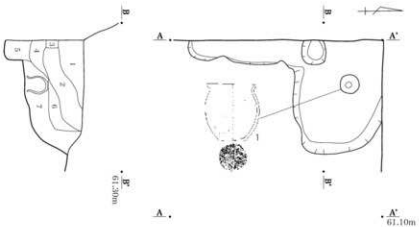
規模と形状：調査区外へ遺構が続くため全体の規模と形状は不明であるが、各柱の距離は約3.4ｍ間隔であり、南北の柱穴列は全体で７ｍ前後の長さがあったと推測される。　**遺物：**出土遺物はSB-1-P1から土師器・

SI-5カマド



SI-5カマド
1　暗褐色土　焼土粒・山砂少量含む。しまりなし。粘性ややあり。覆土。
2　暗色粘土　焼土・炭化物少量。山砂１層より少量含む。しまりなし。粘性ややあり。覆土。
3　茶褐色土　焼土粒・山砂少量含む。しまりなし。粘性なし。覆土。
4　暗赤褐色土　焼土ブロック・焼土粒多量。山砂やや少量。ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。天井の崩落土。
5　茶褐色土　焼土ブロック・焼土粒やや多量。黒色土ブロック少量含む。しまりなし。粘性なし。流入土。
6　暗灰褐色土　灰色土主体。焼土多量含む。しまりなし。粘性ややあり。ブロック。
7　灰褐色土　褐色粘土ブロック含む。しまりなし。粘性なし。袖。
8　褐色土　焼土粒やや多量含む。しまりなし。粘性なし。袖。

SI-7カマド

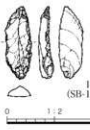


SI-7カマド
1　暗黄褐色土　黄褐色粘土多量。焼土粒少量含む。しまりあり。粘性なし。流入土。
2　黄褐色粘質土　粘土主体。黒褐色土粒・焼土粒少量含む。しまりあり。粘性なし。天井。
3　暗橙褐色土　粘土と焼土の混合。黒褐色土粒やや少量含む。しまりなし。粘性なし。天井。
4　暗褐色土　黒褐色土ブロック主体。粘土・焼土粒少量含む。しまりなし。粘性なし。堆積流入土。
5　黄褐色粘質土　粘土主体。褐色土少量。焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。崩落土。
6　暗橙褐色土　焼土多量。黄褐色粘土やや多量含む。しまりなし。粘性ややあり。
7　褐色土　焼土粒・炭化物粒少量含む。しまりなし。粘性ややあり。焚口ピット。
8　褐色土　焼土粒・粘土やや少量含む。しまりなし。粘性ややなし。
9　黄褐色粘土　粘土からなる。しまりあり。粘性ややあり。袖。

第 16 図　１区 SI-5 カマド・SI-7 カマド実測図

須恵器の小破片とナイフ形石器が1点出土しているが、本遺構との関連は不明である。

以下はSB-1にて確認された柱穴の詳細である。



第17図　SB-1遺物実測図

SB-1-P1（第7・17・18図、第36表、図版二・二〇）

位置：SB-1-P1は調査区南に位置する柱穴である。　**規模と形状：**調査区外へ続くため全体の規模は不明だが、確認できる平面形は不整形である。小ピットが隣接するが、本柱穴との関連は不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。2層はSI-4の埋土であり、本遺構はその一部を削平している。　**柱：**最大深度は80cmを計測し、柱痕は不鮮明であるが柱のアタリ痕を確認でき、その直径は約30cmであった。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得たのは、ナイフ形石器1点である（第17図）。他に土師器・須恵器の小破片が出土したが図示し得なかった。ナイフ形石器は珪質頁岩製で覆土中出土で本柱穴との関連は不明。後期旧石器時代のものと思われる。

SB-1-P2（第7・18図、図版二）

位置：SB-1-P1から北へ約3.4 mの地点に位置している。　**規模と形状：**平面形は不整形ながらもほぼ楕円形で、短軸76cm・長軸88cmを計測し、深度は約90cmを計測する。断面形はU字形を呈す。　**覆土：**自然堆積による埋没過程、残存する柱痕と柱の裏込め土の状況を確認した。　**柱：**遺構底部に柱痕とみられる1層があるが、堆積土内にロームブロック・ローム粒を多量に含む明褐色土であり、抜根時の流入土の可能性もあるので柱の復元には至らなかった。　**遺物：**出土遺物は土師器、須恵器、粘土塊の小破片で、図示し得ないと判断した。

SB-1-P3（第7・18図、図版二）

位置：SB-1-P2から北へ約3.4 m離れた地点に位置している。　**規模と形状：**柱穴の一部が調査区外へと続くが、平面形は不整円形であると考えられる。短軸88cm・長軸約1 mを計測し、長軸方向は北西に傾く。深度は約84cmを計測する。断面形はやや歪なU字形の断面を呈す。　**覆土：**自然堆積による埋没過程、残存する柱痕と柱の裏込め土の状況を確認した。　**柱：**遺構下部に柱痕が残存しているが、SB-1-P2同様に流入土の可能性がある。

SB-2（第7・18・40図、第38表、図版二・二〇）

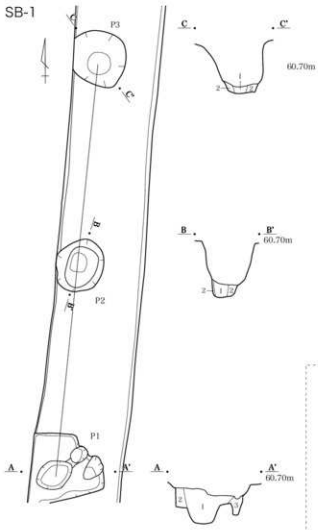
位置：1区北側にて確認した掘立柱建物で、3本の柱穴列が確認出来た。　**規模と形状：**一部を除き調査区外へと遺構が続いていると考えられるため、掘立柱建物全体の規模と形状は不明であるが、各柱の距離は約2.5 mで、南北の柱穴列の長さは5 m前後であったと推測される。　**遺物：**出土遺物はSB-2-P2から鉄片が1点出土している。以下はSB-2にて確認された柱穴の詳細である。

SB-2-P1（第7・18図、図版二）

位置：1区中央からやや北側の地点に位置している。　**規模と形状：**柱穴の一部が調査区外へと続くため全体の規模と形状は不明であるが、柱痕の位置から推測するに長方形に近い平面形であったと思われる。柱穴の深度は64cmを計測し、断面形は長方形である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程と柱痕と裏込め土の状況も観察できた。3層が柱痕で4～7層までが裏込め土である。　**柱：**柱痕が残存するが、ロームを多量に含むため流入土が混入している可能性が高い。

SB-2-P2（第7・18・40図、第38表、図版二・二〇）

位置：SB-2-P1から北へ約2.3 mの地点に位置している。　**規模と形状：**SB-2-P1同様に一部が調査区



SB-1

P3

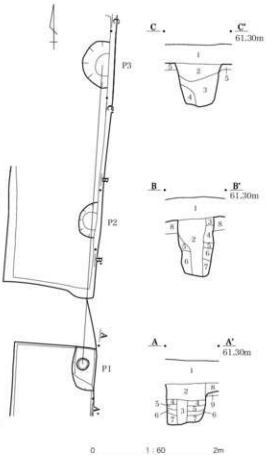
1　褐色土　ローム粒やや少量含む。しまりなし。粘性あり。柱痕。
2　明褐色土　ローム・ブロック・ローム粒多量含む。しまりややなし。粘性あり。

P2

1　明褐色土　ローム・ブロック・ローム粒多量含む。しまりなし。粘性ややあり。柱痕。
2　褐色土　ローム粒やや少量含む。しまりなし。粘性ややなし。

P1

1　暗褐色土　ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
2　暗褐色土　ローム粒やや多量含む。しまりなし。粘性なし。SI-4関土。
3　褐色土　ローム・ブロック・ローム粒やや多量含む。しまりあり。粘性なし。



SB-2

P3

1　暗褐色土　ローム粒微量含む。しまりあり。粘性なし。表土。
2　明褐色土　ローム粒多量含む。しまりややあり。粘性なし。
3　褐色土　ローム粒をブロック状にややや少量、ローム・ブロック微量含む。しまりややあり。粘性なし。柱痕。
4　明褐色土　ローム・ブロック主体。しまりなし。粘性なし。
5　褐色土　地山。

P2

1　暗褐色土　しまりあり。粘性なし。表土。
2　褐色土　ローム粒やや多量、暗褐色土ブロック少量含む。しまりややあり。粘性なし。柱痕。
3　褐色土　ローム粒少量含む。しまりややあり。粘性なし。
4　明褐色土　ローム・ブロック・ローム粒多量含む。しまりあり。粘性なし。
5　明褐色土　ローム粒少量含む。しまりなし。粘性あり。
6　褐色土　ローム粒やや多量含む。しまりなし。粘性あり。
7　暗褐色土　ローム・ブロック少量含む。しまりなし。粘性あり。
8　褐色土　地山。

P1

1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　暗褐色土　ローム粒やや少量、ローム・ブロック微量含む。しまりややあり。粘性なし。
3　暗褐色土　ローム・やや多量含む。しまりややなし。粘性なし。柱痕。
4　暗褐色土　黒褐色土ブロック・ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
5　褐色土　ローム粒多量、黒褐色土微量含む。しまりややあり。粘性なし。
6　褐色土　5層よりもローム粒少ない。しまりなし。粘性なし。
7　明褐色土　ローム・ブロック多量、黒褐色土ブロック少量含む。しまりややなし。粘性なし。
8　暗褐色土　ローム粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
9　褐色土　しまりややなし。粘性ややあり。地山。

第18図　１区SB-1・2実測図

外へ続くため、全体の規模と形状は不明である。柱穴の深度は１mを計測し、断面形は長方形である。

覆土：自然堆積による埋没過程と柱痕と裏込め土の状況も観察でき、２層が柱痕で３層～７層が裏込め土である。　**柱：**柱痕は残存するが、ローム粒を多量に含むことと、２層上位の断面形から抜根と考え柱の復元は行わなかった。　**遺物：**出土遺物は鉄製品が１点出土している（第 40 図）。縦長な台形で薄く平たい鉄片である。

SB-2-P3（第７・18 図、図版二）

位置：SB-2-P2 から北へ約 2.5 mの地点に位置している。　**規模と形状：**SB-2-P1・SB-2-P2 同様に遺構が調査区外へ続くため全体の規模と形状は不明だが、やや楕円の平面形をしていると考えられる。柱穴の深度は 68cm を計測し、断面形は逆台形状である。　**覆土：**堆積状況と含有物から、４層は柱の裏込め土と思われるが、崩落して現在の堆積になったと考えられる。２層は自然堆積と考えられるが、しまりがありローム粒を多量に含むことから人為的埋土であると思われる。　**柱：**柱痕は３層と思われるが、ロームブロックや粒子を含むことから、柱の復元はしえないと判断した。

２．２区

２区は１区から北へ約 12 mの位置に設定した区画で、東西幅約 1.5 m、南北は約 39 mの長軸を持つ区画である。２区では住居跡が２軒確認されている。

SI-9（第７・19・34 図、第７表、図版四）

位置：２区のほぼ中央部の地点に位置している住居跡である。　**規模と形状：**住居跡の大半が調査区外へ続き、規模形状は不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。　**壁溝：**北壁に壁溝を確認した。壁溝は幅約 20cm・深度約８cm であり、西壁の途中で消える。

遺物：出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏１点である（第 34 図）。１の坏は短くやや内湾し立ち上がる口縁部で外面に稜部をもち丁寧なケズリとナデによって作り出されている。　**時期：**出土した土師器坏から７世紀頃の住居と考えられる。

SI-10（第７・19・34 図、第８表、図版四・一七）

位置：２区中央より北側の地点に位置している住居跡である。　**規模と形状：**本遺構は調査区外へと続き、規模形状は不明だが、南北壁の距離が約５mを計測しているので、恐らく一辺約５m前後の隅丸方形住居跡であったと考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**住居内溝：**住居跡内の一部に溝が確認された。土層断面から住居跡に伴うもので、覆土はロームを多量含み、部分的な貼床や間仕切り溝であった可能性がある（７層）。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得たのは、覆土出土の須恵器３点と土師器１点である（第 34 図）。１は 1/4 が欠損した土師器坏である。緩やかに外反する口縁部を持ち、口縁部内面にはススが付着する部分があり灯明皿として用いられたと考えられる。３は須恵器瓶の肩部片と考えられる。２本１組の沈線が１条と１本の沈線が確認されているが、下部破断面付近にも沈線があるため肩部の変換点にも一条巡っていたと考えられる。　**時期：**出土した土師器坏から７世紀後半～８世紀の住居と考えられる。

３．３区

３区は２区から北へ約５mの位置に設定した区画で、１区・２区に対しほぼ直角に屈曲しており、南北幅約 1.5 mで東西に約 39 mの長軸を持つ区画である。３区では住居跡が２軒、土坑が１基確認されている。

SI-11（第８・19図、図版四）

位置：SI-11 は３区南東端にて確認された住居跡である。　**重複遺構：**SK-100 に切られる。　**規模と形状：**本遺構は調査区外へ続くため、規模形状・付属施設等も不明である。深度は約 80cm を計測し、壁はやや垂直に立ち上がる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**貼床：**床面には貼床がみられる。貼床は厚い地点で約 12cm 薄い地点で約４cm であった。貼床が全体に施されていたか、部分的なものであったかは不明である。　**遺物：**土師器・須恵器の破片資料のみのため図示し得なかった。

SK-100（第８・19図、図版四）

位置：SI-11 埋没後に構築された遺構である。　**重複遺構：**SI-11 の一部を切っている。　**規模と形状：**本遺構の一部は調査区外へと続き、規模と形状は不明である。深度はおよそ 56cm である。　**覆土：自然**堆積による埋没過程を観察できた。３層は柱痕の可能性も考えられる。

SI-22（第８・19図、図版四）

位置：３区南東に位置する住居跡で、SI-11 からおよそ５m南西の地点に位置する。　**規模と形状：**調査区外へと続くため全体の規模と形状は不明である。壁は土層断面から復元して、一辺約 2.5 mの住居跡である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**カマドは袖の一部のみ確認したが、調査区外へと続くため全体の規模と形状は不明である。火床と考えられる焼土範囲の位置と種かに残存する袖部から、主軸は南北方向であったと考えられる。　**遺物：**出土遺物は土師器・須恵器の破片資料が殆どのため図示し得なかった。

４．４区

４区は３区から北へ約 15 mの位置に設定した区画で、１区・２区に対してほぼ平行な区画であり、３区・５区に対してはほぼ直角になっている。３区・４区・５区は俯瞰で確認するとコの字状を呈す。

４区は東西幅約 1.8 mで、南北は約 24.1 mの長軸を持つ区画である。掘立柱建物の柱穴が全部で７基確認されたが、対応関係を特定するに至らなかった。そのため４区の柱穴に関しては各柱穴別に報告する。

SB-12（第９・20図）

位置：４区の南端に位置する掘立柱柱穴である。　**規模と形状：**一部が調査区外へ続くため全体は不明だが残存する範囲から推察するに、北東に長軸方向を持つ楕円形の柱穴と考えられる。　**覆土：**１層が柱痕で周囲の３・４層が裏込め土と判断した。　**柱：**柱痕が残存しているが、遺構下部のアタリ痕が楕円形であることと、柱の痕跡が二箇所あることから柱が建て替えられた可能性がある。

SB-13（第９・20図）

位置：４区中央からやや南に位置する掘立柱柱穴である。　**規模と形状：**一部が調査区外へ続くが、円形に近い平面形であったと考えられる。　**覆土：**１層が柱痕で周囲の２・３・４層が裏込め土である。柱穴の断面形は縦状である。　**柱痕：**柱痕は残存しているが、流入土が混入していると判断し、柱の復元はしなかった。　**遺物：**出土遺物は土師器・須恵器の小破片が少量で図示し得なかった。

SB-14（第９・20・34図、第９表、図版四・一七）

位置：SB-13 から北へ約２mの地点に位置する掘立柱柱穴である。　**規模と形状：**平面形はおよそ円形と思われる。　**覆土：**１層が柱痕で２層が裏込め土である。柱穴の断面形は、下部は平坦で立ち上がりは緩やかだが垂直に近い。　**柱痕：**柱痕が残存しているが、残存部が浅い事とローム粒を含む土層から、流入土の可能性を考慮し柱の復元はしなかった。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得たのは土製品１点のみである（第

34図)。１の土製品は孔のある板状で、器種・用途は共に不明である。また、孔部の状態から、突き抜いたのではなく棒状物に粘土を貼り付けたと考えられる。

SB-15（第９・20図）

位置：SB-15はSB-14から北へ約３ｍの地点に位置する掘立柱柱穴である。　**規模と形状：**一部が調査区外へ続くが、平面は方形ないし長方形と思われる。　**覆土：**１層が柱痕で、周囲の２・３・４層が裏込め土である。柱穴の断面形は遺構下部のアタリ痕を除けば長方形であったと思われる。　**柱：**柱痕が残存するが、一部が遺構外へと続くことや、ローム粒を含む流入土の可能性があるため、柱の復元はしなかった。

SB-16（第９・20図、図版五・二一）

位置：SB-15から北へ約2.5mの地点に位置する掘立柱柱穴である。　**規模と形状：**一部が調査区外へ続くが、平面形は楕円であったと思われる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程と、柱を支えていた周囲の裏込め土を観察できた。遺構断面は、やや丸みを帯びるものの長方形に近い形状である。　**柱：**柱痕は不明瞭である。１層が柱の痕跡であると考えられるが、ローム粒を多く含むことと、土層断面図中央の２層上に１層が堆積していることから、１層は柱の抜根時に堆積した土層であり、１層にローム粒子が多くみられるのは裏込め土を一部破壊し、混合・再堆積したためであろう。　**遺物：**出土遺物は陶磁器片１点であり、小破片のため写真と表で掲載する（図版二一）。

SB-17（第９・20図）

位置：SB-17はSB-16から北へ約２ｍの地点に位置する掘立柱柱穴である。　**規模と形状：**平面形は隅丸の長方形である。完掘後の平面形では柱のアタリ痕が２つみられるので、柱を建て替えていると考えられる。　**覆土：**１層が柱痕で、周囲の２層が裏込め土である。柱穴の断面は長方形に近い形状である。

柱：遺構断面中央に柱痕と思われる１層があるが、ローム粒を含有するため柱の復元は行わなかった。他に遺構内下部北よりの位置に、２箇所アタリ痕の窪みが確認された。

SB-18（第９・20図）

位置：SB-16から北へ約3.8ｍの地点に位置する掘立柱柱穴である。　**規模と形状：**平面形は隅丸の長方形である。　**覆土：**１層が柱痕で周囲の２・３・４層が裏込め土である。　**柱：**柱痕が残存するが、ローム粒を多く含むことから流入土の可能性が高い。

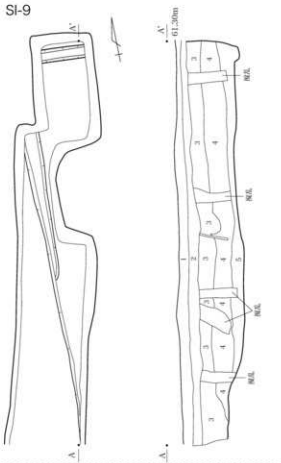
５．５区

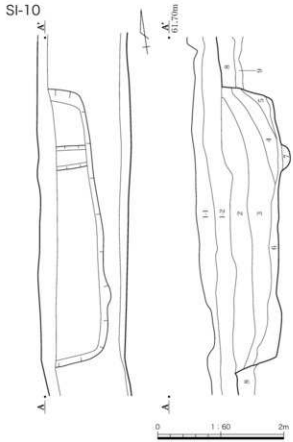
５区は４区から約９ｍ東の位置に設定した区画で、３区同様に東西に長軸を持つ調査区である。南北に幅約1.6ｍ、東西に約22.5ｍの長軸を持つ。５区は住居跡が２軒、掘立柱建物柱穴が２基、溝状遺構が１基確認されている。

SI-20（第８・20・34図、第11表、図版五・一七）

位置：SD-19から約２ｍの地点に位置する住居跡である。　**規模と形状：**全体の規模形状は不明である。

覆土：自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**カマドが２基確認された。カマドの新旧関係は、住居跡の北壁の東寄りに１基目（旧カマド）が作られ、旧カマドからみて西側へ新カマドが構築された。旧カマドは主軸がおよそ北方向を向き、袖幅は不明だが、長軸は約87cmである。掘削時旧カマド付近は袖構築材や、火床部にみられる被熱範囲がみられなかった。これにより、構築後まもなく廃棄され隣接する形で新カマドを構築したとみられる。新カマドは火床部と袖部の一部にかけて調査区外へ続き、袖幅や長軸は不明である。天井部の粘土と煙道部は若干残存しており、緩やかに立ち上がる。　**遺物：**出土遺物のうち図





SI-9

1　黒褐色土　しまりなし，表土。
2　黒褐色土　ローム粒少量含む，しまりあり，表土。
3　暗褐色土　ローム粒少量，焼土粒微量含む，しまりあり，粘性なし。
4　暗褐色土　ローム粒やや多量含む，しまりややあり，粘性なし。
5　暗褐色土　ローム粒やや少量，焼土粒微量含む，しまりなし，粘性ややなし。

SI-10

1-1 黒褐色土　しまりなし，表土。
1-2 黒褐色土　褐色土ブロック少量含む，しまりあり，表土。
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒微量含む，しまりなし，粘性ややなし。
3　暗褐色土　ローム粒やや少量，焼土粒微量含む，しまりなし，粘性ややなし。
4　暗褐色土　ローム粒3粒よりやや多量含む，しまりなし，粘性ややなし。
5　褐色土　ローム粒多量，焼土粒・炭化物粒微量含む，しまりなし，粘性なし。
6　褐色土　ローム粒やや多量，焼土粒微量含む，しまりなし，粘性ややなし。
7　明褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含む，しまりあり，粘性なし，貼床か。
8　暗褐色土　ローム粒微量含む，しまりなし，地山。
9　褐色土　しまりあり，地山。

SI-11

1　黒褐色土　しまりなし，表土。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む，しまりあり，粘性なし。
3　黒褐色土　ローム粒やや少量，炭化物粒微量含む，しまりややあり，粘性なし。
4　暗褐色土　ローム粒少量，褐色土やや少量，焼土粒微量含む，しまりなし，粘性なし。
5　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多量含む，しまりあり，粘性ややあり。
6　褐色土　ローム粒やや多量，ロームブロック多量含む，しまりあり，粘性なし。
7　褐色土　ローム粒多量，ロームブロックやや多量含む，しまりあり，粘性ややあり，貼床。
8　黒褐色土　しまりなし，粘性ややなし，地山。
9　褐色土　しまりややあり，粘性ややなし，地山。

SI-22

1　黒褐色土　しまりなし。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む，しまりあり，粘性なし。
3　褐色土　ローム粒少量，焼土微量含む，しまりややあり，粘性ややなし。
4　褐色土　粘土粒やや多量，焼土粒・炭化物粒少量含む，しまりややあり，粘性ややなし。
5　褐色土　灰褐色土ブロック少量含む，しまりややあり，粘性なし，地山。
6　明褐色土　しまり・粘性ややあり，地山。

第19図　２区SI-9・10／３区SI-11・22実測図

示し得たのは、須恵器坏１点、土師器甕２点である（第34図）。

１は須恵器の坏である。２は口縁部径がやや小さい甕である。粘土紐の輪積み痕や粘土紐の結合部の処理が雑である。口縁部はくの字で外反するように頸部から立ち上がり、口唇部直前で外面側に浅く沈線が施される。体部内面はヘラナデにより整形されている。体部外面は基本的にはヨコナデを施し、下半では横方向のケズリにより整形されている。下半はほぼ残存していないためケズリがどの範囲まで施されるかは不明である。３は下野型の甕で内面にススが付着している。カマドから出土した口縁部片とSI-21出土の破片が接合関係にあり、カマド内の構築材として転用されたことを考慮すると本住居跡の方が新しいと考えられる。

時期：９世紀頃と考えられる。

SI-21（第８・21・34・35図、第12・39表、図版五・一七・一八・二一）

位置：SI-21は５区中央から、やや東の地点に位置する。　**重複遺構：**SB-96とSB-23を切っている。

規模と形状：本遺構は大部分が調査区外へと続くため全体の規模は不明である。残存する住居東西壁の距離はおよそ７mあり、一辺７m前後の住居跡であったと考えられる。また、付属施設としてカマド１基と壁溝が確認されている。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**カマドの主軸は東西方向と考えられる。長軸はおよそ85cmである。煙道の端部は削平されている。また、火床部と思われる地点に深度約30cmのピットが存在する。恐らく支脚を埋設する際に用いたピットと思われ、堆積土は支脚抜根後に自然に堆積して出来た土層である。　**壁溝：**幅約40cm・深度約８cmの壁溝が住居内を廻る。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得たのは、土師器甕が１点、須恵器坏蓋が６点、須恵器坏が３点、須恵器底部片が２点、須恵器高坏が１点、須恵器甕２点、陶磁器片１点である（第34・35図）。陶磁器片は図示し得ないと判断したため写真と表で掲載する（図版二一）。

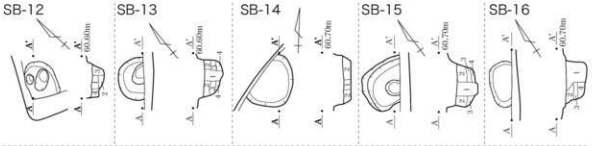
１は坏蓋である。重ね焼きした痕跡が外面に付着している。覆われなかった部位には自然釉が確認された。３も坏蓋の破片で蓋外面に墨書があるが判読は不能である。４は坏蓋で、朱書きを確認したが、判読は不可能であった。胎土中に白色針状物質が含まれている。６は高坏の脚部付け根の破片である。７は盤で、ケズリによる調整が一部にみられる。８は須恵器甕の口縁部片である。口唇部は断面三角形になるよう作り出されている。９は須恵器甕の口縁部片と考えられ、推定口径は約25.6cmを計測する。11は須恵器底部片である。底部には自然釉が付着している。12は須恵器の底部片である。ヘラケズリを施し中央がやや突出する形で成形している。高台は短く端部が突出する。13は坏の底部片と考えられる。底面は一方向のケズリにより整形されている。14も坏の底部片で底面には回転ヘラ切り離しの痕跡がある。15は須恵器坏の底部片で墨書が確認されたが判読不能であった。16は天目茶碗である。黒い釉薬がかかっており、外面の一部は釉薬が途切れていることから底部付近の破片と考えられる。　**時期：**出土遺物から９世紀後半頃と考えられる。

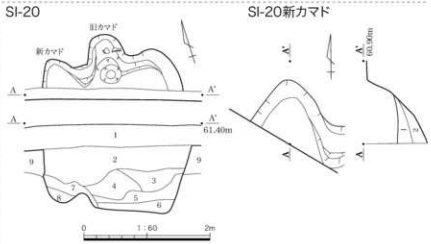
SB-23（第８・21図）

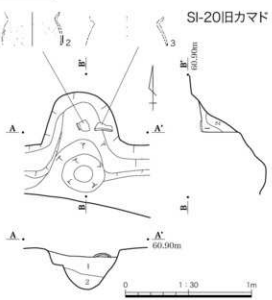
位置：SI-21内東側に位置する。　**重複遺構：**SI-21に切られている。　**規模と形状：**平面形は不整な円形をしている。短軸約64cm、長軸約76cm、深度は約76cmである。断面形は長方形で、上部は段を形成している。切り合いなのか、段状の掘り方を有する柱穴なのかは不明である。

SB-96（第８・21図）

位置：SI-21内西側に位置する。　**重複遺構：**SI-21に切られている。　**規模と形状：**２つの柱穴が並び、柱を立て替えたと考えられる。平面形は不整形である。短軸約22cm、長軸約58cm、深度は60cmを計測し、断面形はほぼ長方形であるが、柱のアタリ痕が２つの窪みを形成している。　**時期：**９世紀頃と思われる。







SI-12
1　褐色土　　しまりなし。粘性なし。柱痕。
2　明褐色土　　ローム主体。しまりややあり。粘性ややなし。
3　暗褐色土　　ローム粒少量含む。しまりなし。粘性ややなし。
4　明褐色土　　ローム粒やや多量含む。しまりややなし。粘性ややなし。

SB-13
1　暗褐色土　　ロームブロック・ローム粒やや多量含む。しまりややあり。
　　粘性なし。柱痕。
2　暗褐色土　　ローム粒少量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　暗褐色土　　ローム粒微量含む。しまりなし。粘性なし。
4　黒褐色土　　ローム粒微量含む。しまりややなし。粘性ややなし。

SB-14
1　黒褐色土　　ローム粒少量含む。しまりなし。粘性ややなし。柱痕。
2　黒褐色土　　ローム粒・ロームブロックやや多量、焼土粒微量含む。
　　しまりあり。粘性なし。

SB-15
1　褐色土　　ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。柱痕。
2　暗褐色土　　ローム粒やや少量含む。しまりなし。粘性ややなし。
3　褐色土　　ローム粒やや多量、ロームブロック微量含む。しまりややあり。
　　粘性ややあり。
4　褐色土　　ローム粒やや多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SB-16
1　褐色土　　ローム粒やや多量、ロームブロック少量、
　　黒褐色土ブロックややや少量含む。しまりなし。粘性ややあり。
2　褐色土　　ローム粒・ロームブロック・暗褐色土ブロック少量含む。
　　しまりややあり。粘性ややなし。
3　暗褐色土　　ローム粒・黒褐色土ブロック少量含む。しまりあり。粘性ややなし。
4　暗褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。しまりなし。粘性ややなし。

SB-17
1　暗褐色土　　ローム粒少量含む。しまりなし。粘性ややあり。柱痕。
2　暗褐色土　　ローム粒やや多量、ロームブロック微量含む。しまりややあり。
　　粘性ややあり。

SB-18
1　明褐色土　　ローム粒やや多量、ロームブロック微量含む。しまりなし。
　　粘性ややなし。柱痕。
2　黄褐色土　　ロームブロック主体。暗褐色土粒少量含む。しまりややあり。
　　粘性なし。
3　明褐色土　　暗褐色土とローム粒の混合土。ロームブロック少量含む。
　　しまりややなし。粘性ややあり。
4　暗黄褐色土　　ローム粒・ロームブロック主体。暗褐色土を２層より多く含む。
　　しまりややあり。粘性ややあり。

SI-20新カマド
1　明褐色土　　焼土粒多量、ローム粒・乳白色粘土粒やや多量含む。しまりなし。
　　粘性ややあり。天井の崩落土か。
2　明褐色土　　焼土やや少量含む。しまりなし。粘性ややあり。

SI-20
1　黒褐色土　　しまりあり。粘性なし。表土。
2　黒褐色土　　ローム粒・焼土粒微量含む。しまりややなし。粘性なし。
3　暗褐色土　　ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりややなし。
　　粘性なし。
4　灰褐色土　　山砂多量含む。しまりなし。粘性ややあり。
5　暗灰褐色土　　ローム粒・山砂やや少量、焼土微量含む。しまりあり。
　　粘性なし。
6　明褐色土　　ロームブロック・ローム粒多量、
　　黒褐色土ブロック少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7　明褐褐色土　　新カマド１層に相当。
8　明褐色土　　新カマド２層に相当。
9　黒褐色土　　地山。

SI-20旧カマド
1　灰褐色土　　ローム粒やや多量、山砂やや少量、焼土粒少量含む。
　　しまりなし。粘性なし。
2　暗褐色土　　ローム粒やや多量、山砂やや少量、焼土粒微量含む。
　　しまりなし。粘性なし。

第 20 図　4 区 SB-12～18 ／ 5 区 SI-20 実測図

SD-19（第８・21・34図、第10表、図版五・一七）

位置：５区北西に位置し、ほぼ南北方向に長軸をもつ溝状遺構である。　**規模と形状：**この溝状遺構は幅2.6ｍ、深度1.5ｍで断面の形状はほぼＶ字である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察出来た。堆積の状況から、この溝は構築された後改修や拡幅などはされずに緩やかに埋没したとみられる。　**遺物：**出土遺物は線刻の施された須恵器が１点と墨書土器が１点である（第34図）。１は墨書土器で、文字は判読不能であった。２は須恵器底部片で線刻があるが、判読不能である。

６．６区

６区と７区は調査範囲の中で最も西側に位置する区画である。６区は４区の南端から約96ｍ離れており、南北は幅約1.2ｍで、東西は約28.2ｍの長軸を持つ区画である。６区では住居跡が３軒確認された。調査区内は耕作によるものとみられる削平・撹乱が目立つ。

SI-24（第14・22・35図、第13・36表、図版六・一七・二〇）

位置：６区の東に位置する住居跡である。　**規模と形状：**調査区外へと続き、残存面も耕作による撹乱のため住居跡の全容は不明である。残存する東西壁面の距離から一辺約３ｍ前後の住居であったと考えられる。付属施設ではカマドが１基確認されたが、袖の一部のみである。　**覆土：**一部ではあるが、自然堆積による埋没の過程が観察できた。　**カマド：**壁面と確認された袖の位置から、カマドの主軸は東西であると考えられる。　**遺物：**出土遺物で図示し得たのは、土師器甕が１点、土師器坏が１点、砥石が１点である（第35図）。１はSI-25覆土出土の破片と接合関係にある土師器高台付坏である。内面は黒色処理されており、ミガキが丁寧に施される。底部内面のミガキは一方向に平行なミガキを緻密に施しているが、一部には直角に交わるミガキが数本みられる。内面の口縁部近くのミガキは一方向で緻密に施され、一定の長さで統一されており、一辺のミガキが終了すると角度を変えて同じく一定の長さでのミガキを行っている。２は土師器甕の底部片とみられる。

時期：９世紀頃と考えられる。

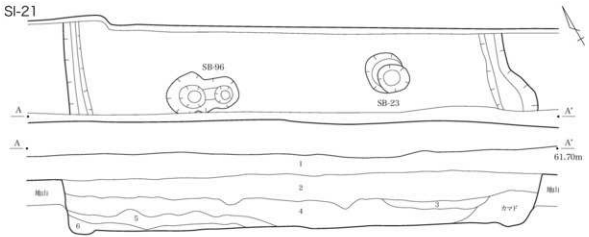
SI-25（第14・22・35・39図、第14・37・39表、図版六・一八・二一）

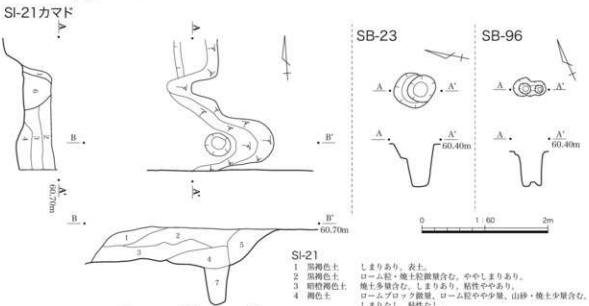
位置：６区のほぼ中央に位置する住居跡である。　**規模と形状：**全体の規模は不明だが、残存する東西壁面の距離から一辺約3.8ｍ前後の住居跡と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没の過程が観察できた。

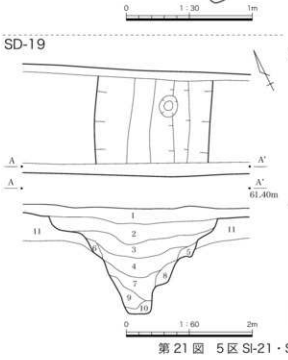
カマド：カマドが１基確認されているが、耕作土による撹乱のため残存状況は悪い。また、焚口ピットがあり深度は20cmである。焚口ピットは焚口側が緩やかに立ち上がり、煙道側はやや角度があることから火床内の灰等を掻き出した際に掘り窪み形成されたと考えられる。　**遺物：**出土遺物で図示し得たのは、須恵器甕１点、須恵器坏２点、縄文土器１点、陶器片２点である（第35・39図、図版二一）。いずれも覆土出土の資料である。その他掘削中に住居の建材とみられる炭化材を確認したが、ほぼ土化しており平面記録に残すのみとした。１は外面にタタキ痕をもつ須恵器甕である。口縁部は強く外反し、口唇が厚く丸みのある形をしている。４の縄文土器は覆土中出土のため、流入と考えられる。５は陶器片である。内外で釉薬が異なっており、内面は白色で外面は飴色に近い褐色である。６は口唇部外面側に弱い段を持つ陶器片である。

SI-26（第14・22・35図、第15表、図版六・一八）

位置：６区の西側に位置する。　**規模と形状：**全体の規模は不明だが、残存する東西壁面の距離から一辺約5.3ｍ前後の住居跡と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**カマドが１基確認された。袖部の両脇は耕作痕による撹乱を受けたため消失しており、残存するカマド袖の幅は１ｍ







SI-21

1	黒褐色土	しまりあり。表土。
2	黒褐色土	ローム粒・焼土粒微量含む。ややしまりあり。
3	暗橙褐色土	焼土多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4	褐色土	ロームブロック微量、ローム粒やや少量、山砂・焼土少量含む。しまりなし。粘性なし。
5	明褐色土	ロームブロック多量、ローム粒やや多量、黒褐色土ブロック少量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
6	暗褐色土	ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SI-21カマド

1	暗褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。しまりなし。粘性ややあり。
2	灰褐色土	山砂やや少量、焼土粒少量、山砂ブロック微量含む。しまりなし。粘性ややあり。ブリッジなどの崩落層。
3	暗褐色土	1層に似るが1層よりもローム粒少量、山砂粒やや少量、焼土粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
4	灰褐色土	山砂・ローム粒多量、焼土粒やや少量、固化物粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5	橙褐色砂質土	山砂・焼土多量、褐色土少量含む。しまりなし。粘性ややあり。堆積くずれ。
6	暗褐色土	山砂少量、ローム粒やや少量含む。しまりややあり。粘性ややなし。軸。
7	明褐色土	ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりなし。粘性ややあり。

SD-19

1	黒褐色土	ローム粒・焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
2	黒褐色土	ローム粒少量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
3	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒微量含む。灰褐色土ブロックやや多量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
4	黒褐色土	ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5	褐色土	ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややなし。
6	褐色土	ローム粒やや少量含む。しまりなし。粘性なし。
7	黒褐色土	ローム粒少量含む。しまりなし。粘性ややあり。
8	明褐色土	ローム粒やや多量含む。しまりなし。粘性なし。
9	明褐色土	ローム粒多量含む。しまりなし。粘性なし。
10	褐色土	ローム粒やや少量含む。しまりなし。粘性ややあり。
11	黒褐色土	地山。

第 21 図　５区 SI-21・SB-23・96・SD-19 実測図

である。焚口から煙り出しまで直線的に撹乱を受けているが、煙道の立ち上がりが僅かばかり残存し、長軸は1.24mを計測する。また、カマドの両袖端部と火床部に横断するように浅い掘り込みがあり、カマドを構築する前にあらかじめ設けられた掘り込みと考えられる。両袖内から構築材に転用された甕が出土した。

遺物：出土遺物のうち図示し得たのは、土師器甕が３点・須恵器坏１点・須恵器１点である（第35図）。甕のうち２つはカマド袖部の構築材転用甕である。１はカマド袖出土の武蔵型の甕である。くの字状の口縁部と外面にヘラケズリを施し、器面を薄手に仕上げている。SI-24出土の破片資料と接合関係にあるが、両住居跡は撹乱を受けているため、その際に混入した可能性が考えられ両住居跡の関係性は不明である。２はカマド袖部出土の下野型の甕で、口縁部の外反が非常に強く受口はやや下がる。体部内面はヘラナデにより成形されており、体部外面は摩滅により判然としないものの一部にヘラナデの痕跡がみられる。また、受口と体部外面の一部にススが付着している。３は土師器甕の口縁部片である。頸部からほぼ垂直に立ち上がり、口縁部から強く外反する。口唇部は厚く、中央はナデによる窪む。４は須恵器坏の口縁部片である。全体的に摩滅が激しく調整は口縁部付近のヨコナデのみ確認できた。５は須恵器瓶の肩部と考えられる。肩部屈曲点直下に２本の浅い沈線が横位に走る。　**時期：**出土遺物から、８世紀～９世紀初頭と考えられる。

７．７区

７区は６区同様に調査範囲の西側に位置し、南北に長軸を持つ区画である。６区の西端から北へ約６mの地点に位置し東西は幅約1.6 m、南北は約167 mの長軸を持つ区画である。７区では住居跡が５軒、土坑が７基、溝状遺構が２基確認されている。

SI-28（第10・23図、図版七）

位置：７区南端のSK-27から北に５mの地点に位置する住居跡である。　**規模と形状：**調査区外へと続くため、規模形状は不明だが残存する住居コーナーの形状と、南北壁の距離から一辺約4.3 m前後の隅丸方形であった可能性が高い。　**覆土：**耕作による撹乱を受けていたが、自然堆積による埋没過程が観察できた。

遺物：出土遺物は、土師器・須恵器の小破片のみで図示しえないと判断した。

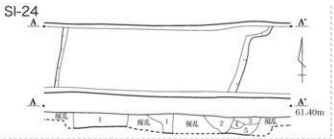
SI-29（第10・23・35図、第16表、図版七・一八・二〇）

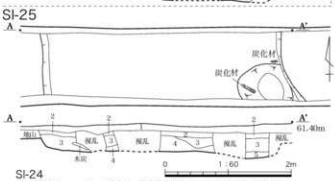
位置：７区南側、SI-28から北へ約20 m離れた地点に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続き、住居跡の規模は不明だが、残存する東西壁面の距離から一辺約3.5 m前後と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。また、床面にやや掘り込みがあるが、アタリ痕等がないため柱穴などの付属施設ではないと考えられる。同様に住居跡西壁面に一部みられる溝状遺構も住居跡に伴う遺構では無いと考えられる。　**遺物：**出土遺物で図示し得たのは、土師器甕１点、灰釉陶器が１点、磨石が１点、砥石が１点、支脚が１点である（第35図）。１は覆土中出土の下野型の甕である。頸部屈曲点から口縁部は強くやや弧状に外反し、垂直に粘土紐が付加され短く立ち上がり端部をややつまみあげ受口を形成している。２は灰釉陶器の口縁部片で、内面は自然釉に覆われている。口縁部は横位沈線から外反し、口唇部がほぼ水平になるように口唇部直前で外反が強くなる。３は土師器甕の底部片で、内面はヘラナデと一部に指ナデの痕跡が残る。外面のヘラナデは上から下へと行っている。６は被熱のため脆くなっている石製支脚である。抜根し住居内に遺棄されたと考えられる。　**時期：**８世紀～９世紀初頭と考えられる。

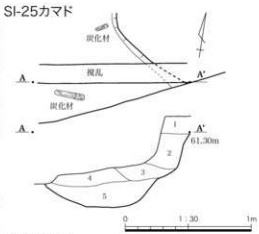
SI-38（第11・23図、図版七）

位置：７区中央よりやや南に位置する住居跡である。　**重複遺構：**SD-39が住居跡の一部を切っている。

規模と形状：住居の西側壁面のみ若干確認され、推定では一辺約４m前後の隅丸方形の住居跡であった







SI-24

1	暗褐色土	ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
2	暗褐色土	ローム粒・焼土粒・山砂少量含む。しまりあり。粘性なし。
3	褐色土	山砂やや多量、焼土粒少量含む。しまりあり。粘性なし。
4	明黄褐色粘土	粘土主体、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
5	褐色土	山砂やや多量、焼土粒やや少量、炭化物・ローム粒少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SI-25

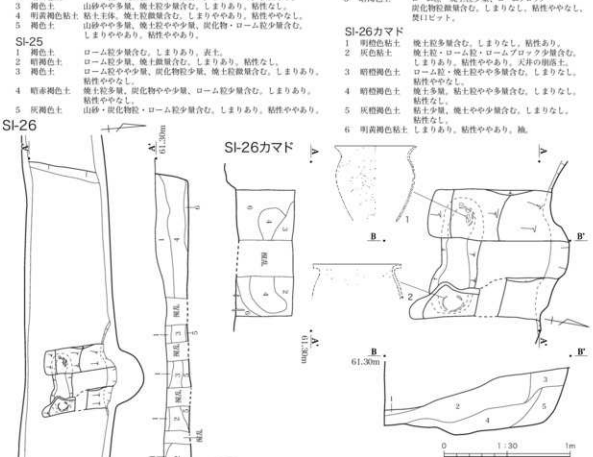
1	褐色土	ローム粒少量含む。しまりあり。表土。
2	暗褐色土	ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性なし。
3	褐色土	ローム粒やや少量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性ややなし。
4	暗赤褐色土	焼土粒多量、炭化物やや少量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややなし。
5	灰褐色土	山砂・炭化物粒・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

SI-25カマド

1	暗褐色土	ローム粒少量含む。しまりややあり。粘性なし。表土。
2	灰褐色砂質土	山砂多量、焼土粒やや少量含む。しまりなし。粘性なし。天井の崩落土。
3	暗褐色土	山砂多量、焼土粒少量含む。しまりなし。粘性なし。流入土。根遺。
4	暗褐色土	山砂は3層より少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。しまりなし。粘性なし。流入土。
5	暗褐色土	ローム粒・焼土粒少量、ロームブロック・炭化物粒微量含む。しまりなし。粘性ややなし。焚口ピット。

SI-26カマド

1	明橙色粘土	焼土粒多量含む。しまりなし。粘性あり。
2	灰色粘土	焼土粒・ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性ややあり。天井の崩落土。
3	暗橙褐色土	ローム粒・焼土粒やや多量含む。しまりなし。粘性ややなし。
4	暗橙褐色土	焼土多量。粘土粒やや多量含む。しまりなし。粘性なし。
5	灰橙褐色土	粘土少量。焼土やや少量含む。しまりなし。粘性なし。
6	明黄褐色粘土	しまりあり。粘性ややあり。袖。



SI-26

1	暗褐色土	ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりなし。粘性ややなし。
2	暗褐色土	ローム粒やや多量、ロームブロック・黒褐色土ブロック少量、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
3	灰褐色土	山砂やや多量、焼土粒少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
4	黒褐色土	褐色土粒やや多量、ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
5	明灰褐色土	山砂主体、焼土粒少量含む。しまりややあり。粘性あり。カマド流出土。
6	黒褐色土	ローム粒少量含む。

第 22 図　6 区 SI-24～26 実測図

と考えられる。カマド等の付属施設は不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。深度は約 40cm を計測する。

SI-40（第 11・23・36 図、第 17 表、図版七・一八）

位置：SI-38 から北へ約２ｍの地点に位置している。　**重複遺構：**SD-101 が住居の一部を切っている。　**規模と形状：**本遺構は調査区外へと続き、全体の規模は不明である。残存する南北壁の距離から一辺約5.2m 前後の住居跡と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程、SI-40 上から掘削する SD-101 などが観察できた。　**壁溝：**残存する東壁、北東角、北壁の一部に壁溝が確認された。調査区外へと続くため住居跡全体に壁溝が廻るかは不明である。壁溝は幅約 24cm、深度約８cm である。貯蔵穴のある南壁には壁溝はみられない。　**貯蔵穴：**付属施設では住居南壁に張出し貯蔵穴があり、壁から約 80cm 張出している。横幅は一部が調査区外のため不明で、深度は住居床面から約 72cm であり、平面形は長方形を呈していると推察され、貯蔵穴内中位に段をもち下面は楕円形である。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得たのは、貯蔵穴付近から出土した土師器坏が２点、編物石が１点である（第 34 図）。１の坏は２と比較して摩滅が少なくミガキの残存状況は良好である。口縁部は緩やかに外反し、口唇部は少しだけ外向きになる。また、口唇部内面直下には水平に窪む様に浅い段がみられる。坏部外面は２よりも半球形に近く丁寧なケズリが行われている。２の坏は口縁部がやや内湾気味に屈曲したのち口縁部との変換点から強く外反し、内外供に摩滅が激しいがミガキの痕跡が残存している。３は編物石である。　**時期：**６世紀後半と考えられる。

SI-41（第 11・24・36・39 図、第 18・37 表、図版七・一八・二一）

位置：SI-40 から北へ約２ｍに位置している。　**規模と形状：**調査区外へ続くが、住居の西壁が比較的残存状態が良好である。全体の規模は不明であるが、南北壁の距離から一辺約４ｍ前後の住居であったと推察される。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。４層は貼床である。　**貼床：**貼床は住居内北側のみにみられたが、確認できた面積が小さく規模等は不明である。　**壁溝：**SI-40 同様に壁の周囲に壁溝が確認されたが、大半が調査区外へ続くため、全周するかは不明である。幅約 30cm、深度約 8cm である。

遺物：出土遺物で図示し得たのは、土製支脚１点、縄文土器１点である（第 36・39 図）。１・２は流入によるものである。

SK-27（第 10・24 図）

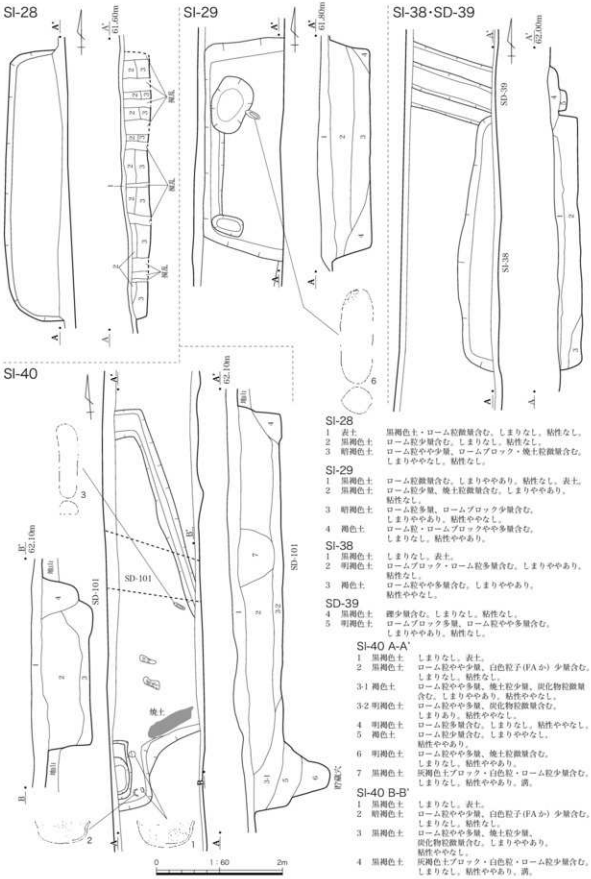
位置：７区の南端に位置する土坑である。　**規模と形状：**平面は一部が調査区外へ続き、規模形状等は不明である。長方形に近い断面形である。　**覆土：**ローム粒子を多く含み、一層のみで埋没している状況から人為的な埋め戻しの可能性がある。

SK-30（第 10・24 図）

位置：７区南側、SI-29 から北へ約５ｍ離れた地点に位置している。　**規模と形状：**一部が調査区外へと続き全体の規模は不明だが、平面形は長楕円形を呈すと考えられる。　**覆土：**深度約６cm の非常に浅い堆積である。ローム粒子を含むため、人為的に埋め戻された土層の可能性がある。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得る資料は無く、土師器の小破片のみである。

SK-31（第 10・24 図）

位置：SK-30 から北へ約 14 ｍの地点に位置している。　**規模と形状：**調査区外へと続くため全容は不明であるが、平面形は隅丸長方形を呈していると考えられる。　**覆土：**深度約 20cm の土坑で堆積土は一層のみである。ロームブロックを多く含み、しまりのある堆積土層であることから人為的に埋め戻されている可能性がある。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得る資料は無く、土師器の小破片のみである。



SI-28
1　表土　黒褐色土・ローム粒微量含む。しまりなし。粘性なし。
2　黒褐色土　ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
3　暗褐色土　ローム粒やや少量、ロームブロック・焼土粒微量含む。しまりややなし。粘性なし。

SI-29
1　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややあり。粘性なし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性なし。
3　暗褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
4　褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多量含む。しまりなし。粘性ややあり。

SI-38
1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　明褐色土　ロームブロック・ローム粒多量含む。しまりややあり。粘性なし。
3　褐色土　ローム粒やや多量含む。しまりややあり。粘性ややなし。

SD-39
4　黒褐色土　礫少量含む。しまりなし。粘性なし。
5　明褐色土　ロームブロック多量、ローム粒やや多量含む。しまりややあり。粘性なし。

SI-40 A-A'
1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒やや少量、白色粒子(FAか)少量含む。しまりなし。粘性なし。
3-1 褐色土　ローム粒やや多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
3-2 明褐色土　ローム粒やや多量、炭化物粒微量含む。しまりあり。粘性ややなし。
4　明褐色土　ローム粒多量含む。しまりなし。粘性ややなし。
5　褐色土　ローム粒少量含む。しまりややなし。粘性ややあり。
6　明褐色土　ローム粒やや多量、焼土粒微量含む。しまりなし。粘性ややあり。
7　黒褐色土　炭褐色土ブロック・白色粒・ローム粒少量含む。しまりなし。粘性ややあり。溝。

SI-40 B-B'
1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　暗褐色土　ローム粒やや少量、白色粒子(FAか)少量含む。しまりなし。粘性なし。
3　黒褐色土　ローム粒やや多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
4　黒褐色土　炭褐色土ブロック・白色粒・ローム粒少量含む。しまりなし。粘性ややあり。溝。

第23図　7区 SI-28・29・38・40・SD-39・101 実測図

SK-32（第 10・24 図）

位置：SK-31 から北へ約４ｍの地点に位置する。　**規模と形状：**平面形は隅丸長方形で、短軸約 60cm、長軸約 158cm、深度約 40cm である。　**覆土：**堆積土は、二層確認した。二層ともローム粒子を多量に含み、しまりもあるため人為的な埋め戻しの可能性がある。　**遺物：**出土遺物で図示し得る資料は無く、土師器の小破片のみである。

SK-33（第 10・24 図）

位置：SK-32 から北へ約 1.5 ｍの地点に位置している。　**規模と形状：**平面形は隅丸長方形である。短軸は 30 ～ 40cm である。長軸は 130cm である。深度は約６cm と浅い。遺構下部は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。　**覆土：**浅い堆積土一層のみ確認された。ローム粒子が少量確認された。

SK-34（第 10・24 図）

位置：SK-32 から北へ約 2.5 ｍの地点に位置する。　**規模と形状：**短軸約 20cm、長軸約 30cm、深度約 16cm の平面楕円形の土坑である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

SK-35（第 10・24 図）

位置：SK-34 から北へ約９ｍの地点に位置する。　**規模と形状：**短軸約 80cm、長軸約 110cm、深度約 28cm の平面楕円形である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

SD-39（第 11・23 図、図版七）

位置：SI-38 と同地点である。　**重複遺構：**SI-38 を切る。　**規模と形状：**SD-39 は幅約１ｍで、深度は約 30cm を計測する。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。５層はロームブロックも多量に含みしまりもややあるので５層については人為的に埋められている可能性がある。

SD-101（第 11・23 図）

位置：SI-40 と同地点である。　**重複遺構：**SI-40 を切る。　**規模と形状：**全体は不明だが、復元した溝幅と深度は共に約 60cm である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

８．８区

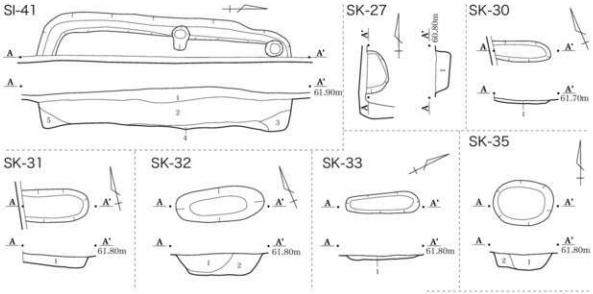
８区は５区東端から北へ約４ｍの地点に位置し東西は幅約 1.7 ｍ、南北は約 26.6 ｍの長軸を持つ区画である。８区では住居跡３軒、溝状遺構３基、土坑４基確認されている。覆土中より土師器・須恵器の破片が出土している。

SI-49（第９・24 図）

位置：８区のほぼ中央に位置する。　**重複遺構：**SK-46 と SI-52 が切る。　**規模と形状：**床面とカマドの一部のみ確認した。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**貼床：**Ｂ－Ｂ’ラインの 11 層がロームブロックを多量含み、しまりのある平坦な堆積のため貼床と考えられる。　**カマド：**カマド袖部と火床の一部が確認された。横幅は残存している部位で約 88cm を計測している。長軸や袖・煙道等は調査区外、あるいは撹乱のため不明である。

SI-52（第９・39 図）

位置：SI-49 とほぼ同地点である。　**重複遺構：**SI-49 を切る。　**規模と形状：**調査区外へと続き、全体の規模は不明。南壁が不整形であるため壁の距離から住居の一辺あたりの長さは推定しなかった。　**柱：**SI-52 の北壁西よりに掘り込まれている柱穴である。柱穴の平面形は楕円形で、短軸 75cm、長軸 80cm、深度は 26cm を計測し、断面形から柱穴が段状に掘り込まれているのが確認できる。柱の復元はロームが



SI-41
1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　暗褐色土　ローム粒少量含む。しまりややなし。粘性なし。
3　明褐色土　ローム粒多量含む。しまりややなし。粘性なし。
4　明褐色土　ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。粘性ややあり。粘床。
5　褐色土　ローム粒やや少量含む。しまりなし。粘性なし。

SK-27
1　黒褐色土　ローム粒多量含む。しまりなし。

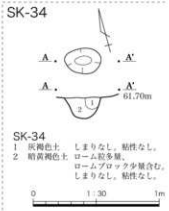
SK-30
1　黒褐色土　ローム微粒少量含む。しまりあり。

SK-31
1　黒褐色土　ロームブロック(径40～70mm)・ロームブロック(径10～20mm)多量含む。しまりあり。

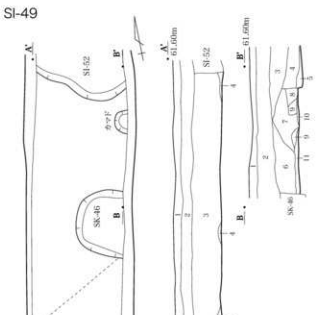
SK-32
1　黒褐色土　ローム粒多量含む。しまりあり。
2　黒褐色土　ロームブロック多量含む。しまりあり。

SK-33
1　黒褐色土　ローム微粒少量含む。しまりなし。

SK-35
1　褐色土　ローム粒・白色粒少量含む。しまりあり。粘性なし。
2　明褐色土　ローム粒やや多量含む。しまりあり。粘性なし。



SK-34
1　灰褐色土　しまりなし。粘性なし。
2　暗黄褐色土　ローム粒多量。ロームブロック少量含む。しまりなし。粘性なし。



SI-49 A-A'
1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　黒褐色土　山砂やや多量、焼土粒・ローム粒少量、炭化物粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
4　褐色土　ローム粒微量含む。しまりなし。粘性ややなし。
5　黒褐色土　ローム粒少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。地山。

SI-49 B-B'
1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　黒褐色土　SI-52・3 層に対応。
4　黒褐色土　SI-52・4 層に対応。
5　明褐色土　SI-52・5 層に対応。
6　黒褐色土　山砂やや多量、ローム粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
7　暗褐色土　山砂多量、焼土粒少量、ローム粒少量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
8　褐色土　山砂多量、ローム粒やや多量、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
9　明褐色土　ローム粒多量、山砂やや多量、焼土粒少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。カマド袖。
10　赤褐色土　焼土からなる。しまりなし。粘性なし。カマド火床。
11　明褐色土　ロームブロック多量含む。しまりあり。粘性ややなし。粘床。

第 24 図　7 区 SI-41・SK-27・30～35 ／ 8 区 SI-49 実測図

確認されたため行わなかった。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

SI-53（第9・25・36・40図、第19・38表、図版八・一八・二〇）

位置：SI-52から北へ約50cmの地点に位置する。　**重複遺構：**SD-54に切られている。　**規模と形状：**SD-54に削平されているため住居全体の規模は不明である。付属施設として柱穴1基、カマド1基を確認した。　**柱：**南壁西よりの地点に位置し、平面はやや楕円形を呈す。短軸30cm、長軸36cm、深度12cmを計測する。深度が浅いため柱のアタリ痕の可能性がある。　**カマド：**カマドは調査区外へ続き、さらにSD-54に切られるため残存状況は悪い。袖の一部と焚口ピットが僅かに確認できた。

遺物：出土遺物で図示し得たのは、須恵器甕1点、土師器甕1点、墨書土師器1点、鉄鏃1点である（第36・40図）。2は覆土中出土の内面が黒色処理されている坏である。墨書は判読不能である。3は須恵器甕底部である。外面はタタキの痕跡が残存し対応する内面では指で押さえた痕跡も見られる。外面の底部付近では横方向にケズリを行っている。SD-54出土の破片資料と接合関係にある。4は鉄鏃で本住居跡の柱穴確認面より出土している。飛燕式の鉄鏃で一部が欠損している。　**時期：**9世紀頃と考えられる。

SK-46（第9・26図）

位置：SK-47から北へ約4mに位置する。　**重複遺構：**SI-49を切る。　**規模と形状：**全容は不明である。**覆土：**ロームを多量含み、人為的埋め戻しと考えられる。深度約55cmを測る。断面形はやや丸みを帯びる長方形である。　**遺物：**出土遺物で図示し得る資料は無く、土師器・須恵器の小破片のみである。

SK-47（第9・26図）

位置：SD-45から北へ約3mの地点に位置する。　**規模形状：**直径約50cm、深度20cmの円形土坑である。

SK-55（第9・26図）

位置：8区南端に位置する。　**規模と形状：**平面形では不明瞭であったが、2つの土坑が切り合っている。調査区外へ続き、詳細は不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得る資料は無く、土師器・須恵器の小破片のみである。

SK-102（第9・26図）

位置：SD-42の完掘後に溝壁面から底面にかけて確認された円形の土坑である。　**重複遺構：**SD-42との切り合い関係は不明瞭で、土坑底部のみ確認できた遺構である。

SD-42（第9・26図、図版八）

位置：8区を東西に走る溝状遺構である。　**規模と形状：**調査区外へと続き、全体の規模形状は不明である。溝の幅は約80cm、深度約76cmである。　**覆土：**溝構築後に人為的に埋め戻している可能性が高い。　**遺物：**出土遺物で図示し得る資料はなく、土師器・須恵器の小破片のみである。

SD-44（第9・29図、図版八）

位置：8区を東西に走る溝状遺構である。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体の規模形状は不明である。溝の幅は約60cm、深度約64cmで、断面長方形である。　**覆土：**堆積土は1層のみである。

SD-54（A・B・C）（第9・25・36図、第20表、図版八・一八）

位置：8区北側に位置し、SI-53の北壁とカマドの一部を切るように8区を東西に横断している。　**重複遺構：**SI-53を切る。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体の規模形状は不明である。また、溝は3度構築されているため、横幅や深度などは各々の溝にて報告する。　**遺物：**出土遺物は土師器甕1点、須恵器坏蓋1点、須恵器甕1点である（第36図）。1の須恵器坏蓋はつまみの外縁がやや高く、つまみ中央はやや隆起する。2の土師器甕は口縁部片である。口縁部は頸部から外反し受口は粘土紐を接着したのち短く外反す

るように立ち上がる。３は須恵器甕底部片である。外面は上から下にヘラナデの痕跡があり、一部に刷毛目様の痕跡がある。底部付近では面取りを行っている。これらの出土遺物はSD-54覆土一括と８区表採遺物、SI-53出土資料と接合関係の資料もある。　**時期：**SD-54の出土遺物は流入したものと推測される。図示した資料から遺構の構築年代の判断は困難と思われるが、隣接するSI-53の覆土上から掘り込んでいるため、９世紀以降にSD-54-Aは構築されたと考えられる。

SD-54-A（第９・25図）

SD-54-Aが始めに構築された溝状遺構と考えられる。幅は推定90cmで断面はおよそＶ字に近く、深度も約１m近くあったと考えられる。

SD-54-B（第９・25図）

SD-54-Aが自然埋没あるいは埋め立てられてから、SD-54-Bが構築された。SD-54-BはSD-54-Aと比較し深度が浅くなり約70cmであったとみられる。底部の形状がより平たくなっている点と、SD-54-Bの復元した幅約２mから、SD-54-Aより幅広の溝と考えられる。

SD-54-C（第９・25図）

最後にSD-54-CがSD-54-Bの自然埋没あるいは埋め立てられた後に構築された。深度約40cmと一番浅く、幅は約２mである。Ａ～Ｃの溝の形態変化と同地点に溝が重用される点で興味深い遺構である。

９．９区

９区は８区北端から北へ約10 m離れた地点に位置し、長軸方向はやや北東に傾く。東西幅は約1.6 mで南北は約31 mの長軸を持つ区画であり、区画の北端はより強く北東へ屈曲している。９区では住居跡３軒、掘立柱柱穴５基、土坑５基確認されている。覆土中より土師器・須恵器の小破片が出土している。

SI-58（第12・26・36図、第21表、図版八）

位置：９区南側に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体の規模は不明である。また、本住居掘削後に住居床面で円形土坑が確認されたが、本住居に伴う遺構かは不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**壁溝：**全容は不明だが、幅約20cm・深度約４cmを計測し住居跡内を一部巡るのが確認された。　**カマド：**カマドの一部を確認した。規模と形状は不明である。　**遺物：**出土遺物で図示し得た資料は、覆土出土遺物の土師器坏２点である（第26図）。１の坏は内面が黒色処理され、緻密なミガキをもつ。口縁部はややくの字に外反しており、口唇部は少しだけ厚く整形されている。２の坏は内面が黒色処理されている高台付坏である。器面外面には一部にケズリにより整形した痕跡がある。　**時期：**出土遺物から９世紀後半と考えられる。

SI-68（第12・27・36図、第22表、図版八・一九）

位置：９区北側SK-70とほぼ同地点に位置する。　**重複遺構：**SI-69を切り、SK-70に切られている。

規模と形状：調査区外へ続き、全体の規模は不明である。付属施設はカマドが１基確認されている。

覆土：自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**住居東壁に付設され、主軸はN－60°－Eである。約1/3が調査区外へ続き正確な規模は不明であるが、短軸は大体70～80cm位で、長軸は約１mと考えられる。煙道は緩やかに立ち上がると考えられる。　**遺物：**出土遺物で図示し得た資料は、土師器坏２点である（第36図）。うち１点は覆土中出土のため本遺構に伴うか不明である。１は覆土出土の坏で、内面に乱調なミガキが施されている。底部は回転ヘラ切りの痕跡があり、破断面にはイネ科植物の種子圧痕がある。２は内面黒色処理の高台付坏である。内面底部ではミガキが放射状に施されている。　**時期：**出土遺物から

9 世紀後半～ 10 世紀頃と考えられる。

SI-69（第 12・26・36 図、第 23 表、図版八・一八）

位置：9 区北側に位置する。　**重複遺構：**SI-68 と SK-94 に切られている。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体の規模形状は不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**壁溝：**壁の周囲に壁溝が確認された。幅は約 28cm・深度は約 12cm である。住居跡内全体を廻るか一部だけかは不明である。　**遺物：**出土遺物で図示し得たのは、須恵器坏 1 点、須恵器甕 1 点の 2 点である（第 36 図）。

1 の須恵器坏は SI-68 の覆土出土資料と接合関係にある。2 の甕は、内面に粘土紐の痕跡が残り、外面にはタタキの痕跡がある。タタキは縦向きと横向きのものが一部交差し格子状を成す。口縁部は強く外反した後、受口状の口縁部を形成している。また、2 の甕は SK-62・SK-63 出土の破片と接合関係にある。

SB-59（第 12・27 図）

位置：SI-58 から約 6 m の地点に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体の規模などは不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程、柱痕と裏込め土の状況を観察できた。　**柱：**柱の復元には至らなかった。

SB-60（第 12・27 図）

位置：SB-59 から約 1 m北東の地点に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体の規模などは不明である。　**覆土：**残存する柱痕と裏込め土の状況を確認できた。　**柱：**柱の復元には至らなかった。

SB-64（第 12・27 図、図版八）

位置：SB-60 から約 3 m の地点に位置する。　**重複遺構：**SK-62 によって切られている。SK-63 を切る。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体の規模形状は不明だが、推定では長軸約 80cm を計測する。深度は約 80cm である。　**覆土：**SK-62 との切り合い関係、柱を支える裏込め土の状況を観察できた。　**柱：**柱の復元には至らなかった。

SB-67（第 12・27 図）

位置：SK-66 から北へ約 1.5 m離れた地点に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続き、残存する幅は約 80cm、深度約 80cm を計測する。遺構の下部にはアタリ痕がみられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程。および、柱痕と裏込め土の状況を観察できた。　**柱：**柱の復元には至らなかった。

SB-95（第 12・27 図）

位置：SB-67 から北へ約 3 m に位置する。　**規模と形状：**調査区外へと続き不明である。深度は約 56cm である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程、及び柱穴の裏込め土の状況を観察できた。　**柱：**柱痕は不明瞭で、柱の復元には至らなかった。

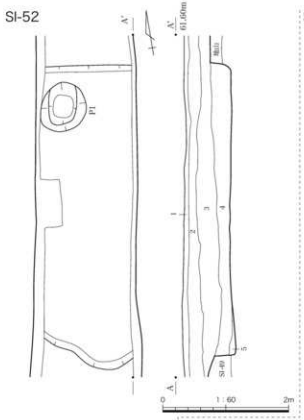
SK-62（第 12・27 図、第 39 表、図版八・二一）

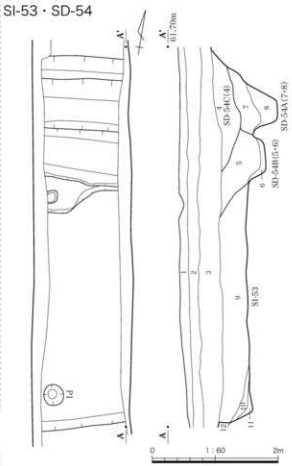
位置：SB-64 とほぼ同地点に位置する。　**重複遺構：**SB-64・SK-63 を切る。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体の規模は不明。　**覆土：**自然堆積による埋没過程、および重複遺構との切り合い関係を観察できた。

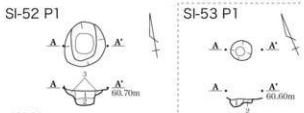
遺物：出土遺物のうち図示し得た資料はないが、陶器片 1 点を写真図版にて掲載する（図版二一）。

SK-63（第 12・27 図、図版八）

位置：SB-64・SK-62 に隣接する土坑である。　**重複遺構：**SB-64・SK-62 によって切られている。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**図示し得た資料はないが、陶磁器片 1 点と須恵器甕破片が 1 点が出土した。陶磁器片は写真掲載し（図版二一）、須恵器甕の破片は SK-62 と同じく SI-69 住居出土の須恵器甕と接合関係にあり SK-62 同様に構築時期は近しいか、あるいは、どちらかが土坑を切っており、須恵器片が分割混入した可能性も考えられる。







SI-52

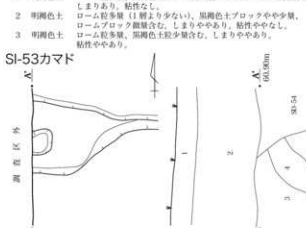
1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　黒褐色土　ローム粒・焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
4　黒褐色土　ローム粒・焼土粒やや少量含む。しまりややあり。粘性あり。
5　明褐色土　ローム粒多量、山砂やや少量、焼土粒少量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-52 P1

1　明褐色土　ローム粒多量、黒褐色土ブロック少量、ロームブロック微量含む。しまりあり。粘性なし。
2　明褐色土　ローム粒多量（1層より少ない）、黒褐色土ブロックやや少量、ロームブロック微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
3　明褐色土　ローム粒多量、黒褐色土粒少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SI-53・SD-54

1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
3　黒褐色土　ローム粒・焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
4　明褐色土・褐色土ブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。SD-54C.
5　褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりなし。粘性ややなし。SD-54B.
6　明褐色土　ロームブロック多量、ローム粒少量含む。しまりややなし。粘性ややなし。SD-54B.
7　褐色土　ローム粒は５層よりもやや多い。焼土粒微量含む。しまりなし。粘性ややあり。SD-54A.
8　明褐色土　ロームブロック・ローム粒多量含む。しまりなし。粘性ややあり。SD-54A.
9　明褐色土　ローム粒多量、焼土粒少量、山砂粒やや少量、山砂ブロック微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
10　褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりなし。粘性なし。
11　明褐色土　ローム粒多量含む。しまりなし。粘性ややあり。
12　暗褐色土　しまりあり。地山。



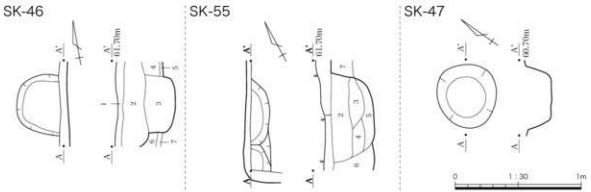
SI-53 P1

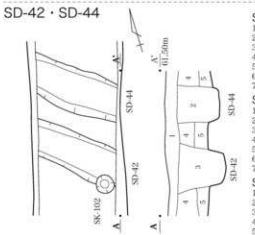
1　暗褐色土　ローム粒少量含む。しまりなし。粘性あり。
2　明褐色土　ローム粒主体。しまりなし。粘性あり。

SI-53カマド

1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
3　褐色土　山砂・焼土粒やや少量含む。しまりなし。粘性ややなし。住居覆土。
4　明褐色土　山砂やや多量、焼土粒やや少量含む。しまりあり。粘性ややなし。袖。
5　明灰褐色土　山砂多量、焼土粒やや少量、炭化物微量含む。しまりややなし。粘性あり。袖。
6　明褐色土　ローム粒・焼土粒やや多量含む。しまりなし。粘性ややなし。焚口ピット。
7　灰褐色土　山砂やや少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。焚口ピット。
8　褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまりなし。粘性あり。焚口ピット。

第 25 図　8 区 SI-52・53・SD-54 実測図





SK-46

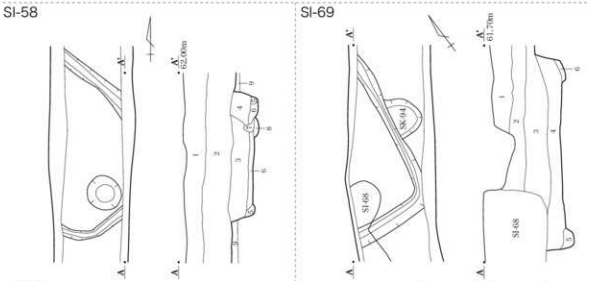
1　黒褐色土　しまりなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　黒褐色土　ローム粒多量、焼土粒少量含む。しまりややあり。粘性なし。
4　黒褐色土　山砂多量、焼土粒やや少量、炭化物粒少量含む。しまりややあり。粘性なし。
5　灰褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む。硬くしまりあり。粘性あり。
6　暗褐色土　白色粒・焼土粒少量含む。しまりなし。粘性ややなし。地山。
7　明褐色土　しまりあり。粘性ややあり。地山。

SK-55

1　黒褐色土　しまりなし。
2　黒褐色土　白色粒微量含む。しまりなし。粘性なし。
3　黒褐色土　焼土粒少量、焼土ブロック微量含む。しまりなし。粘性あり。
4　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりなし。粘性ややあり。
5　褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む。しまりなし。粘性ややあり。
6　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややあり。粘性なし。
7　黒褐色土　しまりややあり。地山。

SD-42・SD-44

1　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりなし。表土。
2　暗褐色土　ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3　暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。しまりなし。粘性なし。
4　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
5　暗褐色土　しまりややあり。粘性ややあり。



SI-58

1　黒褐色土　しまりややなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　暗褐色土　ローム粒やや多量、炭化物粒微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
4　褐色土　山砂粒やや多量、焼土粒少量、山砂ブロック微量含む。しまりややなし。粘性ややあり。
5　明褐色土　ローム粒多量含む。しまりなし。粘性ややあり。
6　明褐色土　山砂粒やや多量、焼土粒少量含む。しまりなし。粘性ややあり。
7　真褐色土　山砂土体、ローム多量含む。しまりなし。粘性ややあり。カマド袖。
8　暗橙褐色土　焼土粒やや多量含む。しまりなし。粘性なし。火床。
9　褐色土　しまりあり。地山。

SI-69

1　黒褐色土　しまりあり。表土。
2　黒褐色土　ローム粒やや少量、焼土少量含む。しまりややあり。粘性なし。
3　暗褐色土　ローム粒やや多量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性ややなし。
4　暗褐色土　ローム粒少量、炭化物微量含む。しまりややあり。粘性なし。
5　黒褐色土　ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
6　明褐色土　ローム粒多量含む。しまりなし。粘性ややなし。

第26図　8区SK-46・47・55・SD-42・44／9区SI-58・69実測図

SK-66（第 12・27 図）

位置：SK-63 から北へ約 5 m の地点に位置する土坑である。　**規模と形状：**調査区外へ続き不明であるが、およそ長方形に近い土坑と考えられる。長軸は不明だが、短軸は 60cm で深度約 10cm と浅い土坑である。

覆土：土層中より微量ながらも焼土粒が確認されている。

SK-70（第 12・27 図）

位置：SB-95 から南西に約 50cm の地点に位置する。　**重複遺構：**SI-68 を切る。　**規模と形状：**長軸 28cm、短軸 24cm を計測し、深度は 36cm である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

SK-94（第 12・27 図）

位置：SI-69 に隣接している。　**重複遺構：**SI-69 を切る。　**規模と形状：**SI-69 の完掘後に確認されたため、平面形は不明である。残存する幅は約 30cm を計測する。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察出来た。

10．10 区

10 区は 9 区の北端から約 2.5 m北東へ離れた地点に位置し東西の幅は約 1.3 m、南北は約 4.6 m の区画である。遺構は確認されていないが、覆土中より土師器・須恵器の小破片と川原石が出土した。小破片で器種特定も困難であったため、川原石は人為的加工痕が無いことから、図示し得ないと判断した。

11．11 区

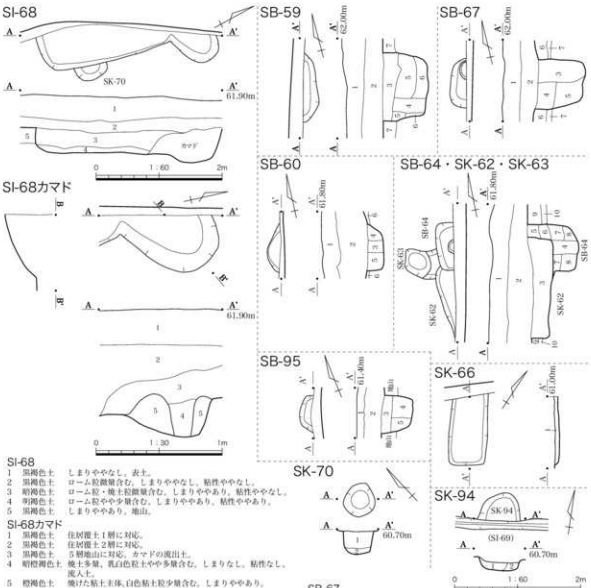
11 区は 10 区北端から約 11 m離れた地点に位置し東西幅約 1.9 m、南北約 41.5 m の長軸を持つ区画である。11 区では、住居跡 3 軒、土坑 6 基、溝状遺構 4 基、性格不明遺構 1 基が確認され、覆土中より土師器・須恵器の小破片が出土した。土師器は器台の脚部片 1 点と、刷毛目を持つ壺が 1 点確認されている。

SI-72（第 13・28・36、第 24 表、図版九）

位置：SD-71 から北へ約 80cm に位置している。　**規模と形状：**全体の規模形状は不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**カマドは住居東壁南よりに付設されており、主軸はN−90°−E である。横幅約 1.3cm、縦幅約 1 m を計測し、カマド内から礫が複数出土した。いずれの礫も脆くなっているものの、直接被熱した痕跡がない。また、礫の表面にうっすらと灰白色粘土が覆っている事をふまえて、出土した礫はカマドの構築材と考えられる。焚口ピットは不整な円形であり、短軸約 42cm、長軸約 54cm、深度約 10cm を計測した。長軸の断面では焚口ピットがカマド手前側では緩やかに立ち上がる。カマド奥煙道付近の立ち上がりは角度がある。短軸と長軸の断面形から、この焚口ピットは火床部内の堆積物を除去する過程で掘り窪んだものとみて良いだろう。　**土坑：**土坑は住居内南壁側中央付近に位置し、全体は調査区外に続くため不明だが床面から掘り込まれているため本遺構に伴う土坑と考えられる。土坑は深度約 24cm で内部は自然堆積とみられる。　**壁溝：**カマド付近と調査区外を除き住居内壁際を巡っている。幅約 28cm、深度約 8 cm である。　**遺物：**出土遺物で図示し得たのは、土師器坏 1 点と土師器甕 1 点である（第 36 図）。1 の甕は内面をナデで整形し、外面は乱調なケズリで整形している。口縁部は内外共にヨコナデを施し、くの字に外反する。2 は浅く平たい坏と考えられる。

SI-78（第 13・29・36 図、第 26 表、図版九・一九）

位置：11 区中央よりやや北に位置する。　**重複遺構：**SD-79 を切る。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体の規模は不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**全体が調査区外へと続いているため、土層断面図で僅かに袖部粘土を確認するだけである。　**柱：**柱穴は住居南西角に位置して



SI-68

1　黒褐色土　しまりややなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　暗褐色土　ローム粒・焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
4　明褐色土　ローム粒やや少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
5　黒褐色土　しまりややあり。地山。

SI-68カマド

1　黒褐色土　住居跡を1層に対応。
2　黒褐色土　住居跡を2層に対応。
3　黒褐色土　5層地山に対応。カマドの流出土。
4　暗橙褐色土　焼土多量、乳白色粒土やや多量含む。しまりなし。粘性なし。
　　流入土。
5　橙褐色土　焼けた粘土主体、白色粘土粒少量含む。しまりややあり。
　　粘性ややなし。焼。

SB-59

1　黒褐色土　しまりややなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
4　暗褐色土　ローム粒やや少量、黒褐色土ブロック少量、焼土粒微量含む。
　　しまりややなし。粘性なし。
5　明褐色土　ローム粒やや多量、焼土粒微量、ロームブロック少量含む。
　　しまりややあり。粘性ややなし。
6　明褐色土　焼土ブロック微量、ローム粒やや多量含む。しまりややあり。
　　粘性ややあり。
7　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりなし。粘性ややなし。地山。

SB-60

1　黒褐色土　しまりややなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややあり。粘性なし。
4　黒褐色土　ロームブロック微量含む。しまりなし。粘性なし。
5　褐色土　ローム粒やや多量含む。しまりなし。粘性なし。
6　黒褐色土　しまりなし。粘性ややなし。地山。

SB-95

1　黒褐色土　しまりあり。表土。
2　黒褐色土　ローム粒少量含む。しまりややあり。
3　暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
4　暗褐色土　ローム粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
5　褐色土　ローム粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-70

1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりややあり。粘性なし。
2　暗褐色土　ロームブロック多量含む。しまりなし。粘性なし。

SB-67

1　黒褐色土　しまりややなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　暗褐色土　ローム粒やや少量含む。しまりなし。粘性なし。
4　暗褐色土　ローム粒やや多量含む。しまりややあり。粘性なし。
5　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多量。
　　黒褐色土ブロック少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
6　黒褐色土　しまりあり。地山。
7　褐色土　しまりあり。地山。

SB-64・SK-62・SK-63

1　黒褐色土　しまりややなし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3　黒褐色土　ローム粒・白色粒少量、焼土粒微量含む。しまりややなし。
　　粘性ややあり。
4　灰褐色土　乳白色粒やや少量含む。しまりなし。粘性なし。
5　褐色土　ローム粒・白色粒やや少量、炭化物微量含む。しまりなし。
　　粘性ややあり。
6　明褐色土　ローム粒やや多量、白色粒少量含む。しまりあり。粘性なし。
7　明褐色土　ロームブロック少量、ローム粒やや多量含む。
　　しまりややあり。粘性ややあり。
8　明褐色土　ロームブロックやや少量、乳白色粘土少量含む。
　　しまりややあり。粘性ややあり。
9　黒褐色土　しまりあり。地山。
10　褐色土　しまりあり。地山。

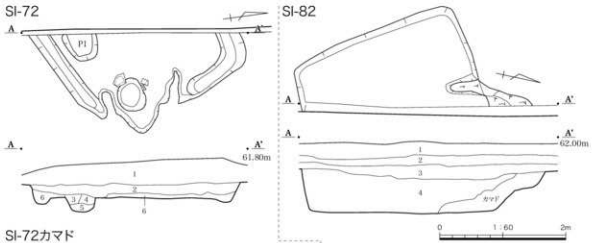
SK-66

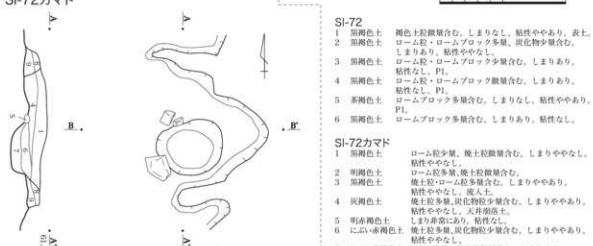
1　褐色土　焼土粒微量含む。しまりなし。粘性なし。

SK-94

1　黒褐色土　ロームブロック多量含む。しまりややなし。粘性なし。
2　暗褐色土　ローム粒・ブロック多量含む。しまりややあり。粘性なし。

第27図　9区SI-68・SB-59・60・64・67・95・SK-62・63・66・70・94実測図



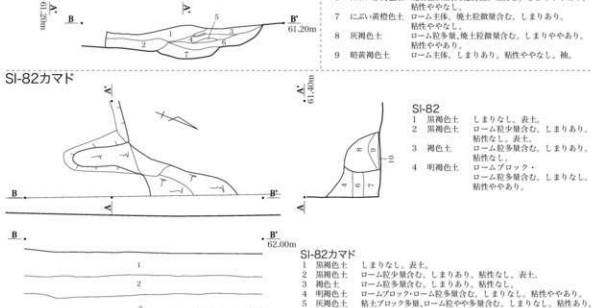


SI-72

1	黒褐色土	褐色土粒微量含む。しまりなし。粘性ややあり。表土。
2	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量、炭化物少量含む。しまりあり。粘性ややなし。
3	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。P1。
4	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック微量含む。しまりあり。粘性なし。P1。
5	茶褐色土	ロームブロック多量含む。しまりなし。粘性ややあり。P1。
6	黒褐色土	ロームブロック多量含む。しまりあり。粘性なし。

SI-72カマド

1	黒褐色土	ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
2	明褐色土	ローム粒多量、焼土粒微量含む。
3	黒褐色土	焼土粒・ローム粒多量含む。しまりややあり。粘性ややなし。流入土。
4	灰褐色土	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。しまりややあり。粘性ややなし。天井崩落土。
5	明赤褐色土	しまり非常にあり。粘性なし。
6	にぶい赤褐色土	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。しまりややあり。粘性ややなし。
7	にぶい黄橙色土	ローム土体。焼土粒微量含む。しまりあり。粘性ややなし。
8	灰褐色土	ローム粒多量、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
9	暗黄褐色土	ローム土体。しまりあり。粘性ややなし。袖。



SI-82

1	黒褐色土	しまりなし。表土。
2	黒褐色土	ローム粒少量含む。しまりあり。粘性なし。表土。
3	褐色土	ローム粒多量含む。しまりあり。粘性なし。
4	明褐色土	ローム粒多量含む。しまりなし。粘性ややあり。

SI-82カマド

1	黒褐色土	しまりなし。表土。
2	黒褐色土	ローム粒少量含む。しまりあり。粘性なし。表土。
3	褐色土	ローム粒多量含む。しまりあり。粘性なし。
4	明褐色土	ローム粒多量含む。しまりなし。粘性ややあり。
5	灰褐色土	粘土ブロック多量、ローム粒やや多量含む。しまりなし。粘性あり。ブリッジ崩落土。
6	黒褐色土	白色粘土粒少量、焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性あり。
7	明褐色土	白色粘土粒・焼土粒少量含む。しまりなし。粘性ややなし。
8	暗褐色土	しまりあり。粘性なし。
9	明褐色土	ローム粒子やや多量含む。しまりあり。粘性なし。
10	明褐色土	白色粘土多量含む。しまりあり。粘性なし。
11	明黒白色土	粘土粒多量、ローム粒・焼土粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。埋還土井。
12	褐色土	しまりあり。粘性なし。地山。

第 28 図　11 区 SI-72・82 実測図

いる。　**壁溝：**壁溝は幅16cm、深度12cmを計測する。住居跡内壁際を巡ると考えられるが、全体か部分的なものかは不明。　**遺物：**出土遺物で図示し得たのは、須恵器坏1点である（第36図）。1の坏は回転ヘラケズリ後に工具で底面をナデつけている。

SI-82（第13・28・37図、第27・36表、図版九・二〇）

位置：11区北側に位置する。　**規模と形状：**住居の南北壁の距離から一辺約3mと考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**調査区外へ続き正確な規模は不明だが、袖端部と煙道端部が若干確認されており、長軸はおよそ1.7m前後と推測される。煙道は緩やかに立ち上がる形状と考えられる。カマド土層断面図A－A’ラインの8～10層は地山を袖の一部としたことが伺える。　**遺物：**出土遺物で図示し得たのは、土師器坏1点と縄文時代の分銅形打製石斧が1点である（第37図）。1の土師器坏は口縁部が短く内径するように立ち上がる。口縁部と坏部に稜があり、ヨコナデで作り出されている。2の打製石斧は流れ込みによる覆土出土遺物である。　**時期：**出土した坏からおよそ6世紀末～7世紀初頭と考えられる。

SK-73（第13・29図）

位置：SI-72から東へ約50cmに位置する。　**規模と形状：**直径約48cmの円形土坑である。深度約32cm、断面形はU字形を呈す。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

SK-75（第13・29図）

位置：SD-74から北へ約50cmに位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続くが、恐らく直径約1m前後の平面不整円形の土坑と考えられる。深度約6cmである。　**覆土：**堆積は非常に浅い。

SK-77（第13・29図）

位置：SD-79の完掘後に確認された土坑。　**重複遺構：**SD-79との新旧関係は不明である。

SK-81（第13・29図）

位置：SX-80から北へ約3mに位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続くが、短軸約1m、長軸約1.78m、深度約12cmの楕円形土坑である。底面に円形の窪みがある。　**覆土：**堆積は浅い。

SK-83（第13・29図、第39表、図版九・二一）

位置：11区北端に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続き、不明である。土層断面図から、広く浅い土坑を、小さく深い土坑が切っていることが判明した。　**覆土：**浅い土坑が5層、深い土坑が2～4層である。　**遺物：**出土遺物で図示し得たのは、土坑内から出土した陶磁器片1点である（図版二一）。

SK-93（第13・29図）

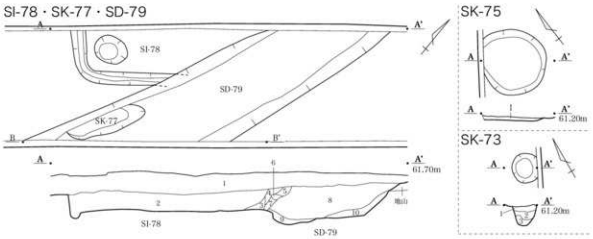
位置：SK-81から西へ約1mの地点に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ遺構が続くため不明である。深度16cmの浅い掘り込みで、断面形は逆台形である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

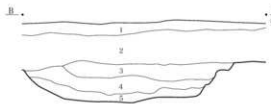
SD-71（第13・30図、図版九）

位置：11区南側に位置する。　**規模と形状：**溝は調査区を東西に横断し、長軸は不明である。南北幅約1.8mを計測し、深度はおよそ58cmである。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

SD-74（第13・30・36図、第25表、図版九・一八）

位置：11区の中央よりやや南に位置する。　**重複遺構：**SD-76を切る。　**規模と形状：**調査区外へ続き不明である。深度はおよそ76cmで、断面形は東側でやや平たい碗形で、西側は歪な碗形を呈す。　**覆土：**自然堆積による埋没過程を観察できた。　**遺物：**出土遺物で図示し得たのは土師器坏1点と土師器坩1点である（第36図）。1の坩は外面と口縁部内面をミガキで整形し赤彩も施し、黒斑が一部にみられる。古墳





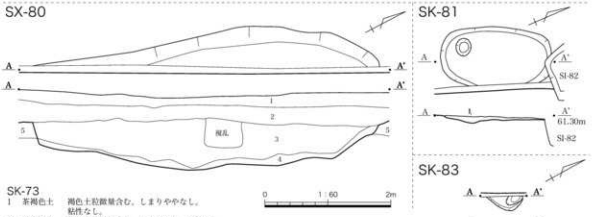
B-B'

1	黒褐色土	ローム粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
2	黒褐色土	褐色土粒・ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりなし。粘性なし。
3	黒褐色土	褐色土ブロック多量含む。しまりなし。粘性ややあり。
4	暗褐色土	ローム粒多量含む。しまりややあり。粘性なし。
5	黄褐色土	ローム土と黒褐色土との混合土。しまりあり。粘性あり。

SI-78・SK-77・SD-79

A-A'

1	黒褐色土	ローム粒少量含む。しまりあり。粘性なし。表土。
2	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック・炭化物中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3	黒褐色土	黒褐色土とローム土の混合土。焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性あり。
4	明褐色土	黒褐色土と灰褐色土との混合土。焼土ブロック少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
5	明褐色土	焼土粒中量含む。しまりなし。粘性なし。
6	暗赤褐色土	焼土からなる層。
7	黒褐色土	黒褐色土と灰褐色土との混合土。焼土粒少量含む。しまりあり。粘性なし。
8	黒褐色土	褐色土粒・褐色土ブロック微量含む。しまりなし。粘性ややあり。
9	黄褐色土	ローム土と黒褐色土との混合土。しまりあり。粘性あり。
10	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック中量含む。しまりあり。粘性なし。



SK-73

1	茶褐色土	褐色土粒微量含む。しまりややなし。粘性なし。
2	黒褐色土	褐色土粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
3	黄褐色土	褐色土ブロック（径5cm強）少量含む。

SK-75

1	黒褐色土	ロームブロック(径5cm強)少量含む。しまりあり。粘性ややなし。

SK-81

1	黒褐色土	ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。

SK-83

1	黒褐色土	ローム粒微量含む。しまりややなし。粘性なし。
2	暗褐色土	ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。
3	暗褐色土	ロームブロック多量含む。しまりややあり。粘性なし。
4	黒褐色土	ロームブロック微量含む。しまりなし。粘性ややなし。
5	明褐色土	ロームブロック微量含む。しまりややあり。粘性なし。

SK-93

1	黒褐色土	褐色土粒微量含む。しまりなし。粘性なし。
2	黒褐色土	褐色土粒・褐色土ブロック少量含む。しまりなし。粘性なし。
3	黒褐色土	ロームブロック多量含む。しまりあり。粘性ややなし。
4	褐色土	ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。地山。

SX-80

1	黒褐色土	ローム粒・褐色土粒微量含む。しまりなし。粘性なし。表土。
2	黒褐色土	褐色土粒・ロームブロック少量含む。しまりなし。粘性なし。
3	暗褐色土	ローム粒・褐色土粒・ロームブロック中量含む。しまりややあり。粘性なし。
4	暗褐色土	ロームブロック多量含む。しまりややあり。粘性なし。
5	暗褐色土	褐色土粒多量含む。しまりあり。粘性なし。地山。

第29図　11区 SI-78・SK-73・75・77・81・83・93・SX-80 実測図

時代中期頃に相当すると考えられる。

SD-76（第 13・30 図、図版九）

位置：11 区の中央よりやや南に位置する。　**重複遺構：**SD-74 に切られている。　**規模と形状：**長軸は調査区外へ続き不明である。短軸は約 1.5 m と考えられるが、隣接する SD-74 に上端が削平されており、正確な幅は不明である。深度約 48cm、断面形は東側で緩やかな「V」字形、西側はやや歪な椀形である。

覆土：自然堆積による埋没過程が観察できた。

SD-79（第 13・29 図、図版九）

位置：11 区の中央やや北に位置する。　**重複遺構：**SI-78 に切られている。　**規模と形状：**調査区外へ続き長軸は不明で、短軸約 1.4 m を計測する。深度約 1 m で断面は歪な逆台形と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**時期：**SI-78 より古い遺構である。

SX-80（第 13・29 図）

位置：SD-79 から北へ約 4 m に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続き不明である。深度は 85cm を計測する。性格不明の遺構である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

12．12 区

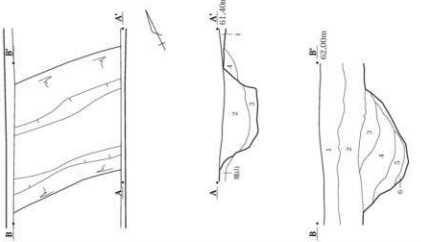
12 区は 11 区北端から北東へ約 8 m の地点に位置している。東西幅は約 1.8 m、南北は約 9 m の長軸を持つ区画である。12 区では、住居跡 1 軒、溝状遺構 1 基、土坑が 2 基確認されている。調査区内の覆土中より土師器・須恵器の小破片が出土している。

SI-87（第 14・31・37 図、第 30 表、一〇・一九）

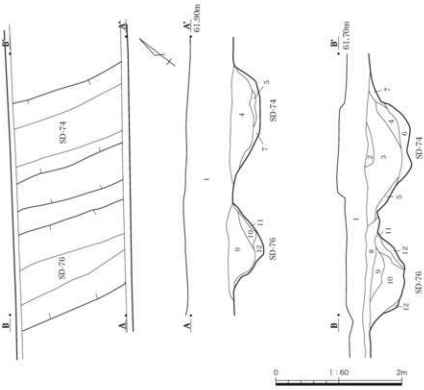
位置：12 区北側に位置する。　**重複遺構：**SD-86 に一部切られている。　**規模と形状：**調査区外へ続き、南壁面は SD-86 が切り、住居跡全体の規模は不明であるが、南北壁の距離から一辺約 5 m の住居と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**カマドは住居北壁に付設され、主軸はN－7°－E である。袖の一部が調査区外へと続き詳細な規模は不明だが、短軸およそ 1 m、長軸 1.4m を計測する。4 層が堆積する窪みは焚口ピットの可能性が高い。　**壁溝：**住居内壁際にて壁溝が確認された。幅約 16cm・深度約 8 cm である。

遺物：出土遺物で図示し得たのは、須恵器坏 1 点、須恵器坏蓋 1 点、須恵器甕 1 点、土師器底部片 1 点、磨石 1 点である（第 37 図）。須恵器坏と坏蓋は SD-86 出土遺物と接合関係にある。1 はカマド前出土の須恵器の高台付坏である。底部は回転ヘラ切り離しで、高さ約 6mm の高台が付く。体部には一本書きの短い波状文が施文されている。SD-86 出土の破片と接合関係にある。2 はカマド出土の土師器甕底部である。内面に指ナデとヘラナデの痕跡がある。外面にヘラケズリの痕跡があり、底部に近い部位はケズリの方向は上から下ではなく横方向などもあり乱調である。外面は被熱により摩滅している面とススｰコゲが付着している面があり、ススｰコゲは内容物が吹きこぼれた様に底部に至る。また、底部～体部の破断面には約 15cm の長さに亘りコゲが付着している。これは甕底部に発生したヒビに内容物が浸透したため破断面にコゲが付着したと考えられ、これにより甕が破損した原因と思われる。3 は須恵器甕の体部片である。指ナデによる調整と当て具の痕跡が若干確認できた。外面にタタキがみられる。4 は坏蓋で、回転ヘラ切りにより切り離され、中央につまみが付く。外面にはヘラ描きが確認できた。SD-86 出土の破片と接合関係にある。　**時期：**出土須恵器から 7 世紀末～ 8 世紀初頭と考えられる。

SD-71



SD-74・76



SD-71 A-A'(西壁)

1　茶褐色土　褐色土粒少量含む。しまりあり。粘性なし。
2　黒褐色土　褐色土粒多量含む。しまりあり。粘性なし。
3　黒褐色土　ロームブロック(径5cm強)多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4　茶褐色土　ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

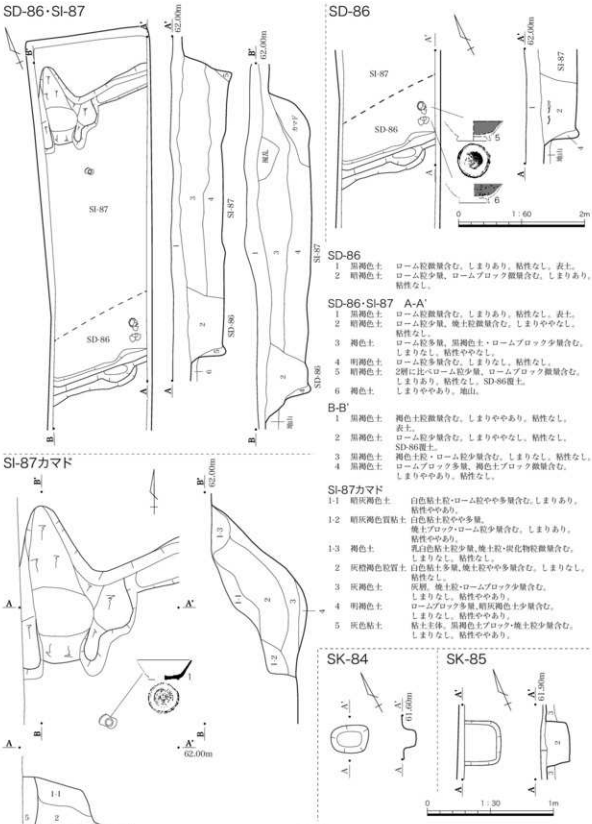
B-B'(東壁)

1　明褐色土　ローム粒多量含む。しまりあり。粘性なし　表土。
2　茶褐色土　褐色土粒少量含む。しまりあり。粘性なし。
3　黒褐色土　褐色土粒多量、褐色砂質土ブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。
4　黒褐色土　ローム粒多量含む。しまりあり。粘性なし。
5　黒褐色土　ロームブロック中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性なし。
6　黒褐色土　ロームブロック(径5cm強)多量含む。しまりあり。粘性ややあり。

SD-74・76

1　黒褐色土　褐色土粒微量含む。しまりなし。粘性なし。表土。
2　黒褐色土　ロームブロック微量含む。しまりややなし。粘性なし。
3　黒褐色土　褐色土ブロック・ロームブロック多量含む。しまりややあり。粘性なし。
4　黒褐色土　褐色土粒・ローム粒・ロームブロック中量含む。しまりあり。粘性なし。
5　暗褐色土　ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。
6　黒褐色土　暗褐色土と黒褐色土の混合土。しまりややあり。粘性なし。
7　黄褐色土　ローム主体、黒褐色土との混合土。しまりあり。粘性ややあり。
8　黒褐色土　ローム粒多量含む。しまりあり。粘性なし。
9　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。粘性なし。
10　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりややあり。粘性なし。
11　黒褐色土　ロームブロック少量含む。しまりややあり。粘性なし。
12　黄褐色土　ローム土と黒褐色土との混合土。しまりあり。粘性なし。

第30図　11区 SD-71・74・76 実測図



SD-86

1　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりあり。粘性なし。表土。
2　暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。しまりあり。粘性なし。

SD-86・SI-87　A-A'

1　黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりあり。粘性なし。表土。
2　暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまりややなし。粘性なし。
3　褐色土　ローム粒多量、黒褐色土・ロームブロック少量含む。しまりなし。粘性ややなし。
4　明褐色土　ローム粒多量含む。しまりなし。粘性なし。
5　暗褐色土　2層に比べローム粒少量、ロームブロック微量含む。しまりあり。粘性なし。SD-86覆土。
6　褐色土　しまりややあり。地山。

B-B'

1　黒褐色土　褐色土粒微量含む。しまりややあり。粘性なし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒少量含む。しまりややなし。粘性なし。SD-86覆土。
3　黒褐色土　褐色土粒・ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
4　黒褐色土　ロームブロック多量、褐色土ブロック微量含む。しまりややあり。粘性なし。

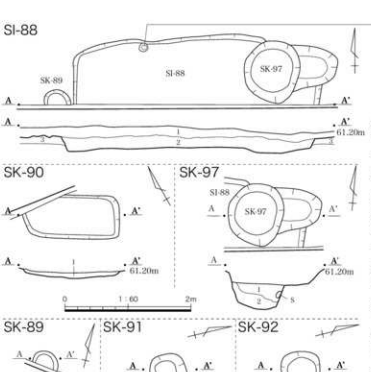
SI-87カマド

1-1　暗灰褐色土　白色粘土粒・ローム粒やや多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
1-2　暗灰褐色質粘土　白色粘土粒やや多量。焼土ブロック・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
1-3　褐色土　乳白色粘土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。しまりなし。粘性なし。
2　灰橙褐色粒質土　白色粘土多量、焼土粒やや多量含む。しまりなし。粘性なし。
3　灰褐色土　灰層、焼土粒・ローム粒ブロック少量含む。しまりなし。粘性ややあり。
4　明褐色土　ロームブロック多量、暗灰褐色土少量含む。しまりなし。粘性ややあり。
5　灰色粘土　粘土主体。黒褐色土ブロック・焼土粒少量含む。しまりなし。粘性ややあり。

SK-85

1　黒褐色土　褐色土粒微量含む。しまりなし。粘性なし。表土。
2　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック中量含む。しまりあり。粘性なし。
3　茶褐色土　褐色土ブロック少量含む。しまりややあり。粘性なし。地山。

第31図　12区 SI-87・SD-86・SK-84・85 実測図



第 32 図　13 区 SI-88・SK-89～92・97 実測図

SK-84（第 14・31 図）

位置：12 区南に位置する。　**規模と形状：**短軸約 22cm、長軸約 30cm、深度約 10cm の断面長方形を呈す。

SK-85（第 14・31 図）

位置：SK-84 から北西へ 60cm の地点に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続き全体の形状は不明だが、平面は長方形と考えられる。短軸約 34cm、深度約 20cm の断面長方形の土坑である。　**覆土：**自然堆積の埋没過程が観察できた。　**遺物：**出土遺物で図示し得た資料は無く、土師器・須恵器の小破片のみである。

SD-86（第 14・31・37・39 図、第 28・29・37 表、図版一〇・一九・二一）

位置：SI-87 と同地点である。　**重複遺構：**SI-87 を一部切る。　**規模と形状：**調査区外へ続き、全体は把握し得なかったが、幅約 1.2 m、深度約 1.2 m を計測し断面形はほぼ逆台形である。また、本遺構は下層にある SI-87 の床面（地山のローム層）に達すると掘削を中止している。　**覆土：**堆積状況・遺物出土状況から本遺構は人為的に埋め立てられたと推測される。

遺物：出土遺物で図示し得たのは、土師器坏 4 点、土師器甕 1 点、灰釉陶器 1 点、土製品 1 点、縄文土器 2 点である（第 37・39 図）。一部は SI-87 の出土資料と接合関係にある。また、4・5 は、1 層のみで構成され、SD-86 の堆積土内中位やや上から平面的に出土している。これらから人為的埋め立てにより SD-86 は構築されたと考えられる。2 は土師器の坏で内面と外面の一部にススが付着している。3 は灰釉陶器である。口縁部内側周縁にはうっすらと釉薬がみられる。4 は内面黒色処理の坏である。底部は摩滅のため切り離しの技法は不明である。内面には一部にミガキが確認されたが摩滅が激しく全容は不明である。5 の坏は

内面黒色処理の高台付坏である。高台内面側では指ナデによりやや窪んでいる。内面は黒色処理に加えミガキが施される。内面底部のミガキは直角に交叉するよう磨かれており、内面口縁部のミガキは外周するように全体が磨かれている。６は内面黒色処理の高台付坏である。７は土錘である。８・９・10・11 は鍋文土器片である。　**時期：**10 世紀後半と考えられる。

13．13 区

13 区は 12 区北端より約２m 離れた地点に位置し南北は幅約 1.5 m、東西は約 14 mの長軸を持つ区画である。13 区では、住居跡が１軒、土坑が５基確認されている。覆土中より土師器・須恵器の小破片が出土している。中には６世紀頃の土師器坏とみられる破片資料がいくつか確認されている。

SI-88（第 14・32・37 図、第 31・39 表、図版一〇・二〇・二一）

位置：13 区東に位置する。　**重複遺構：**SK-97 に切られている。　**規模と形状：**全体の規模などは不明である。若干残存する東壁と西壁の距離から、一辺約４m の住居跡と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。

遺物：出土遺物で図示し得たのは、土師器坏１点のみである（第 37 図）。陶器片１点は図示し得ないと判断したが、図版二一にて掲載する。１はロクロ成形で回転ヘラ切りにより底部が切り離されている土師器坏である。内面と外面の一部にススが付着している。また、底部のヘラ切り離しと異なり、ヘラ状工具を用いて約１周半回転させ沈線を形成している。破断面に植物繊維が混入した痕跡がみられる。２は内外供に透明度の高い色味の薄い釉薬がかかっている。　**時期：**10 世紀頃と考えられる。

SK-89（第 14・32 図）

位置：SI-88 に隣接した地点に位置する。　**規模と形状：**円形に近い平面形を呈すと考えられる。　**覆土：**柱痕と柱を支える裏込め土の状況を観察できた。　**柱：**ローム粒を含み流入土の可能性があり、柱の直径の復元は行わなかった。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得たのはなく、土師器・須恵器の小破片のみである。

SK-90（第 14・32 図）

位置：13 区中央よりの西側に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続き、正確な規模と平面形は不明であるが、恐らく短軸約 65cm・長軸推定 1.56 m の長方形ないし五角形の平面形と考えられる。　**覆土：**浅い堆積土が観察できた。　**遺物：**出土遺物のうち図示し得た資料はなく、土師器・須恵器の小破片のみである。

SK-91（第 14・32 図）

位置：SK-90 から西へ 1.3m の地点に位置する。　**規模と形状：**平面形はほぼ円形で直径約 30cm 前後、深度は約 20cm、断面は緩やかなU字形を描いている。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

SK-92（第 14・32 図）

位置：13 区の西端に位置する土坑である。　**規模と形状：**平面形は円形で直径約 30cm、深度は 18cm である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

SK-97（第 14・32 図、図版一〇）

位置：13 区東側に位置する。　**重複遺構：**SI-88 南西角を切る。　**規模と形状：**円形の土坑と長楕円形の土坑が切り合っているのが確認された。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

14．遺構外出土遺物

第１次調査により出土した遺物のうち、遺構に伴わない資料で特徴的なものを報告する。また、出土区画

不明資料は単純に遺跡の表採資料として取扱い、区画の判明している資料は区画表採とし報告する。

７区表採資料（第40図、第38表、図版二〇）

１の鉄製品はSI-41付近にて表採されており、紡錘車の軸棒の可能性がある。

８区表採資料（第37・38・39・40図、第32・36・37表、図版一九・二〇）

１は土師器甕である。内面に若干ヘラナデの痕跡が見られるが、外面ではナデのみ観察できた。４は内面黒色処理の土師器高台付坏である。皿状を呈し内面には精緻なミガキがみられる。底部は回転ヘラ切りにより切り離され、高台部は端部に段を設けている。外面には「千万」と墨書がある。５は須恵器口縁部片である。口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、口唇部直下から外反する。口唇部の断面形はやや扁平な三角形を呈し、外面側の口唇部付け根には斜位方向に連続して刻線がみられるため、口唇部を接合する際に施されたものと考えられる。口縁部内面は摩滅により調整や成形ともに不明であるが、外面側に波状文を二段確認した。下段の波状文は上端のみ僅かにみてとれるのみのため、実際に何段構成の波状文であるかは不明。上段の波状文は５本の櫛歯からなる。６は灰釉陶器の頸部片と思われる。６の頸部片は内外ともに自然釉が付着している。このほかに２点ほど８区表採の灰釉陶器片があるが、各々接合はせず、また、小破片であることから図示しえないと判断して６をのぞき写真と表で示した。７は肩部の破片と思われ、外面に長方形の範囲で型押し文の痕跡がある。文様自体は摩滅により不明瞭であるが、胎土と型押しの文様があることから常滑産と考えられる。８は須恵器高坏の裾部片である。９は円面硯の底部片である。底部直上には平行な突帯が巡り、透かし孔が二つ確認でき、透かし孔間の柱部には縦に２本の刻線があったと考えられる。11は台石と思われ、石の表面は丸く、やや光沢がある。また、石皿のような窪みや擦痕がみられなかったため台石と判断した。

11区表採資料（第38図、第33表）

１は手捏土器である。口縁部がやや外反するように成形されており、外面には粘土紐の輪積み列が顕著にみられるが、体部外面の底部付近はケズリによる面取りが行われている。残存部が少なく、本来は甕の様な形状をしていたと考えられるが、口縁部が歪んでおり歪な様相を呈している。

12区表採資料（第38図、第34表、図版二〇）

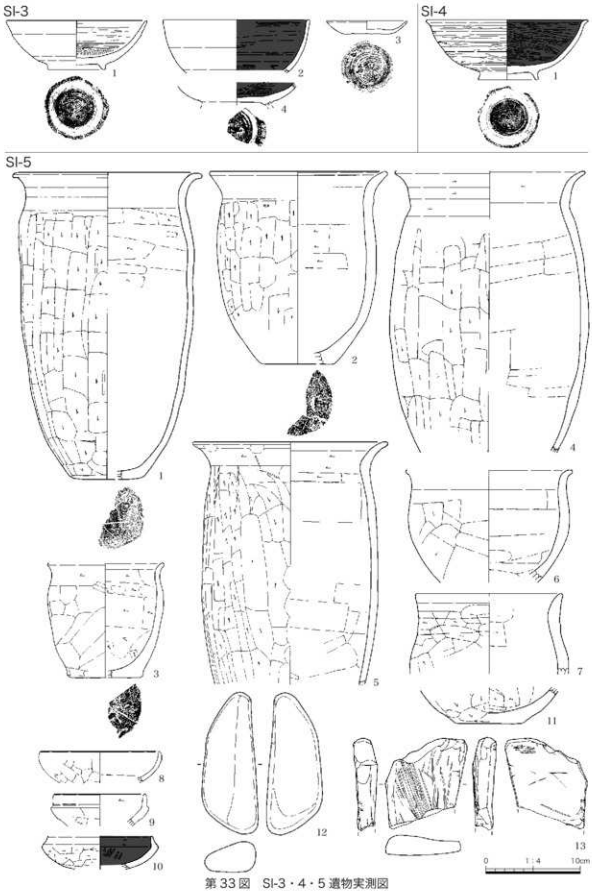
１は土師器坏底部片と考えられる。外面に墨書があるが判読不能である。内面は黒色処理されており全体に乱調だが精緻なミガキが施されている。

13区表採資料（第39表、図版二一）

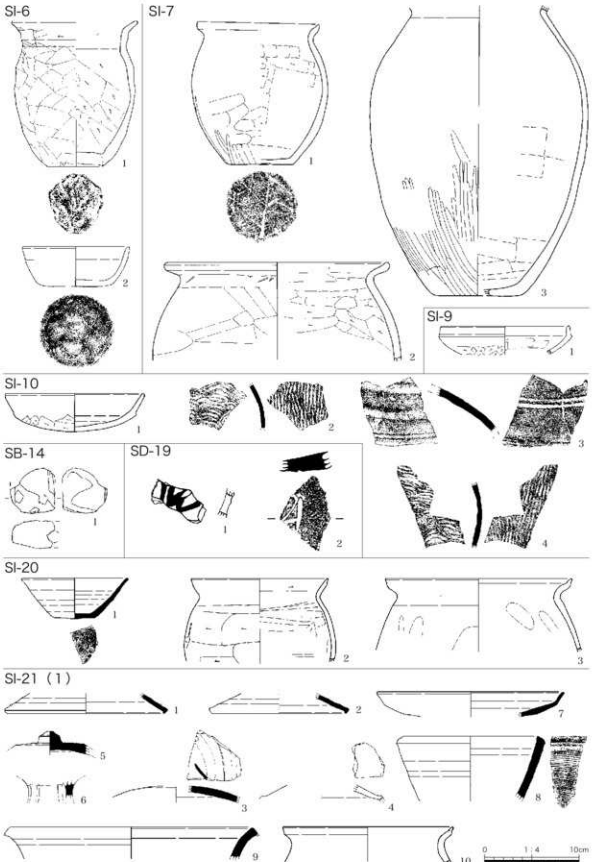
１は褐色の釉薬がかかっている陶磁器片である。図版二一にて掲載している。

その他表採資料（第38図、第35・39表、図版二〇・二一）

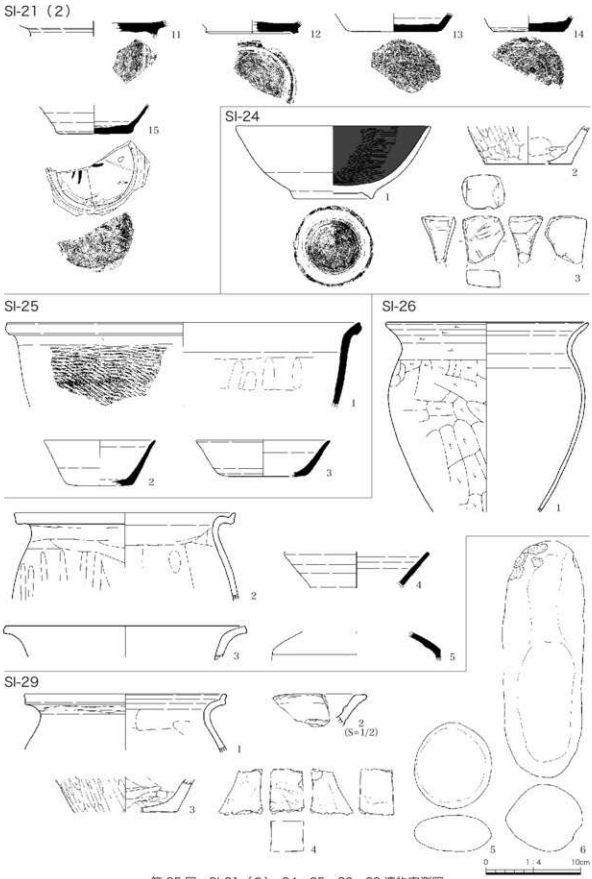
１はかわらけである。２は土師器坏である。内面には赤彩があり、外面に墨書があるが判読不能である。内面はナデにより成形され、外面はケズリによる整形が確認できた。５は土師器高台付坏である。回転ヘラ切りの痕が残る。坏の破断面には火熱によるススが付着しているため、坏が破砕した後に火を受けたものと考えられる。表採６～13の資料は図示し得ないと判断し、写真と表で報告する（図版二一）。



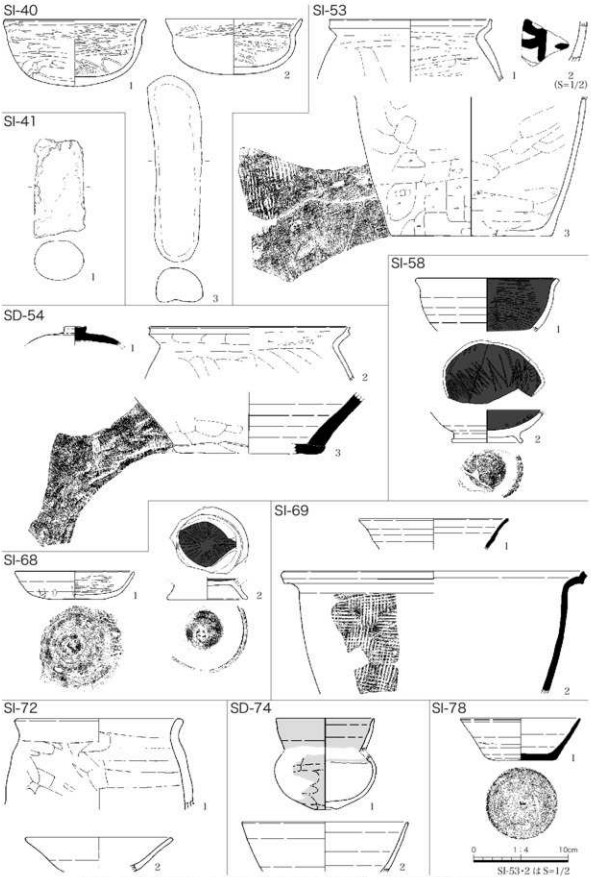
第 33 図　SI-3・4・5 遺物実測図



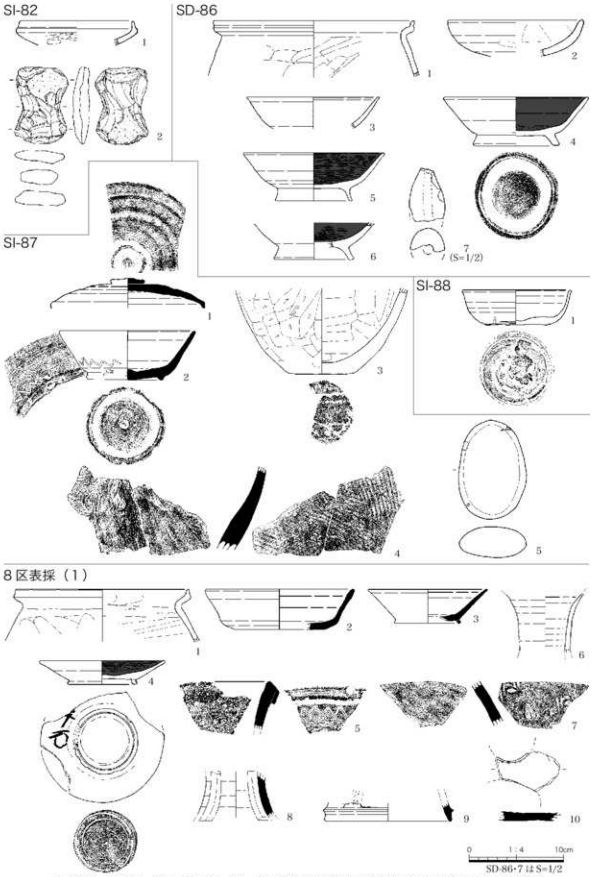
第 34 図　SI-6・7・9・10・20・21（1）・SB-14・SD-19 遺物実測図



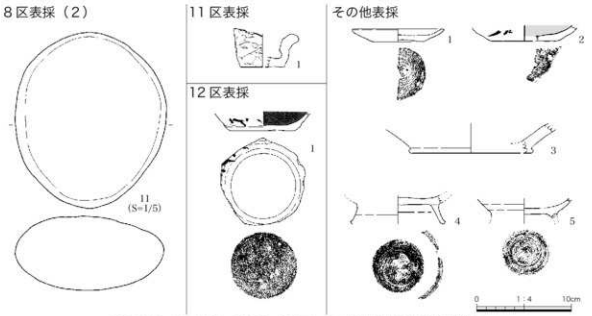
第 35 図　SI-21（2）・24・25・26・29 遺物実測図



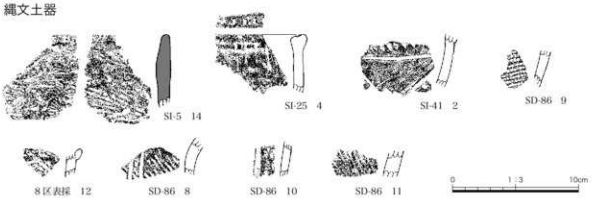
第 36 図　SI-40・41・53・58・68・69・72・78・SD-54・74 遺物実測図



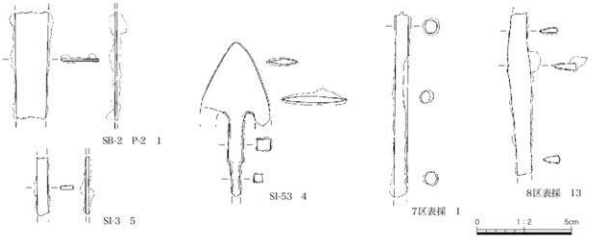
第37図　SI-82・87・SD-74・86・SI-88遺物実測図／８区（１）遺構外出土遺物実測図



第38図　8区（2）・11区・12区・その他遺構外出土遺物実測図



第39図　遺物実測図（縄文土器）



第40図　遺物実測図（鉄製品）

第2表　SI-3 出土遺物観察表

（　）：残存値

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値(cm)	色調(内/外)	胎土	焼成	残存率	技法(内/外)	特徴・備考	出土位置
33	1	土師器 坏	口径(14.8) 底径6.0 器高5.2	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	白色砂粒少量、黒色砂粒微量	良好	口縁部～体部約1/6残存、底部完存	口：ヨココガキ/ヨコナデ 体：ヨココガキ/ヨコナデ 底：ヨココガキ/ヨココガキ・一部ケズリ	口縁下に工具による浅い沈線が横位に走る。高さ6mmの高台が付く。	SI-3
33	2	土師器 坏	口径(15.3) 底径－ 器高5.5	内：N3/ 暗灰 外：10YR7/4 にぶい黄褐	白色砂粒微量	良好	口縁部～体部下半約1/4残存	口：ヨココガキ/ヨココガキ・ヨコナデ 体：ヨココガキ/ナデ 底：－/－	内面黒色処理Ⅰ類部がやや外反する。	SI-3
33	3	かわらけ	口径8.4 底径4.6 器高1.4	内：10YR6/3 にぶい黄褐 外：7.5YR7/6 橙	白色砂粒微量・黒色砂粒微量	良好	ほぼ完存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/ナデ 底：ナデ/糸切り	底部に直線状の黒斑あり。ロクロ右回転。外面に直線状の黒斑がみられる。	SI-3
33	4	土師器 高台付坏	口径－ 底径－ 器高2.0	内：N3/ 暗灰 外：5YR5/4 にぶい黄褐	白色砂粒少量	良好	底部約1/5残存	口：－/－ 体：－/－ 底：ヨココガキ/ナデ・ケズリ	内面黒色処理、摩耗が激しいが高台が付く。SI-4出土資料と接合関係。	SI-3・SI-4カマド

第3表　SI-4 出土遺物観察表

（　）：残存値

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値(cm)	色調(内/外)	胎土	焼成	残存率	技法(内/外)	特徴・備考	出土位置
33	1	土師器 坏	口径(16.8) 底径6.2 器高6.2	内：N3/ 暗灰 外：10YR4/2 灰黄褐	黒色砂粒微量	良好	口縁部～体部下半約1/4残存・底部完存	口：ヨココガキ/ヨココガキ 体：ヨココガキ/ヨココガキ 底：ヨココガキ/ナデ	内面黒色処理、スス吸着。高台部に植物繊維がみられる。	SI-4 カマド

第4表　SI-5 出土遺物観察表

（　）：残存値

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値(cm)	色調(内/外)	胎土	焼成	残存率	技法(内/外)	特徴・備考	出土位置
33	1	土師器 甕	口径19.6 底径6.6 器高32.4	内：2.5YR5/6 明赤褐 外：2.5YR5/8 明赤褐	白色砂粒・長石少量、黒色砂粒微量	良好	90%残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラケズリ 底：ヘラナデ/ヘラケズリ	底部に木葉痕あり。	SI-5・SI-5 カマド・SI-5 カマド2
33	2	土師器 甕	口径18.5 底径(7.6) 器高20.3	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR7/8 黄橙	白色砂粒・黒色砂粒微量	良好	90%残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラナデ 底：ヘラナデ/ヘラナデ	底部に木葉痕あり。器面外面に植物繊維圧痕が見られる。	SI-5・SI-5 カマド1・SI-5 表採
33	3	土師器 甕	口径(11.8) 底径7.0 器高12.1	内：7.5YR7/6 黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	白色砂粒微量	良好	口縁部～底部約1/3残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヨコナデ 底：ヘラナデ/ナデ	底部に木葉痕、外面に黒斑あり。	SI-5
33	4	土師器 甕	口径(19.6) 底径－ 器高29.6	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR5/6 明褐	白色砂粒少量、黒色砂粒微量	良好	約1/3残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラケズリ 底：－/－	器面外面にススが付着している。	SI-5 カマド・SI-5 カマド2
33	5	土師器 甕	口径20.2 底径－ 器高27.6	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	白色砂粒少量、黒色砂粒微量	良好	約70%残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ケズリ 底：－/－	黒斑が二箇所ある。	SI-5 カマド3
33	6	土師器 甕	口径(17.1) 底径－ 器高11.4	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：10YR6/4 にぶい黄橙	赤褐色砂粒微量、白色砂粒微量	良好	約1/3残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラケズリ 底：－/－		SI-5 カマド
33	7	土師器 甕	口径(15.3) 底径－ 器高8.3	内：2.5Y6/2 灰黄 外：7.5YR6/6 橙	白色砂粒少量、赤褐色粗砂微量	良好	口縁部のみ約80%残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラナデ 底：－/－	爪痕用文様。全体的に粗製なつくりで、外面は貼土超低が よく見える。	SI-5 カマド2・SI-5 カマド4
33	8	土師器 坏	口径(12.5) 底径－ 器高3.3	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/3 浅黄	白色砂粒・黒色砂粒微量	良好	口縁部約1/8残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ケズリ 底：－/－		SI-5 表採

33	9	土師器 坏	口径(10.6) 底径 － 器高 3.4	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	黒色砂粒 微量	良好	口縁部 約 10% 残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ケズリ 底：－/－		SI-5 表採
33	10	土師器 坏	口径(11.0) 底径 － 器高 3.4	内：7.5YR2/1 黒 外：7.5YR3/1 黒褐	黒色砂粒 微量	良好	口縁部 約 1/5 残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ミガキ/ケズリ 底：－/－	内面に若干歪がみられる。	SI-5 カマド
33	11	土師器 甕	口径 － 底径 6.5 器高 3.8	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：2.5Y6/3 にぶい黄	白色砂粒・ 黒色砂粒 少量	良好	底部のみ 約 80% 残 存	口：－/－ 体：－/－ 底：ヘラナデ/ヘラナデ	外面に黒斑あり。	SI-5 カマド

第５表　SI-6 出土遺物観察表

（　）：残存値

検図 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内/外）	胎土	焼成	残存率	技法（内/外）	特徴・備考	出土位置
34	1	土師器 甕	口径(13.3) 底径 5.7 器高 15.2	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：2.5YR4/2 暗灰黄	白色砂粒・ 長石多量、 雲母微量	良好	約 1/2 残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ナデ 底：ナデ/ナデ	胎土中の砂粒が大き い。	SI-6 床上 23cm・ SB-2 P2
34	2	土師器 坏	口径 11.0 底径 6.5 器高 4.0	内：2.5YR5/6 明赤褐 外：10YR5/3 にぶい黄褐	石英・角 閃石微量	良好	ほぼ完存	口：ミガキ/ヨコナデ 体：ミガキ/ヨコナデ 底：ミガキ/糸切り	内外にススが付着して いる。赤彩が内面に施 される。灯明皿。	SI-6

第６表　SI-7 出土遺物観察表

（　）：残存値

検図 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内/外）	胎土	焼成	残存率	技法（内/外）	特徴・備考	出土位置
34	1	土師器 甕	口径 12.7 底径 6.8 器高 15.0	内：5YR5/6 明赤褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	長石・白 色砂粒少 量、石英・ 雲母微量	良好	完形	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ・ケズリ/タテミガ キ・ナデ 底：ナデ・ケズリ/ケズリ	窯転用支脚。 全体が被熱している。 底部に木葉痕あり。	SI-7 カマド
34	2	土師器 甕	口径 (22.8) 底径 － 器高 －	内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：7.5YR7/5 橙	長石・白 色砂粒少 量、石英・ 雲母微量	良好	口縁部～ 体部 約 1/5 残 存	口：ヨコナデ/ナデ・ケズリ 体：ナデ/ナデ・ケズリ 底：－/－	口縁部は断面山形を呈 す。	SI-7 カマド
34	3	土師器 甕	口径 － 底径 (9.2) 器高 30.4	内：7.5YR7/8 黄橙 外：7.5YR7/6 橙	白色砂粒・ 長石少量、 雲母微量	良好	約 60% 残 存	口：－/－ 体：ヘラナデ/タテミガキ 底：ヘラケズリ/ケズリ	全体が被熱している。	SI-7 カマド

第７表　SI-9 出土遺物観察表

（　）：残存値

検図 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内/外）	胎土	焼成	残存率	技法（内/外）	特徴・備考	出土位置
34	1	土師器 坏	口径 (15.2) 底径 － 器高 3.0	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR5/3 にぶい黄褐	白色砂粒・ 角閃石微 量	良好	口縁部 約 10%残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ケズリ 底：－/－		SI-9

第８表　SI-10 出土遺物観察表

（　）：残存値

検図 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内/外）	胎土	焼成	残存率	技法（内/外）	特徴・備考	出土位置
34	1	土師器 坏	口径 (14.3) 底径 － 器高 －	内：7.5YR8/6 浅黄橙 外：10YR8/6 黄橙	白色砂粒・ 長石・雲 母・角閃 石微量	良好	約 3/4 残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/ケズリ 底：ナデ/ケズリ	灯明皿。	SI-10 表採
34	2	須恵器 瓶	口径 － 底径 － 器高 5.1	内：10Y6/1 灰 外：7.5Y7/1 灰白	白色砂粒 微量	良好	体部 約 10%以 下	口：－/－ 体：当て具/タタキ締め 底：－/－		SI-10 表採
34	3	須恵器 甕	口径 － 底径 － 器高 4.8	内：2.5Y7/1 灰白 外：7.5Y5/1 灰	白色砂粒・ 長石微量	良好	肩部 約 1/5 残 存	口：－/－ 体：ヨコナデ/ヨコナデ 底：－/－	三本の沈線が巡る。	SI-10 表採

34	4	須恵器 甕	口径 － 底径 － 器高 7.5	内：7.5Y6/1 灰 外：10Y6/1 灰	白色砂粒 微量	良好	体部 約 10%以 下	口：－/－ 体：当て具/タタキ締め 底：－/－		SI-10 表採

第９表　SB-14 出土遺物観察表（土製品）

掲図番号	掲載番号	種類器種	色調	計測値 (mm・g)					特徴・備考	出土位置
				最大長	最大幅	最大厚	穿孔部直径	重量		
34	1	土製品	外：7.5YR5/4 にぶい褐	42.0	46.0	29.0	12.0	55.38	穿孔部あり。ナデが部分的にみられる。	SB-14

第 10 表　SD-19 出土遺物観察表

掲図番号	掲載番号	種類器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
34	1	土師器 坏	口径 － 底径 － 器高 1.5	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄	白色砂粒 微量	良好	体部片 10%以下	口：－/－ 体：ナデ/ナデ 底：－/－	墨書あり。	SD-19
34	2	須恵器 底部片	口径 － 底径 － 器高 0.9	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：5Y6/1 灰	白色砂粒 微量	良好	底部 約 10%残 存	口：－/－ 体：－/－ 底：ナデ/ナデ	工具による文字書きあり。	SD-19

第 11 表　SI-20 出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
34	1	須恵器 坏	口径 (11.1) 底径 (4.2) 器高 4.1	内：10YR3/1 黒褐 外：2.5Y5/2 暗灰褐	白色砂粒 少量、角 閃石微量	良好	口縁部～ 底部 約 1/5 残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/ナデ 底：ナデ/ケズリ	口縁部はやや外反する。	SI-20 カマド
34	2	土師器 甕	口径 (14.2) 底径 － 器高 8.6	内：7.5YR4/2 灰褐 外：7.5YR5/4 にぶい褐	雲母・長 石微量	良好	体部上半 ～口縁部 約 1/4 残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ナデ・ケズリ 底：－/－	内面にススあり。	SI-20 カマド２
34	3	土師器 甕	口径 (19.4) 底径 － 器高 7.1	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR4/6 赤褐	白色砂粒 少量、石 英・長石 微量	良好	口縁部約 2/3～肩 部約 1/4 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/ナデ 底：－/－	受け皿部はやや外反気味に立ち上がる。	SI-20 カマド１

第 12 表　SI-21 出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
34	1	須恵器 坏蓋	口径 (16.4) 底径 － 器高 2.1	内：2.5Y5/1 黄灰 外：7.5YR7/1 明褐灰	白色砂粒・ 黒色砂粒 微量	良好	口縁部 約 10%残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/ナデ 底：－/－	重ね焼きした別個体が癒着している。一部に自然釉がふかっている。	SI-21
34	2	須恵器 坏蓋	口径 (13.9) 底径 － 器高 2.1	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：10YR6/2 褐灰	白色砂粒・ 黒色砂粒 微量	良好	口縁部 約 10%残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/ナデ 底：－/－		SI-21
34	3	須恵器 坏蓋	口径 － 底径 － 器高 1.5	内：7.5Y5/1 灰 外：10Y5/1 灰	白色砂粒 微量	良好	体部 約 1/5 残 存	口：－/－ 体：ナデ/ナデ 底：－/－	墨書あり。	SI-21
34	4	須恵器 坏蓋	口径 (12.5) 底径 － 器高 2.1	内：2.5Y5/3 黄褐 外：2.5Y5/2 暗灰黄	白色砂粒・ 長石少量、 白色非状 物質微量	良好	口縁部 約 10%残 存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ヨコナデ 底：－/－	朱書きあり。	SI-21
34	5	須恵器 坏蓋	口径 － 底径 － 器高 2.5	内：2.5Y5/1 黄灰 外：5Y5/1 灰	白色砂粒・ 長石微量	良好	つまみ完 存・蓋部 約 10%残 存	口：－/－ 体：ナデ/ケズリ 底：－/－		SI-21

34	6	須恵器 高坏	口径 － 底径 － 器高 2.1	内：7.5Y5/1 灰 外：5Y5/1 灰	白色砂粒 微量	良好	脚柱 約 10% 残存	口：－/－ 体：ヨコナデ/ナデ 底：－/－	4 方向に透かし孔。	SI-21
34	7	須恵器 鉢	口径 (19.7) 底径 － 器高 2.6	内：2.5Y5/1 黄灰 外：10YR5/1 褐灰	白色砂粒・ 長石・白 色鉄状物 質微量	良好	口縁部 約 10% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/ヘラケズリ 底：－/－		SI-21
34	8	須恵器 壺蓋	口径 (14.0) 底径 － 器高 6.5	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：10YR5/2 灰黄褐	白色砂粒 微量	良好	口縁部 約 10% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/ヘラナデ 底：－/－		SI-21
34	9	須恵器 蓋	口径 (25.6) 底径 － 器高 3.3	内：5Y5/1 灰 外：N 5/ 灰	白色砂粒・ 長石少量	良好	口縁部 約 10% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：－/－ 底：－/－		SI-21
34	10	土師器 蓋	口径 (17.8) 底径 － 器高 4.0	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR5/3 にぶい黄褐	白色砂粒・ 長石少量、 雲母微量	良好	口縁部 約 10% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：－/－ 底：－/－		SI-21
35	11	須恵器 底部	口径 － 底径 (13.0) 器高 2.2	内：2.5Y5/1 黄灰 外：2.5Y7/3 浅黄	白色砂粒 微量	良好	底部 約 10% 残存	口：－/－ 体：－/－ 底：ナデ/不明	底部外面摩滅。	SI-21
35	12	須恵器 底部	口径 － 底径 (8.6) 器高 1.0	内：5Y6/1 灰 外：5Y7/1 灰白	白色砂粒 少量	良好	底部 約 1/2 残存	口：－/－ 体：－/－ 底：ナデ/回転ヘラ切り	やや底部が張り出す。 ロクロは右回転。	SI-21
35	13	須恵器 坏	口径 － 底径 (9.6) 器高 1.8	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄	白色砂粒・ 長石少量、 雲母微量	良好	底部 約 1/2 残存	口：－/－ 体：ヨコナデ/ヨコナデ 底：ヘラケズリ		SI-21
35	14	須恵器 坏	口径 － 底径 (7.4) 器高 1.5	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/3 浅黄	白色砂粒・ 長石・角 閃石微量	良好	底部 約 1/2 残存	口：－/－ 体：－/－ 底：ナデ/回転ヘラ切り	ロクロは右回転。	SI-21
35	15	須恵器 坏	口径 － 底径 (7.4) 器高 4.0	内：7.5Y5/1 灰 外：5Y6/1 灰	白色砂粒 少量	良好	底部～体部 約 1/2 残存	口：－/－ 体：ヨコナデ/ヨコナデ 底：ヘラ切り/ナデ	墨書あり。 ロクロは右回転。	SI-21

第 13 表　SI-24 出土遺物観察表

（ ）：残存値

挿図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴	出土位置
35	1	土師器 坏	口径 (20.0) 底径 8.2 器高 7.6	内：N2/ 黒 外：5YR6/8 橙	白色砂粒・ 長石・雲 母微量	良好	口縁部 約 1/6 残存・底部 完存	口：ヨコミガキ/ヨコナデ 体：ヨコミガキ/ヨコナデ 底：ミガキ/ヘラ切り	内面黒色処理。 SI-25 覆土出土の破片と接合する。	SI-24・ SI-25 覆土
35	2	土師器 蓋	口径 － 底径 (9.0) 器高 4.0	内：7.5YR4/2 灰褐 外：10YR5/3 にぶい黄褐	白色砂粒・ 長石・雲 母微量	良好	底部のみ 約 1/8 残存	口：－/－ 体：ヘラナデ/ミガキ 底：ヘラナデ/ケズリ		SI-24 覆土

第 14 表　SI-25 出土遺物観察表

（ ）：残存値

挿図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴	出土位置
35	1	須恵器 蓋	口径 (37.2) 底径 － 器高 8.6	内：2.5Y5/1 黄灰 外：2.5Y4/1 黄灰	白色砂粒・ 長石少量、 雲母微量	良好	口縁部 約 1/8 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/タタキ 底：－/－	外面は工具によるタタキ。	SI-25 カマド
35	2	須恵器 坏	口径 (11.5) 底径 (7.0) 器高 4.8	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/3 浅黄	白色砂粒・ 長石微量	良好	口縁部～ 体部 約 1/5 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ヨコナデ 底：ナデ/ヘラケズリ		SI-25 覆土

35	3	須恵器 坏	口径(13.8) 底径(8.4) 器高3.8	内：2.5Y5/1 黄灰 外：5Y5/1 灰	白色砂粒・ 長石少量	良好	口縁部～ 体部 約1/4残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ヨコナデ 底：ナデ/ヘラケズリ		SI-25 カマド

第15表　SI-26出土遺物観察表

( )：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値(cm)	色調(内/外)	胎土	焼成	残存率	技法(内/外)	特徴・備考	注記
35	1	土師器 甕	口径(21.1) 底径－ 器高19.9	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR7/8 橙	白色砂粒・ 角閃石微量	良好	約40%残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ナデ/ヘラケズリ 底：－/－	全体的に被熱を受けている。SI-24出土の破片と接合する。	SI-26 カマド内1・SI-24
35	2	土師器 甕	口径(23.0) 底径－ 器高9.0	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	白色砂粒・ 長石・雲母少量	良好	口縁部～ 体部 約2/3残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラナデ 底：－/－	口縁部が焼け歪んでいる。	SI-26 カマド内1・カマド内2
35	3	土師器 甕	口径(25.0) 底径－ 器高3.3	内：5YR6/6 橙 外：5YR5/6 明赤褐	長石少量	良好	口縁部 約1/8残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：－/－ 底：－/－	口唇部直下は指でつまみ上げるようになっている。	SI-26 カマド内1・カマド内2
35	4	須恵器 坏	口径(14.8) 底径－ 器高3.8	内：2.5Y7/1 灰白 外：2.5Y8/1 灰白	雲母少量、 長石・白色砂粒微量	良好	口縁部～ 体部 約1/5残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ヨコナデ 底：－/－		SI-26 カマド内2
35	5	須恵器 瓶	口径－ 底径－ 器高3.4	内：N5/ 灰 外：5Y6/1 灰	白色砂粒 少量	良好	肩部 約1/8残存	口：－/－ 体：ヨコナデ/ヨコナデ 底：－/－	肩部最大幅に沈線が二条巡る。	SI-26 覆土

第16表　SI-29出土遺物観察表

( )：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値(cm)	色調(内/外)	胎土	焼成	残存率	技法(内/外)	特徴	出土位置
35	1	土師器 甕	口径20.8 底径－ 器高(5.9)	内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	雲母少量、 白色砂粒・ 長石微量	良好	口縁部のみ約1/6残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：－/－ 底：－/－		SI-29 覆土
35	2	灰釉陶器 口縁部片	口径11.8 底径－ 器高1.7	内：7.5Y5/3 灰オリーブ 外：2.5Y7/1 灰白	白色砂粒 微量	良好	口縁部片 約10%残存	口：釉薬/ヨコナデ 体：－/－ 底：－/－		SI-29 覆土
35	3	土師器 甕	口径－ 底径10.6 器高3.5	内：7.5YR5/3 にぶい褐 外：7.5YR4/3 褐	白色砂粒・ 雲母微量	良好	底部のみ 約1/2残存	口：－/－ 体：ヘラナデ/ヘラナデ 底：ヘラナデ/ナデ	底部に木葉痕あり。	SI-29 覆土

第17表　SI-40出土遺物観察表

( )：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値(cm)	色調(内/外)	胎土	焼成	残存率	技法(内/外)	特徴	出土位置
36	1	土師器 坏	口径14.6 底径－ 器高7.1	内：5YR6/6 明赤褐 外：7.5YR6/6 橙	赤色砂粒 少量、白色砂粒・角閃石微量	良好	約2/3残存	口：ヘラミガキ/ヘラミガキ 体：ヘラミガキ/ケズリ 底：ヘラミガキ/ケズリ		SI-40 No.1 No.2 No.3
36	2	土師器 坏	口径14.3 底径－ 器高5.8	内：2.5YR5/8 明赤褐 外：2.5YR4/6 赤褐	赤色砂粒 少量、白色砂粒・角閃石微量	良好	約1/3残存	口：ヘラミガキ/ヘラミガキ 体：ヘラミガキ/ケズリ 底：ヘラミガキ/ケズリ		SI-40 No.2

第18表　SI-41出土遺物観察表

( )：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値(cm)	色調(内/外)	胎土	焼成	残存率	技法(内/外)	特徴	出土位置
36	1	土製支脚	口径10.4 底径5.4 器高4.6	内：5YR6/6 橙 外：10YR5/4 にぶい黄褐	白色砂粒・ 長石少量	良好	－	上端：－/ナデ 中端：－/ナデ 下端：－/－	両端が窪む。 重量311.0g	SI-41 付近

第19表　SI-53出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
36	1	土師器 甕	口径 (16.4) 底径 – 器高 6.6	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：5YR5/6 明赤褐	白色砂粒・長石・雲母・角閃石微量	良好	口縁部～体部 約 1/5 残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヘラナデ / ナデ 底：– / –		SI-53 覆土・8 区表採
36	2	土師器 坏	口径 – 底径 – 器高 2.1	内：2.5Y6/3 にぶい黄 外：10Y2/1 黒	白色砂粒 微量	良好	体部片	口：– / – 体：ミガキ / ナデ 底：– / –	墨書あり。内面黒色処理。	SI-53 覆土
36	3	須恵器 甕	口径 – 底径 17.0 器高 14.4	内：10YR6/6 にぶい黄橙 外：2.5Y4/1 黄灰	白色砂粒・長石・雲母微量	良好	底部～体部下半 約 2/3 残存	口：– / – 体：ヨコナデ / タタキ 底：ヨコナデ / ケズリ	タタキ締めが一部に見られる。底部外面はケズリにより薄く仕上げている。	SI-53・SD-54 覆土

第20表　SD-54出土遺物観察表

掲図番号	番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
36	1	須恵器 坏蓋	口径 – 底径 – 器高 1.9	内：10YR5/1 灰 外：10YR6/1 灰	白色砂粒・長石少量	良好	約 1/5 残存	口：– / – 体：ナデ / ヘラケズリ・ナデ 底：– / –		SD-54 覆土
36	2	土師器 甕	口径 20.8 底径 – 器高 5.7	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR6/6 橙	長石少量、白色砂粒・雲母・角閃石・石英微量	良好	口縁部 約 1/6 残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ナデ / ナデ 底：– / –		SI-53 覆土・SD-54 覆土
36	3	須恵器 甕	口径 – 底径 15.2 器高 6.4	内：2.5Y7/1 灰白 外：5Y5/1 灰	白色砂粒 少量	良好	体部下半～底部 約 1/5 残存	口：– / – 体：ナデ / ヘラナデ 底：ナデ / ヘラケズリ		SD-54 覆土・8 区表採

第21表　SI-58出土遺物観察表

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
36	1	土師器 坏	口径 14.6 底径 – 器高 5.6	内：7.5Y2/1 黒 外：5YR7/8 橙	白色砂粒・角閃石微量	良好	口縁部～体部 約 1/8 残存	口：ミガキ / ヨコナデ・ミガキ 体：ミガキ / ヨコナデ 底：– / –	内面黒色処理。	SI-58 覆土
36	2	土師器 坏	口径 – 底径 7.4 器高 3.4	内：2.5Y3/2 黒褐 外：10YR7/4 にぶい黄橙	白色砂粒 微量	良好	底部 約 3/4 残存	口：– / – 体：ミガキ / ヨコナデ 底：ミガキ / ヘラケズリ	内面黒色処理。	SI-58 覆土

第22表　SI-68出土遺物観察表

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
36	1	土師器 坏	口径 12.4 底径 5.6 器高 3.0	内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：7.5YR4/4 褐	雲母・白色砂粒微量	良好	約 1/3 残存	口：ミガキ / ヨコナデ 体：ミガキ / ヨコナデ 底：ミガキ / ヘラ切り	器壁内に種子圧痕あり。ロクロは右回転。	SI-68 覆土
36	2	土師器 坏	口径 – 底径 8.4 器高 2.2	内：N2/ 黒 外：7.5YR5/4 にぶい褐	雲母微量	良好	底部 約 2/3 残存	口：– / – 体：ミガキ / – 底：ナデ / ナデ・ケズリ	内面黒色処理。ロクロは右回転。	SI-68

第23表　SI-69出土遺物観察表

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
36	1	須恵器 坏	口径 15.6 底径 – 器高 3.2	内：5YR5/3 にぶい赤褐 外：2.5Y4/1 黄灰	白色砂粒・長石少量	良好	口縁部 約 1/5 残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヨコナデ / ヨコナデ 底：– / –		SI-69・SI-69 覆土
36	2	須恵器 甕	口径 31.8 底径 – 器高 12.7	内：10YR4/2 灰黄褐 外：5Y4/1 灰	白色砂粒・長石少量、雲母微量	良好	口縁部～体部約 10%残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ナデ / タタキ 底：– / –		SI-69・SK-62・64 壁落土

第 24 表　SI-72 出土遺物観察表

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
36	1	土師器 甕	口径 17.0 底径 － 器高 9.5	内：5YR5/4 にぶい赤褐 外：5Y3/1 オリーブ黒	白色砂粒 微量	良好	口縁部～ 体部 約 1/5 残 存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヨコナデ / ケズリ 底：－ / －		SI-72
36	2	土師器 坏	口径 15.4 底径 － 器高 3.5	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	黒色砂粒 微量	良好	口縁部～ 体部 約 1/4 残 存	口：ナデ / ナデ 体：ナデ / ナデ 底：－ / －		SI-72

第 25 表　SD-74 出土遺物観察表

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
36	1	土師器 坩	口径 10.2 底径 2.6 器高 9.5	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：2.5YR3/6 暗赤褐	白色砂粒・ 雲母微量	良好	口縁部 1/4・体部 約 2/3 残 存	口：ナデ / ナデ 体：ナデ / ナデ 底：ナデ / ケズリ	赤彩あり。 黒斑あり。	SD-74
36	2	土師器 坏	口径 17.6 底径 － 器高 5.2	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	黒色砂粒 少量、白 色砂粒・ 長石・角 閃石微量	良好	口縁部～ 体部 約 1/5 残 存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヨコナデ / ヨコナデ 底：－ / －		SD-74

第 26 表　SI-78 出土遺物観察表

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
36	1	須恵器 坏	口径 12.6 底径 6.4 器高 4.5	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/2 灰黄	白色砂粒・ 長石微量	良好	90%残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヨコナデ / ヨコナデ 底：ナデ / ケズリ		SI-78

第 27 表　SI-82 出土遺物観察表

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴	出土位置
37	1	土師器 坏	口径 12.0 底径 － 器高 2.7	内：2.5Y6/2 にぶい黄 外：7.5YR7/6 橙	白色砂粒・ 角閃石微 量	良好	口縁部 約 10%残 存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ナデ / ケズリ 底：－ / －		SI-82

第 28 表　SD-86 出土遺物観察表

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴	出土位置
37	1	土師器 甕	口径 20.8 底径 － 器高 5.9	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：5Y3/1 オリーブ黒	白色砂粒・ 雲母・長 石微量	良好	口縁部片 約 1/8 残 存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヘラナデ / ナデ 底：－ / －		SD-86
37	2	土師器 坏	口径 14.0 底径 － 器高 3.8	内：7.5YR6/3 にぶい褐 外：10YR6/3 にぶい黄橙	白色砂粒・ 雲母微量	良好	40% 残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ナデ / ケズリ 底：ナデ / ケズリ	ススが吸着している。	SD-86 覆土
37	3	灰釉陶器 坏	口径 14.0 底径 － 器高 3.4	内：2.5Y7/1 灰白 外：10YR7/1 灰白	黒色砂粒 微量	良好	口縁部～ 体部片 約 1/8 残 存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヨコナデ / ヨコナデ 底：－ / －		SD-86 覆土
37	4	土師器 坏	口径 15.0 底径 9.0 器高 5.2	内：2.5Y3/1 黒褐 外：7.5YR7/6 橙	白色砂粒・ 雲母微量	良好	90% 残存	口：ヨコミガキ / ヨコナデ 体：ヘラミガキ / ヨコナデ 底：ヘラミガキ / ナデ	内面黒色処理。	SD-86・ SD-86 覆 土
37	5	土師器 坏	口径 14.6 底径 8.0 器高 5.1	内：N1.5/ 黒 外：10YR5/3 にぶい黄褐	白色砂粒・ 雲母・角 閃石微量	良好	90% 残存	口：ヨコミガキ / ヨコナデ 体：ヘラミガキ / ヨコナデ 底：ヘラミガキ / ナデ	内面黒色処理。 内面底部のミガキは格子目状である。	SD-86・ 12 区トレンチ表採
37	6	土師器 坏	口径 － 底径 8.4 器高 3.9	内：N3/ 暗灰 外：10YR5/3 にぶい黄褐	石英・角 閃石微量	良好	底部 約 10% 残 存	口：－ / － 体：ミガキ / ヨコナデ 底：ミガキ / ナデ	内面黒色処理。	SD-86 覆土

第29表　SD-86 出土遺物観察表（土製品）

神図番号	掲載番号	種類	計測値 (mm)				特徴	備考	出土位置
			最大長	最大幅	最小幅	穿孔径			
37	7	土錘	28.0	19.0	8.0	5.0	［技法・形態］ナデにより整形している。 ［色調］外：10YR7/4 にぶい黄橙 ［特徴］黒斑あり。		SD-86 覆土

第30表　SI-87 出土遺物観察表

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
37	1	須恵器 坏蓋	口径 16.0 底径 － 器高 3.2	内：7.5Y5/1 灰 外：5Y6/1 灰	白色砂粒・長石少量	良好	約 1/2 残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ナデ / ヨコナデ・ケズリ 底：－ / －	蓋の一部にヘラ記号と思われる痕跡がある。ロクロは右回転。	SI-87・SD-86 覆土
37	2	須恵器 坏	口径 14.0 底径 7.8 器高 5.2	内：5Y6/1 灰 外：5Y6/1 灰	白色砂粒少量、長石微量	良好	約 90% 残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヨコナデ / ヨコナデ 底：ナデ / 回転ヘラケズリ	体部に波状文が施こく施文されている。ロクロは右回転。	SI-87・SI-87 カマド・SD-86 覆土
37	3	土師器 甕	口径 － 底径 6.6 器高 8.4	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR4/2 灰褐	白色砂粒・長石少量、雲母・角閃石微量	良好	底部～体部 約 1/2 残存	口：－ / － 体：ヘラナデ / ヘラナデ 底：ナデ / ナデ		SI-87 カマド
37	4	須恵器 甕	口径 － 底径 － 器高 8.7	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄	白色砂粒・長石微量	良好	体部片のみ 約 10% 残存	口：－ / － 体：当て具痕あり / タタキ 底：－ / －		SI-87 カマド

第31表　SI-88 出土遺物観察表

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	注記
37	1	土師器 坏	口径 11.6 底径 7.0 器高 3.6	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	雲母少量	良好	80%	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヨコナデ / ヨコナデ 底：ナデ / ヘラ切り	種子圧痕あり。 ロクロは右回転。	SI-88

第32表　8区遺構外出土遺物観察表

神図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
37	1	土師器 甕	口径 18.0 底径 － 器高 5.5	内：7.5YR5/6 明褐 外：5YR4/6 赤褐	長石・石英・白色砂粒・角閃石・雲母微量	良好	口縁部 約 1/4 残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヘラナデ / ナデ 底：－ / －		8 区表採
37	2	須恵器 坏	口径 15.4 底径 9.4 器高 4.2	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y6/2 灰黄	長石・石英微量	良好	約 1/5 残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヨコナデ / ヨコナデ 底：ナデ / ヘラケズリ		8 区北側 No.4 トレンチ
37	3	須恵器 坏	口径 12.4 底径 6.6 器高 3.6	内：5Y6/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	白色砂粒微量	良好	約 1/4 残存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：ヨコナデ / ヨコナデ 底：ナデ / ケズリ		8 区北側 No.4 トレンチ
37	4	土師器 坏	口径 13.0 底径 7.0 器高 2.5	内：N3/1 暗灰 外：7.5YR6/4 にぶい橙	白色砂粒・雲母微量	良好	約 80% 残存	口：ヨコミガキ / ヨコナデ 体：ミガキ / ヨコナデ 底：ミガキ / ヘラケズリ	外面に「千万」と墨書がある。内面黒色処理。	8 区表採
37	5	須恵器 甕	口径 － 底径 － 器高 5.1	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	白色砂粒・雲母微量	良好	口縁部のみ約 10%	口：－ / ヨコナデ 体：－ / － 底：－ / －	波状文は 5 本で一列である。	8 区表採

37	6	灰釉陶器 頸部片	口径 － 底径 － 器高 6.2	内：2.5Y7/1 灰白 外：2.5Y6/2 灰黄	白色砂粒・ 長石微量	良好	頸部のみ 約 1/3 残 存	口：ヨコナデ / ヨコナデ 体：－ / － 底：－ / －	透明度の高い釉薬がか かっている。	8 区表採
37	7	須恵器 甕	口径 － 底径 － 器高 5.0	内：N5/ 灰 外：5Y5/1 灰	白色砂粒・ 長石微量	良好	肩部片約 10%	口：－ / － 体：ナデ / ヘラナデ 底：－ / －	長方形の押し型文が施 文されている。	8 区表採
37	8	須恵器 高坏	口径 － 底径 － 器高 4.9	内：7.5Y5/1 灰 外：N5/ 灰	白色砂粒・ 長石少量	良好	脚柱部 約 1/4 残 存	口：－ / － 体：ナデ / ヨコナデ 底：－ / －	3 方向の透かし孔。	SI-50 覆土
37	9	須恵器 円面硯	口径 － 底径 13.2 器高 1.9	内：5Y4/1 灰 外：N5/ 灰	白色砂粒・ 長石微量	良好	底部のみ 約 10% 以 下	口：－ / － 体：－ / － 底：ヨコナデ / ヨコナデ	透かし孔が2つと、列 線が2本確認できた。	8 区表採
37	10	須恵器 瓶	口径 － 底径 － 器高 0.8	内：2.5Y6/2 灰黄 外：5Y6/1 灰	雲母・白 色砂粒微 量	良好	底部片の み 10% 以 下	口：－ / － 体：－ / － 底：ナデ / ナデ	瓶の底部片で、2つの 孔が認められる。	8 区北側 No.4 トレ ンチ

第 33 表　11 区遺構外出土遺物観察表

検図 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
38	1	手捏土器	口径 6.7 底径 4.8 器高 4.1	内：2.5Y4/2 暗灰黄 外：10YR4/2 灰黄褐	白色砂粒・ 雲母微量	良好	約 1/4 残 存	口：ナデ / ナデ 体：ナデ / ナデ 底：ナデ / ナデ	外面には、一部ケズ リがみられる。	11 区トレ ンチ表採

第 34 表　12 区遺構外出土遺物観察表

検図 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
38	1	土師器 坏	口径 － 底径 6.8 器高 2.0	内：N2/1 黒 外：7.5YR5/4 にぶい褐	雲母微量	良好	底部のみ 残存	口：－ / － 体：－ / － 底：ミガキ / ヘラケズリ	内面黒色処理。外面 に墨書あり。	12 区トレ ンチ表採

第 35 表　遺構外出土遺物観察表

検図 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴	出土位置
38	1	かわらけ	口径 9.4 底径 5.2 器高 1.5	内：2.5Y8/4 淡黄 外：2.5Y7/3 浅黄	灰色砂粒 少量、角 閃石微量	良好	約 1/2 残 存	口：ナデ / ナデ 体：ナデ / ナデ 底：ナデ / 糸切り	ロクロは右回転。	表採
38	2	土師器 坏	口径 － 底径 7.2 器高 1.6	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：2.5Y7/2 灰黄	白色砂粒 微量	良好	底部のみ 約 1/5 残 存	口：－ / － 体：－ / － 底：ナデ / ヘラケズリ	内面に赤彩あり。 外面に墨書あり。	表採
38	3	土師器 甕	口径 － 底径 12.6 器高 3.1	内：5YR6/6 橙 外：5YR5/6 明赤褐	雲母少量・ 白色砂粒・ 長石微量	良好	底部のみ 約 10% 残 存	口：－ / － 体：－ / － 底：－ / －		表採
38	4	土師器 坏	口径 － 底径 9.5 器高 3.0	内：2.5Y3/1 黒褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	白色砂粒 微量	良好	底部のみ 約 70% 残 存	口：－ / － 体：－ / － 底：ナデ / ナデ	ロクロは右回転。	表採
38	5	土師器 坏	口径 － 底径 － 器高 2.9	内：5Y2/1 黒 外：10YR6/4 にぶい黄橙	白色砂粒 少量	良好	底部のみ 約 80% 残 存	口：－ / － 体：－ / － 底：ナデ / ナデ	ロクロは右回転。	表採

第 36 表　出土遺物観察表（石器）

挿図番号	掲載番号	出土位置	種類	計測値 (mm・g)				特徴・備考
				最大長	最大幅	最大厚	重量	
17	SB-1 P-1 1	SB-1 P-1	ナイフ形石器	38.0	13.0	6.0	2.99	小形柳葉形の形状で、長軸に対して、打面がやや斜めにずれる。調片を素材とする。表面は素材面のまま残され、表面の周縁に急斜な加工を施して周縁加工のナイフ形石器としている。石質は珪質頁岩。
33	SI-5 表採 12	SI-5 表採	編物石	146.72	57.58	31.08	428.65	全体的に丸く滑らかな手触りである。
33	SI-5 表採 13	SI-5 表採	砥石	77.13	78.38	24.34	220.19	研面は４面、端部破損。
35	SI-24 3	SI-24	砥石	50.0	28.0	35.0	69.0	研面は４面、端部破損。
35	SI-29 4	SI-29	砥石	47.0	25.0	46.0	107.38	研面は４面、端部破損。
35	SI-29 5	SI-29	磨石	80.0	91.0	38.0	379.38	表面中央にやや窪みあり。
35	SI-29 6	SI-29	石製文鎮	25.0	8.5	7.0	2180.61	部分的に被熱している。
36	SI-40 3	SI-40	編物石	19.7	5.3	4.6	577.35	SI-40 NO.4
37	SI-82 2	SI-82	打製石斧	82.0	55.0	18.0	92.26	流れ込みと思われる。
37	SI-87 5	SI-87 カマド	磨石	105.0	71.0	33.0	326.70	楕円形を呈している。
38	8 区表採 11	遺構外 8 区表採	台石	233.0	196.0	98.0	5424.60	表面にうっすらと摩耗の痕跡がある。8 区トレンチ表採出土。

第 37 表　出土遺物観察表（縄文土器）

挿図番号	掲載番号	出土位置	時期	残存	特徴・備考
39	SI-5 14	SI-5 カマド	早期末	口縁部片のみ	〔色調（内／外）〕10YR4/2 灰黄褐 /10YR5/3 にぶい黄褐 〔胎土〕白色砂粒微量 〔特徴〕繊維を含み、摩滅しているが条痕文が見られる。
39	SI-25 4	SI-25 覆土	晩期末～中葉	口縁部片のみ	〔色調（内／外）〕10YR8/4 浅黄橙 /10YR7/4 にぶい黄橙 〔胎土〕白色砂粒・角閃石微量 〔特徴〕口唇部に半截竹管による刺突あり。粗製土器。
39	SI-41 2	SI-41	中期中葉	体部片のみ	〔色調（内／外）〕7.5YR5/4 にぶい褐 /5YR5/6 明赤褐 〔胎土〕雲母少量、白色砂粒・長石微量 〔特徴〕半截竹管による波線文と刺突、同玉台Ⅰb式。
39	8 区表採 12	遺構外 8 区表採	後期 阿玉台Ⅱ式	破片のみ	〔色調（内／外）〕10YR5/3 にぶい黄褐 /2.5Y4/2 暗灰黄 〔胎土〕雲母少量、角閃石・長石微量 〔特徴〕粘土紐の貼り付けと、工具による圧痕がみられる。
39	SD-86 8	SD-86 覆土	後期前半	破片のみ	〔色調（内／外）〕7.5YR5/4 にぶい褐 /2.5Y3/2 黒褐 〔胎土〕雲母少量、長石微量 〔特徴〕縄文と工具による沈線文がみられる。
39	SD-86 9	SD-86 覆土	-	破片のみ	〔色調（内／外）〕5YR4/6 赤褐 /5YR4/4 にぶい赤褐 〔胎土〕長石少量 〔特徴〕縄文はやや摩滅している。
39	SD-86 10	SD-86 覆土	-	破片のみ	〔色調（内／外）〕7.5YR3/1 黒褐 /7.5YR4/6 褐 〔胎土〕雲母・長石少量 〔特徴〕工具による沈線文のみである。
39	SD-86 11	SD-86	-	破片のみ	〔色調（内／外）〕2.5Y6/2 灰黄 /5YR6/6 橙 〔胎土〕白色砂粒・長石微量 〔特徴〕条痕文は弟と摩滅している。

第 38 表　出土遺物観察表（鉄製品）

図版番号	掲載番号	出土位置	種類	計測値 (mm・g)						特徴・備考
				最大長	最大幅	最小幅	最大厚	最小厚	重量	
40	SB-2 P-2 1	SB-2 P-2	鉄片	56.0	18.0	15.5	2.0	1.0	7.81	両端欠損の鉄片。
40	SI-3 5	SI-3	鉄片	36.0	6.0	6.0	3.0	3.0	1.51	両端欠損の鉄片。鉄鏃の茎部片か。
40	SI-53 4	SI-53	鉄鏃 鏃飛式	最大長：81.0　重量：18.88 ［鏃　身］最大幅：34.0　最大厚：4.0　最小厚：1.5 ［鏃段］幅：6.0 ［茎　部］最大幅：7.0　最小幅：7.0　最大厚：5.5　最小厚：5.5 ［茎　部］最大幅：4.5　最小幅：4.5　最大厚：4.0　最小厚：4.0						鏃段りがあり、両端は欠損している。茎部は断面がやや長方形を呈し、茎部も同様である。鏃身は反り部を境に内屈する。SI-53 柱穴確認面より上 11cm 出土。
40	7 区表採 1	遺構外 7 区表採	軸棒	98.0	7.0	6.0	7.0	6.0	13.80	両端欠損の鉄棒。紡錘車の軸棒の可能性あり。SI-41 付近出土。
40	8 区表採 13	遺構外 8 区表採	刀子	86.0	12.0	8.0	6.0	4.0	13.88	切っ先と茎部欠損の刀子。区北側No.4 トレンチ出土。

第 39 表　出土遺物観察表（陶磁器）

（ ）：残存値

図版番号	掲載番号	出土位置	種類器種	計測値 (cm)	色調（内／外）	胎土	焼成	残存率	技法（内／外）・特徴・備考
図版二一	SB-16 1	SB-16 柱穴	陶磁器	口径 － 底径 － 器高 2.3	内：7.5Y7/1 灰白 外：7.5Y7/1 灰白	緻密な白色細粒	良好	破片のみ	口：－/－　体：釉薬/釉薬　底：－/－ やや青みのある灰白色の釉薬がかかっている。
図版二一	SI-21 16	SI-21	陶磁器 天目茶碗	口径 － 底径 － 器高 1.3	内：10YR1.7/1 黒 外：10YR1.7/1 黒	緻密な白色細粒	良好	底部付近の破片のみ	口：－/－　体：釉薬/釉薬　底：－/－ 内外ともに黒褐色がかっている。外面は底部付近のための釉薬が一部しかみられない。
図版二一	SI-25 5	SI-25 覆土	陶磁器	口径 － 底径 － 器高 1.5	内：5Y8/2 灰白 外：10YR4/4 褐	緻密な白色細粒	良好	破片のみ	口：－/－　体：釉薬/釉薬　底：－/－ 内外で釉薬が異なる。内面は灰白色の釉薬で、外面は褐色の釉薬である。
図版二一	SI-25 6	SI-25 覆土	陶磁器	口径 － 底径 － 器高 1.6	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄	緻密な白色細粒	良好	口縁部片のみ	口：釉薬/釉薬　体：－/－　底：－/－ 口唇部/底面部が直線的な外反で口唇部外面部には浅く段が設けられている。
図版二一	SK-62・64 1	SK-62・64	陶磁器	口径 － 底径 (4.4) 器高 2.5	内：2.5Y5/3 黄褐 外：2.5Y5/3 黄褐	緻密な灰色細粒	良好	底部～体部下半のみ	口：－/－　体：釉薬/釉薬　底：釉薬/ケズリ 内外供に薄く釉薬がかかっている。高台はケズリにより造り出されている。
図版二一	SK-83 1	SK-83	灰釉陶器	口径 (21.0) 底径 － 器高 2.2	内：5Y7/1 灰白 外：5Y7/1 灰白	緻密な灰色細粒・白色粒子微量	良好	口縁部片のみ	口：釉薬/釉薬　体：－/－　底：－/－ 内外供に薄く釉薬がかかっている。口唇端部が外反する。
図版二一	SI-88 2	SI-88 覆土	陶磁器	口径 － 底径 － 器高 1.1	内：5Y7/2 灰白 外：5Y7/2 灰白	緻密な白色砂粒	良好	体部片のみ	口：－/－　体：釉薬/釉薬　底：－/－ 内外共に薄く透明度の高い緑釉がかかっている。
図版二一	13 区表採 1	13 区表採	陶磁器	口径 (20.4) 底径 － 器高 1.4	内：10YR3/4 暗褐 外：10YR3/4 暗褐	緻密な灰色砂粒	良好	口縁部片	口：釉薬/釉薬　体：－/－　底：－/－ 口縁部片の内外には褐色の釉薬がかかっている。
図版二一	表採 6	表採	緑釉陶器	口径 － 底径 － 器高 1.5	内：10Y6/2 オリーブ灰 外：7.5Y7/3 浅黄	緻密な白色細粒	良好	体部片のみ	口：－/－　体：釉薬/釉薬　底：－/－ 内外供に緑釉がかかっている。
図版二一	表採 7	表採	灰釉陶器	口径 － 底径 － 器高 2.6	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/2 灰黄	灰色細粒	良好	体部片のみ	口：－/－　体：ナデ/釉薬　底：－/－ 外面に釉薬がみられる。内面はナデによる調整がみられる。
図版二一	表採 8	表採	灰釉陶器	口径 － 底径 － 器高 3.8	内：2.5Y7/1 灰白 外：5Y7/1 灰白	緻密な灰色細粒	良好	口縁部片のみ	口：釉薬/釉薬　体：釉薬/釉薬　底：－/－ 内外に薄く釉薬がかかっている。
図版二一	表採 9	表採	灰釉陶器	口径 (6.6) 底径 － 器高 2.3	内：10Y6/2 オリーブ灰 外：5Y8/1 灰白	緻密な白色細粒・黒色粒子微量	良好	口縁部片のみ	口：釉薬/釉薬　体：－/－　底：－/－ 内外供に釉薬がみられるが、外面は透明度が弱い。
図版二一	表採 10	表採	陶磁器 急須か	口径 (7.2) 底径 － 器高 0.9	内：2.5Y7/2 灰黄 外：5Y7/2 灰白	白色細粒	良好	口縁部片のみ	口：ナデ/釉薬　体：－/－　底：－/－ 外面には釉薬がかけられ、内面の口縁付近では強による緑灰りがある。また、内外を貫通する直径約 1 mm の孔が穿たれている。
図版二一	表採 11	表採	緑釉陶器	口径 － 底径 － 器高 2.4	内：7.5Y7/3 浅黄 外：7.5Y6/3 オリーブ黄	白色細粒	良好	口縁部片のみ	口：釉薬/釉薬　体：－/－　底：－/－ 内外供に軽やかな緑色の釉薬がかかっている。
図版二一	表採 12	表採	陶磁器	口径 － 底径 － 器高 2.5	内：5Y8/1 灰白 外：5Y8/1 灰白	緻密な白色砂粒	良好	体部片のみ	口：－/－　体：釉薬/釉薬　底：－/－ 内外供に透明度の高い白色の釉薬が見られるが、内面の一部には褐色の部分がある。
図版二一	表採 13	表採	灰釉陶器	口径 － 底径 － 器高 1.6	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	灰色細粒	良好	口縁部片のみ	口：釉薬/釉薬　体：－/－　底：－/－ 口縁部内外に釉薬がみられる。

第３節　第２次調査　発見された遺構と遺物

平成 25 年度に実施した第２次調査の調査区（14 区～ 16 区）は第１次調査の調査区（1 区～ 13 区）の東側に位置する（第６図）。先述した第１次調査の調査成果と同じく各区画ごとに報告する。遺構平面図と土層断面図内の遺物出土状況はカマドに伴う資料、遺構床面直上の資料を優先し図示しているが、SI-116 のように付属施設が確認されない遺構については、覆土内出土遺物も掲載する。

１．14 区

14 区は東西約 111 m南北約１ mのおよそ東西に長い調査区であり、西端は北向きに湾曲する。調査した遺構は住居跡 11 軒である。

SI-103（第 41・49 図）

位置：14 区西端に所在する。SI-103 は住居跡の壁と床の一部のみ確認したため重複遺構や規模と形状、付属施設などは不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**出土遺物は土師器・須恵器小破片のみのため図示しえなかった。

SI-104（第 41・49・57 図、第 40・61 表、図版二二）

位置：14 区西側に位置し、SI-103 から南へ１ m程の地点に位置する。　**規模と形状：**南北の壁面同土の距離から、一辺約 3.5 m前後の住居跡であったと推察されるが、全体の形状については不明である。　**カマド：**カマドは南北に長軸をもち、焚口から煙道まで約 1.6 mであった。東西幅はカマドの東袖が調査区外へと続くため不明である。また、南壁直下には幅約 20 ㎝深度約 15 ㎝の壁溝が確認されている。　**遺物：**出土遺物で図示しえたのは、土師器甕２点、土師器坏１点、須恵器坏１点、須恵器坏蓋１点、須恵器口縁部片１点である。１は下野型の甕である。内外に明瞭なヘラナデの痕跡がみられる。２も同じく下野型の甕で、受け口形成には工具を用いた痕跡がある。３は須恵器甕の口縁部片である。４は土師器坏で内面には放射状の磨きがみられる。灯明皿に転用した痕跡がある。６は須恵器坏の破片である。「V」字形のヘラ記号がある。

SI-106（第 41・49・57 図、第 41 表、図版二二）

位置：14 区西側に位置し、SI-104 から南へ 11 mの地点に位置する住居跡である。重複遺構は確認されなかったが、遺構全体に攪乱を受けた痕跡がある。　**規模と形状：**南北の壁面同士の距離から、一辺約 3.5 m前後の住居跡と推察されるが、全体の形状は不明である。　**遺物：**出土遺物は、土師器・須恵器の小破片が多く図示しえないと判断したが、土師器の底部片を転用した紡錘車のみ図示した。１の紡錘車は底面に糸切り痕を残し、内面黒色の坏を転用した紡錘車である。

SI-109（第 42・49・57 図、第 42 表）

位置：14 区の約中央に位置する住居跡である。　**重複遺構：**SI-110 を切る。　**規模と形状：**東西の壁面同士の距離から一辺約４ m前後の住居跡であったと考えられるが、形状は不明である。　**覆土：**計三層の土層が堆積するが、全体的にローム粒子が確認される。　**遺物：**出土遺物のうち、残存が一番良好な１の土師器坏を掲載した。内面と口縁部をミガキで調整しており、さらに磨いた箇所を黒色処理している。外面にはケズリが僅かにみられ、体部にはロクロ目が若干残存する。9 世紀後半～ 10 世紀と考えられる。

SI-110（第 42・49・57 図、第 43 表、図版二二）

位置：SI-109 の東に隣接する。　**重複遺構：**SI-109 に西側を切られる。　**規模と形状：**遺構の過半以上が調査区外へと続くため不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**土師器と須

恵器の小破片がほとんどで、残存の良好な須恵器坏１点のみ掲載した。１の須恵器高坏は内外共に工具による成形の痕跡がみられる。特に口縁部外面は明瞭に段を成形している。

SI-111（第 42・50・57 図、第 44 表、図版一一・二二）

位置：SI-110 から２m東に位置する。　**規模と形状：**東西の壁面同士の距離からおよそ 3.5m 前後で、カマドをもつ住居跡である。　**カマド：**北向きのカマドで灰白色粘土を両袖に用いている。袖の幅は１～ 1.1m ほどである。長軸は調査区外へ続くため不明である。カマド内から１の武蔵型の甕と２の下野型の甕と５の須恵器坏が出土した。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。

遺物：出土遺物のうち図示しえたのは、土師器甕２点、須恵器坏２点、須恵器坏蓋１点、須恵器高台付坏１点である。１の甕は口縁部をヨコナデで丁寧に整形し、口縁部下は明瞭なヘラケズリが施されている。体部内面側には工具痕がみられ、工具を用いたヨコナデを施している。２は下野型の甕である。４はカマド袖脇から、５はカマド内出土の須恵器坏である。６の高台付坏はヘラケズリを施し高台を付けた痕跡がある。

SI-112（第 42・50・57 図、第 45 表、図版一一・二二）

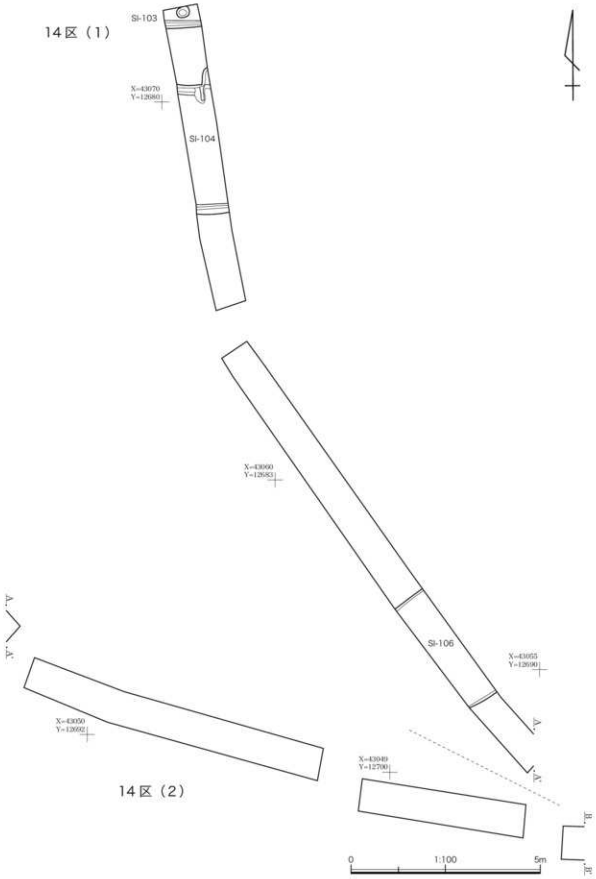
位置：SI-111 から東へ 3.5 m の地点に位置する。　**規模と形状：**東西の壁面同士の距離から一辺約 3.2m 前後の住居跡であったと考えられる。　**カマド：**カマドが１基確認されている。東向きのカマドで、拳大の袖石が出土したが粘土などの構築材は認められなかった。残存部から推定される規模は幅 70 ～ 80cm 前後で、長軸は 80 ～ 90cm 前後と考えられる。カマド内底面の中央はやや窪む。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**出土遺物のうち図示しえたのは、灰釉陶器皿１点、土師器坏２点、須恵器瓶破片１点、鉄製品１点である。１の灰釉陶器皿はカマド袖と火床部から出土した。内面と高台下に重ね焼きをした痕跡が残存する。２・３の土師器坏はどちらもロクロ成形で底部には糸切り痕が残る。鉄製品は１の鉄鏃の茎部片が１点出土した（第 62 図・第 63 表・図版二六）。

SI-113（第 42・51・58 図、第 46 表、図版一一・一二・二三）

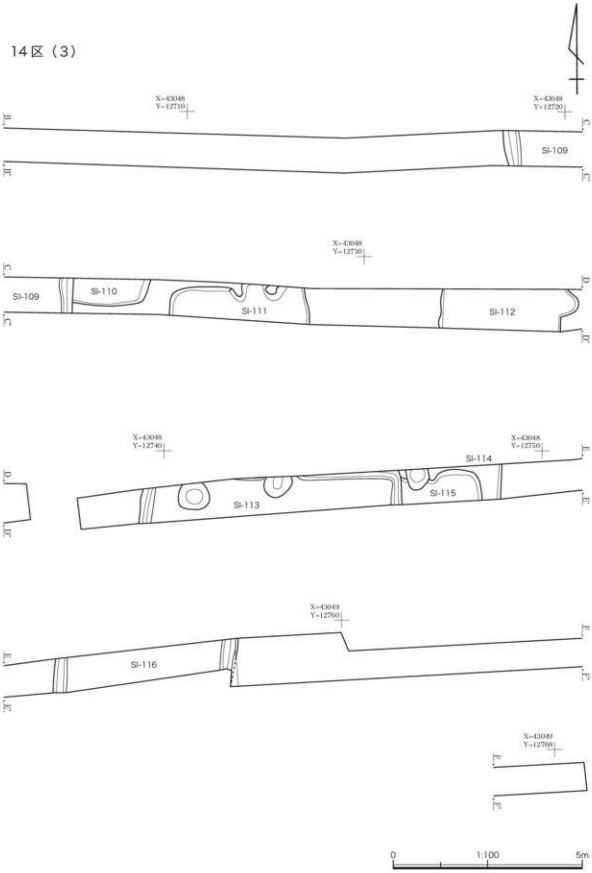
位置：SI-112 から東へ 4m の地点に位置する。　**重複遺構：**SI-114 と 115 を切る。３基の住居跡で層位上一番新しい住居である。　**規模と形状：**東西の壁面同士の距離から一辺約７m 前後の住居跡であったと考えられる。　**カマド：**カマドは北向きで大半が調査区外へと続いているが、焚口と袖の一部が確認できた。残存部から幅は１m 位と思われる。焚口付近では灰白色の粘土が焼土に混じるように散見でき、袖として転用された土器の表面にも灰白色粘土が付着していた。転用された土器内には焼土と僅かではあるが３～４cm の川原石が詰まっていた。　**貯蔵穴：**貯蔵穴はカマドから西へ 1.5 m程離れた住居の北西角に位置する。上端の平面形は隅丸方形をしており、深度約 40cm で底面になる。開口部の平面に対して底面はほぼ円形である。貯蔵穴内からの出土遺物は無い。　**覆土：**住居跡内覆土上層は撹乱が多いが、概ね自然堆積による埋没過程が確認できた。　**遺物：**出土遺物の内図示しえたのは、土師器甕５点、高台付坏１点である。甕はいずれもカマドから出土した資料で袖の構築材として転用されていた。１～５は長胴の甕で３は体部中程に最大径をもつ。６の台付甕は流入した資料である。

SI-114（第 42・51・58 図、第 47 表、図版一二・二三）

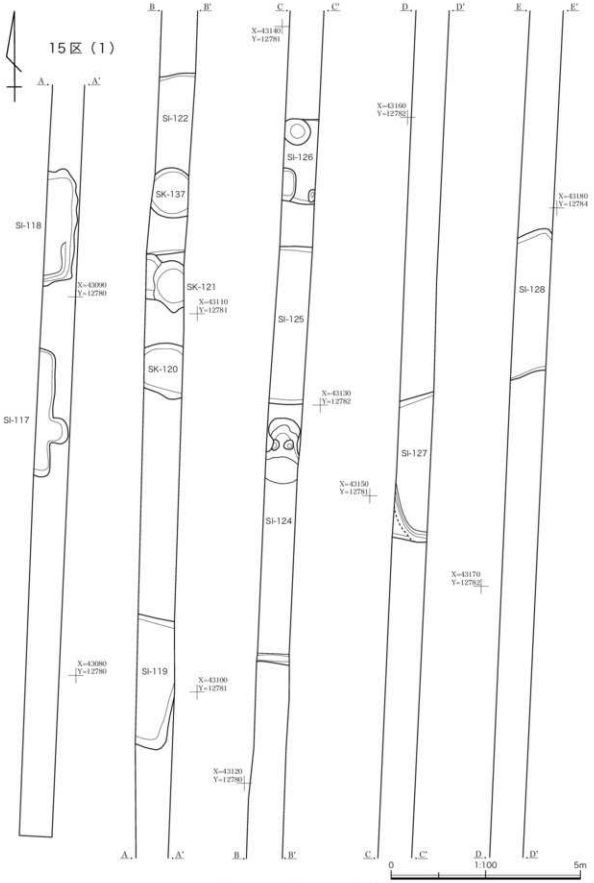
位置：SI-113 に隣接する。　**重複遺構：**SI-113 に切られ、SI-115 を切る。３基の住居跡のうち層位上では中間に位置する住居跡である。　**規模と形状：**規模と形状は不明である。　**カマド：**住居内の堆積土層に粘土と焼土の粒子が確認できたためカマドがあったと考えられる。　**覆土：**住居内覆土は１層のみで、焼土の粒子がみられた。　**遺物：**出土遺物で図示した資料は、土師器甕１点、磨石１点である。１は下野型の甕で外面体部下半に明瞭なミガキを施す。体部の最大径はやや上部に位置する。２は凝灰岩製の磨石であ



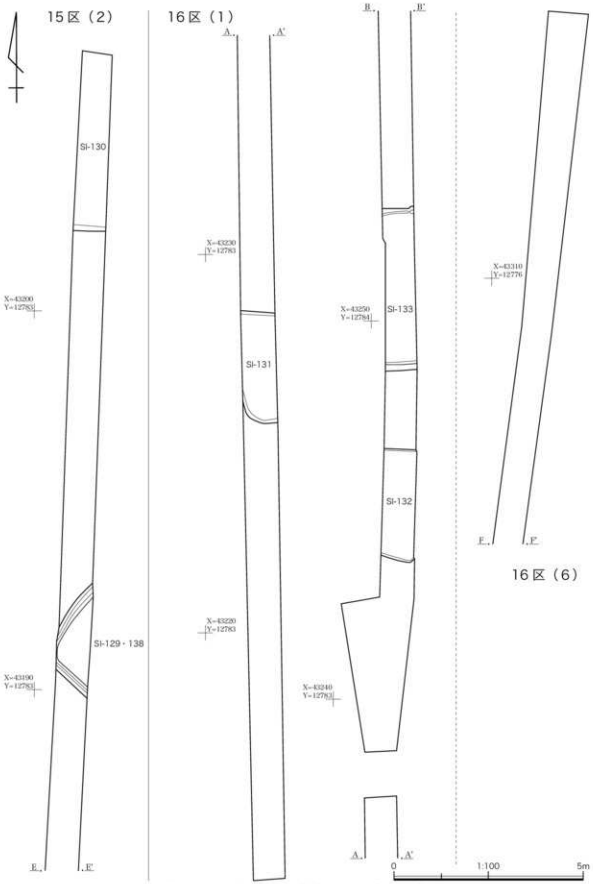
第41図　調査区14区（1）・（2）



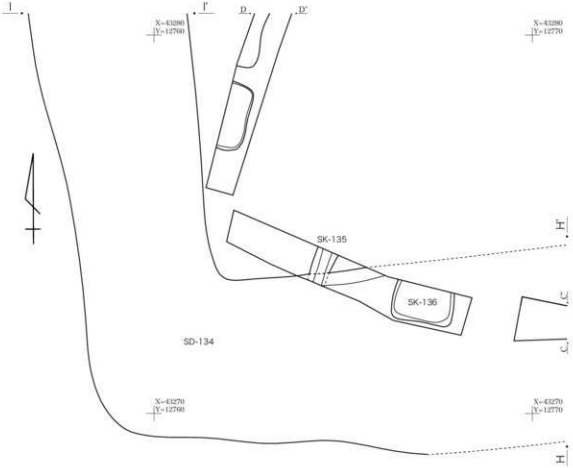
第42図　調査区14区（3）



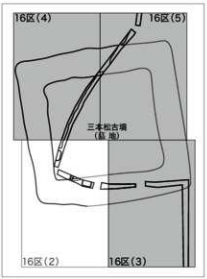
第43図　調査区15区（1）



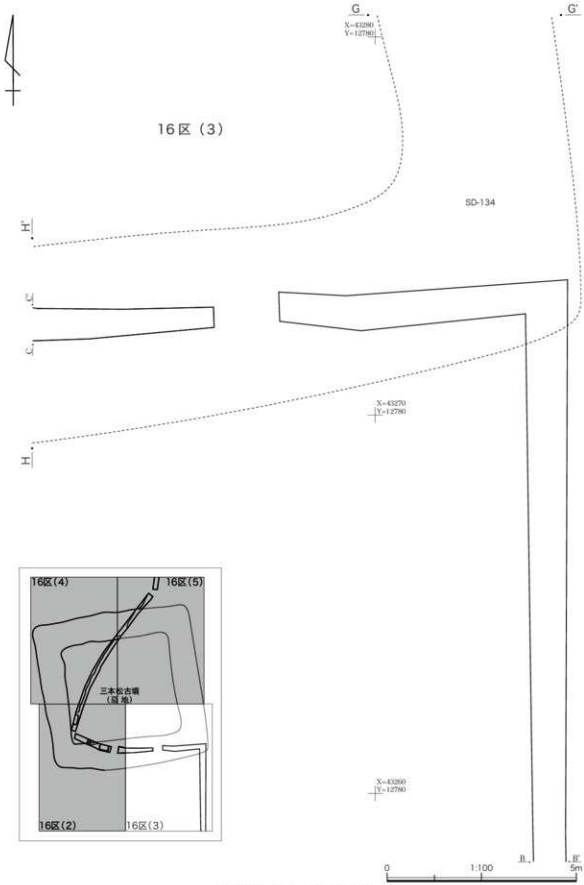
第44図　調査区15区（2）・16区（1）・（6）



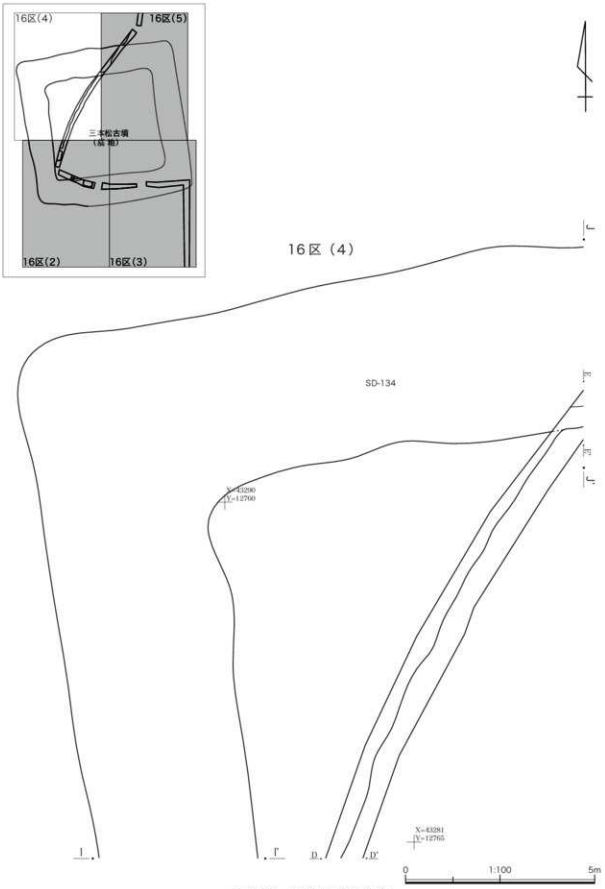
16区（2）



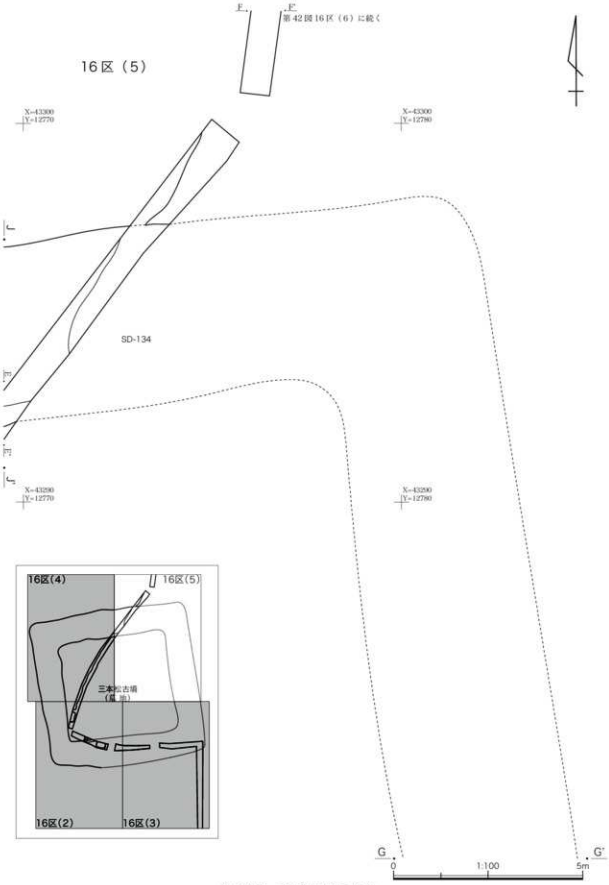
第45図　全体図16区（2）



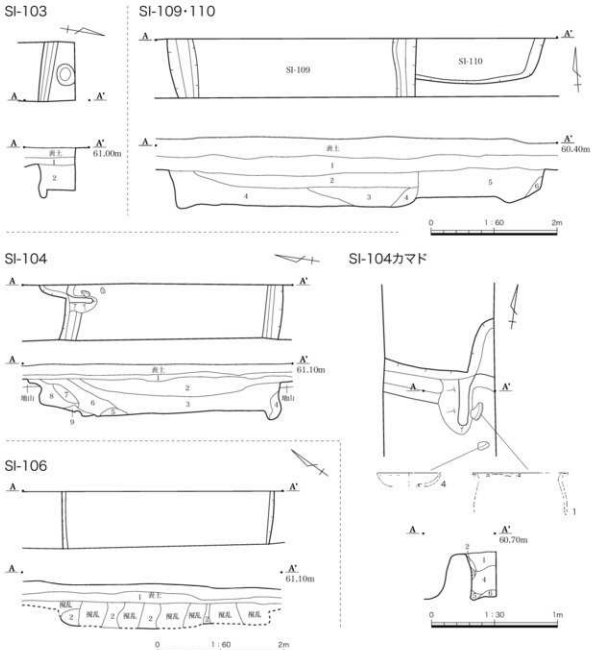
第46図　調査区16区（3）



第47図　調査区16区（4）



第 48 図　調査区 16 区（5）



SI-103
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む,しまりややあり,粘性ややあり。
2　褐色土　　ローム粒(1～2mm)多量・ロームブロック(5mm前後)少量含む。しまりあり,粘性あり。

SI-106
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む,しまりややあり,粘性やややあり。
2　褐色土　　ローム粒(1～2mm)多量含む,しまりあり,粘性あり。

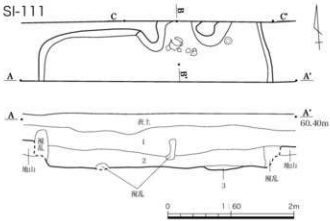
SI-109
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む,しまりややあり,粘性やややあり。
2　黒褐色土　　ローム粒子(1～2mm)少量,しまりあり,粘性あり。
　　ロームブロック(10mm前後)微量含む。
3　黒褐色土　　ローム粒子(1～2mm)多量,しまりあり,粘性あり。
　　ロームブロック(10mm前後)微量含む。
4　褐色土　　ローム粒子(1～2mm)多量,しまりあり,粘性あり。
　　ロームブロック(10mm前後)多量含む。

SI-110
5　黒褐色土　　ローム粒子(1～2mm)少量,焼土粒多量,しまりあり,粘性あり。
6　褐色土　　ローム粒子多量含む,しまりあり,粘性あり。

SI-104
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む,しまりややあり,粘性やややあり。
2　黒褐色土　　ローム粒(1mm前後)・焼土粒少量含む,しまりあり,粘性あり。
3　黒褐色土　　ローム粒(1mm前後)・焼土粒・灰白色粘土粒多量含む。
　　しまりあり,粘性あり。
4　褐色土　　ローム粒・ローム粒子多量含む,しまりあり,粘性やや強い。
5　灰褐色土　　灰・焼土粒多量含む,しまりなし,粘性なし。
6　褐色土　　ローム粒(1～2mm)・焼土粒少量,微細な灰白色粘土粒子
　　やや多量含む,しまりあり,粘性あり。
7　褐色土　　ローム粒(1～2mm)・焼土粒少量,微細な灰白色粘土粒子
　　多量含む,しまりあり,粘性あり。
8　褐色土　　焼土粒(5mm前後)少量,ローム粒子多量含む。
　　しまりあり,粘性あり。
9　褐色土　　ローム粒子多量含む,しまりあり,粘性あり。

SI-104カマド
1　黒褐色土　　焼土粒含む,しまりややなし,粘性ややあり。
2　褐色土　　焼土多量含む,しまりややなし,粘性ややなし。
3　黒褐色土　　焼土含む,しまりややなし,粘性ややなし。
4　褐色土　　焼土多量含む,しまりややなし,粘性ややなし。
5　黒色土　　ローム粒少量含む,しまりややなし,粘性ややなし。
6　黒褐色土　　ローム粒多量含む,しまりややなし,粘性ややなし。

第49図　14区SI-103・104・106・109・110実測図

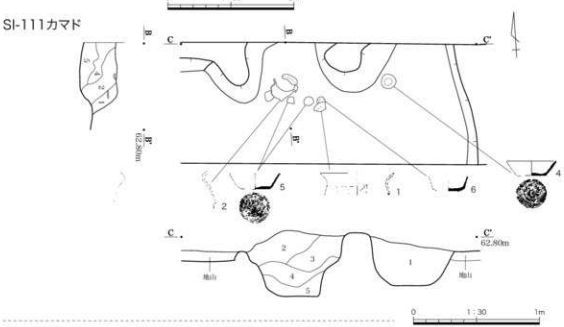


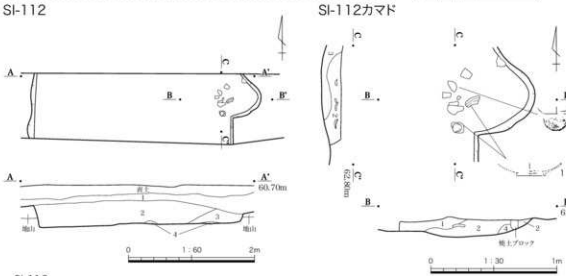
SI-111

1　褐色土　ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2　黒褐色土　ローム粒子(1～5mm)・焼土粒多量含む。しまりあり。粘性あり。
3　褐色土　灰白色粘土多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SI-111カマド

1　黒褐色土　ローム粒子(1～5mm)・焼土粒多量含む。しまりあり。粘性あり。
2　褐色土　灰白色粘土多量、焼土粒少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
3　灰白色土　灰白色粘土多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
4　灰白色土　灰白色粘土・焼土粒多量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
5　灰白色土　灰白色粘土多量、焼土粒少量含む。しまりややなし。粘性ややなし。





SI-112

1　褐色土　ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2　黒褐色土　ローム粒子多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
3　褐色土　灰白色粘土粒子多量、ローム粒子(2～5mm)・焼土粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
4　黒褐色土　灰白色粘土粒多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SI-112カマド

1　褐色土　ローム粒子(1mm)・焼土粒微量含む。しまりなし。粘性あり。
2　褐色土　ローム粒子(1～2mm)多量含む。しまりあり。粘性あり。
3　褐色土　ローム粒子多量含む。しまりなし。粘性あり。
4　褐色土　焼土粒子(1mm)多量含む。しまりなし。粘性なし。

第50図　14区SI-111・112実測図

る。６面それぞれに面を成す擦痕があるが、直線的な凹みもあり磨石以外の用途も考えられる。

覆土中より弥生土器が１点出土した。３の弥生土器は、工具による乱調な波状文と直下に直前段合撚りの縄文（LLR）が施される。弥生時代後期二軒屋式土器と思われる（第62図・第62表・図版二六）。

SI-115（第42・51図、図版一二）

位置：SI-114の下層に位置し、SI-114に切られている。　**重複遺構：**SI-113とSI-114に切られている。３基の住居跡のうち層位上一番古い住居跡である。　**規模と形状：**SI-113に切られていること、調査区外へ住居跡が続くことから規模と形状は不明である。　**カマド：**カマドが１基確認されている。残存部から推定できる幅は80～90cm前後であり、北向きのカマドである。それ以外は上部をSI-114に削平されていることと、調査区外へカマドが続いていることから不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。　**遺物：**出土遺物は土師器と須恵器の小破片のみで、図示しえないと判断した。

SI-116（第42・51・58図・第48表・図版二三）

位置：SI-115から東へ3.5ｍの地点に位置する住居跡である。　**規模と形状：**東西の壁面同士の距離から一辺約4.5m前後の住居跡であったと考えられる。　**壁溝：**幅は20～30cmで深度は10cm前後である。

覆土：自然堆積による埋没過程が確認できた。　**遺物：**覆土内より須恵器坏蓋が１点出土した。１の坏蓋はツマミが剥離している。他に土師器片・須恵器片が出土したが、小破片のため図示しえないと判断した。

２．15区

15区は東西幅１ｍ、南北長130ｍの南北に長い調査区である。調査した遺構は住居跡12軒、土坑３基である。

SI-117（第43・52・58図、第49表、図版一二・一三・二三）

位置：15区南端に位置する住居跡である。　**規模と形状：**カマドを含む東壁と南北壁の一部のみ確認したのみであるが、南北壁面同士の距離から一辺約3.3ｍ前後の住居跡であったと考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。　**カマド：**カマドを１基確認した。残存状況は悪く、僅かに構築材の粘土を確認したのみである。幅は60cm、煙道から焚口まで約70cmを計測した。煙道底面には焼土と炭化物の粒子がまばらに広がっている。　**遺物：**土師器坏がカマドから１点、住居内から１点出土している。１の土師器坏はカマドから出土したもので、ロクロ成形後糸切り離しをし、内面と底部に粘土を足している。また、一部を手持ちヘラケズリにより面取りしている。２の土師器坏もロクロ成形と糸切りまでは１と同様だが、手持ちヘラケズリは行っていない。　**時期：**土師器坏から10世紀末～11世紀前半の住居跡と考えられる。

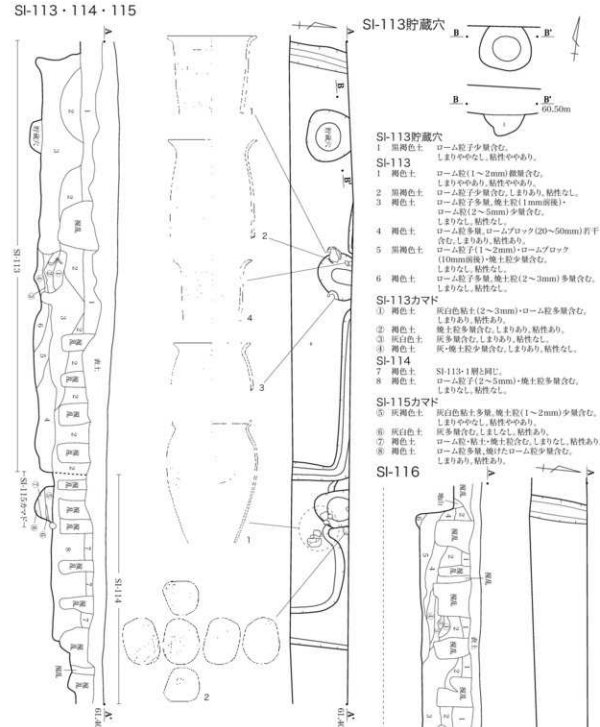
SI-118（第43・52図、図版一三）

位置：SI-117から北へ２ｍに位置する。　**規模と形状：**東壁と南北壁のみ確認した。南北壁同士の距離から一辺約３ｍの住居跡であったと考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。１層は耕作による撹乱で形成されたと思われる。　**壁溝：**南北の壁下に壁溝を確認した。幅20～30cm、深度８～10cmである。　**遺物：**出土遺物は土師器・須恵器の小破片のみで図示しえないと判断した。

SI-119（第43・52・58図、第50表、図版二三）

位置：SI-118から北へ5.5ｍに位置する。　**規模と形状：**南北の壁面を確認した。南北の壁面同士の距離から一辺約3.5mの住居跡であったと考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程を確認できた。

遺物：土師器・須恵器の小破片が多く図示しえない資料がほとんどであった。唯一良好な１の土錘のみ掲



SI-113貯蔵穴

1　黒褐色土　ローム粒子少量含む。しまりややなし。粘性ややあり。

SI-113

1　褐色土　ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2　黒褐色土　ローム粒子少量含む。しまりあり。粘性なし。
3　褐色土　ローム粒子多量、焼土粒(1mm前後)・ローム粒(2～5mm)少量含む。しまりなし。粘性なし。
4　褐色土　ローム粒多量、ロームブロック(20～50mm)若干含む。しまりあり。粘性あり。
5　黒褐色土　ローム粒子(1～2mm)・ロームブロック(10mm前後)・焼土粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
6　褐色土　ローム粒子多量、焼土粒(2～3mm)多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-113カマド

①　褐色土　灰白色粘土(2～3mm)・ローム粒多量含む。しまりあり。粘性あり。
②　褐色土　焼土粒多量含む。しまりあり。粘性あり。
③　灰白色土　灰多量含む。しまりあり。粘性なし。
④　褐色土　灰・焼土粒少量含む。しまりあり。粘性なし。

SI-114

7　褐色土　SI-113・1層と同じ。
8　褐色土　ローム粒子(2～5mm)・焼土粒多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-115カマド

⑤　灰褐色土　灰白色粘土多量、焼土粒(1～2mm)少量含む。しまりややなし。粘性ややあり。
⑥　灰白色土　灰多量含む。しまりなし。粘性あり。
⑦　褐色土　ローム粒・粘土・焼土粒含む。しまりなし。粘性あり。
⑧　褐色土　ローム粒多量、焼けたローム粒少量含む。しまりあり。粘性あり。

SI-116

1　褐色土　ローム粒子多量含む。しまりややなし。粘性ややあり。
2　褐色土　ローム粒子多量、焼土粒微量含む。しまりややなし。粘性ややあり。
3　褐色土　灰白色粘土粒・ローム粒多量、しまりややなし。粘性ややあり。
ローム粒(5mm前後)・焼土粒微量含む。
4　黒褐色土　ローム粒子、ロームブロック(5～10mm)多量含む。しまりややなし。粘性ややあり。
5　褐色土　ローム粒子、ロームブロック(1～2mm)少量含む。しまりややなし。粘性ややあり。
6　褐色土　ローム粒子多量含む。しまりややなし。粘性ややあり。

SI-116カマド

①　褐色土　しまりややなし。粘性ややなし。
②　褐色土　しまりややなし。粘性ややなし。
③　灰白色土　灰を多量含む。しまりややなし。粘性ややなし。
④　褐色土　しまりややなし。粘性ややなし。

第51図　14区SI-113・114・115・116実測図

載した。上下にある穿孔部の形状が楕円形のため、製作時は工具を左右に振るように外したと考えられる。また、小破片だが灰釉陶器片も出土しているため写真と表で報告する（第 64 表・図版二六）。

SK-120（第 43・52 図）

位置：SI-119 から北へ 6m に位置する。　**規模と形状：**撹乱のため上部が不整形である。　**覆土：**ローム粒子を多く含み、土坑の底面には腐食した木の根の残存する小ピットを複数確認したため、抜根により形成された土坑と思われる。　**遺物：**土師器・須恵器の小破片が出土したが図示しえないと判断した。灰釉陶器片が出土しているため写真と表で掲載する（第 64 表・図版二六）。

SK-121（第 43・52 図）

位置：SK-120 から北へ 1 m に位置する。　**規模と形状：**SK-120 と同じく調査区を東西に横断する土坑である。撹乱のため上部が不整形である。　**覆土：**SK-120 と同様にローム粒子を多く含み、土坑の底面には腐食した木の根の残存する小ピットを複数確認したため、抜根により形成された土坑と思われる。　**遺物：**土師器・須恵器の小破片のため図示しえないと判断した。

SK-137（第 43・52・59 図、第 51 表、図版一三、図版二三）

位置：SK-120 から北へ 1m に位置する。　**重複遺構：**SI-122 を切る。　**規模と形状：**調査区を東西に横断するが、平面形から楕円形の土坑であると考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。

遺物：出土遺物のうち図示しえたのは、土師器坏 1 点、かわらけ 2 点、須恵器高台部片 1 点、須恵器円面硯 1 点、須恵器底部片 1 点である。1 の土師器坏は外面に墨書で『土』のような字がうっすらと見える。5 の円面硯は脚部の一部のみで底径の復元にまでは至らなかった。透かし孔が穿たれていた痕跡がある。6 の須恵器底部は十字のヘラ記号がある。他に覆土中より近代の茶碗が 1 点出土した（第 64 表・図版二六）。

SI-122（第 43・52 図、図版一三）

位置：SK-120 に隣接する。　**重複遺構：**SK-137 に切られる。　**規模と形状：**南北の壁面同士の距離から一辺約 5 m前後の住居跡であったと考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。

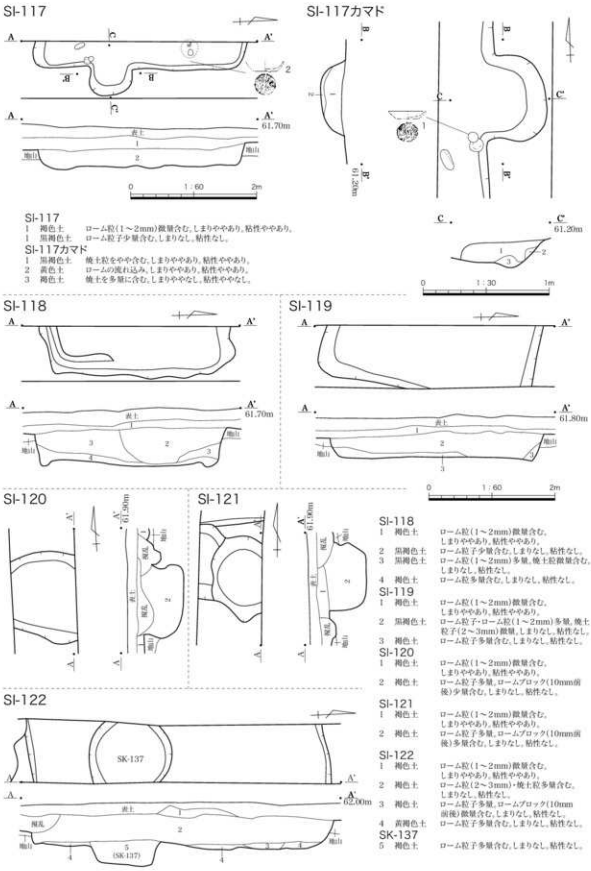
遺物：出土遺物は土師器・須恵器の小破片ばかりで図示しえないと判断した。灰釉陶器は出土点数が少ないため写真と表で報告する（第 64 表・図版二六）。

SI-124（第 43・53・59 図、第 52 表、図版一三・一四・二三・二四）

位置：SI-122 から北へ 6.5 m の地点に位置する。　**規模と形状：**南北の壁面同士の距離から一辺約 5 m前後の住居跡であったと考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。　**カマド：**カマドを 1 基確認した。カマドは幅約 1 m以上で両袖は共に調査区外へと続いている。長軸は約 1.5m である。火床部には左右に 2 つの窪みがあり、東側の窪みには高さ約 60cm の支脚が立ち 2 穴式のカマドであることがわかった。両袖石と支脚を取り上げ観察したところ、袖石と支脚は同じ素材を用いており、工具を使用し袖石はブロック状に、支脚は上部が小さくなるように加工をしている（図版二四）。構築材は細粒で軟質な凝灰岩で、柱状に剥離し砂粒を含み粘土状に水に溶ける性質である。また、カマドの火床部内には甕などの破片より須恵器坏の破片が多く出土した。

遺物：SI-124 出土遺物はほとんどがカマド内から出土した。多くは須恵器坏の口縁部片で、掲載した資料の他に 10 個体分以上の破片を確認したが、残存状態の良好な資料を掲載した。その他の不掲載資料については後述する。

SI-124 出土遺物のうち図示し得たのは、土師器甕 2 点、土師器坏 2 点、須恵器坏蓋 1 点、須恵器坏 10 点、須恵器甕 1 点である。1・2 は下野型の甕で、1 は住居跡内覆土出土、2 はカマド内出土資料である。3 は



SI-117
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
1　黒褐色土　　ローム粒子少量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-117カマド
1　黒褐色土　　焼土粒をやや含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2　黄色土　　ロームの流れ込み。しまりややあり。粘性ややあり。
3　褐色土　　焼土を多量に含む。しまりややなし。粘性ややなし。

SI-118
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2　黒褐色土　　ローム粒子少量含む。しまりなし。粘性なし。
3　黒褐色土　　ローム粒(1～2mm)多量。焼土粒微量含む。しまりなし。粘性なし。
4　褐色土　　ローム粒多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-119
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2　黒褐色土　　ローム粒子・ローム粒(1～2mm)多量。焼土粒子(2～3mm)微量。しまりなし。粘性なし。
3　褐色土　　ローム粒子多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-120
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2　褐色土　　ローム粒子多量。ロームブロック(10mm前後)少量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-121
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2　褐色土　　ローム粒子多量。ロームブロック(10mm前後)多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-122
1　褐色土　　ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2　褐色土　　ローム粒(2～3mm)・焼土粒多量含む。しまりなし。粘性なし。
3　褐色土　　ローム粒子多量。ロームブロック(10mm前後)微量含む。しまりなし。粘性なし。
4　黄褐色土　　ローム粒子多量含む。しまりなし。粘性なし。

SK-137
5　褐色土　　ローム粒子多量含む。しまりなし。粘性なし。

第52図　15区 SI-117・118・119・120・121・122・SK-137 実測図

土師器坏で内面はミガキと黒色処理が施されている。僅かに残存する口唇部は磨滅により丸く削れている。また、14 の土師器坏は内面に漆が付着している。５～10・12・13・15～18 は、いずれも須恵器坏である。ほとんどがヘラ切り・ヘラ起こしを行い底部にヘラ記号を描いている。７・９・18 のヘラ記号は『T』字形で、15・17 も同様のヘラ記号の可能性が高い。ヘラ記号以外の特徴では、13 の坏は内面に朱墨のような赤彩がごく僅かではあるが付着している。SI-124 出土の須恵器のうち８、11 は胎土内に雲母がみられ、不掲載資料の中にも胎土中に雲母を含む須恵器がある。これらは新治産の須恵器と考えられる。また、５～10・12・15・16 の須恵器坏もロクロ目を多く残し、底部をヘラケズリにて調整する行為からみて新治窯跡の技術を有する須恵器坏であると言えるが、胎土は益子産須恵器に非常によく似ている。また、19 の白色針状物質を多く含む土器片は製塩土器であり、胎土から茨城県太平洋沿岸部で製作されたものと考えられる。不掲載資料の小破片には、土師器坏、土師器甕、須恵器坏蓋、須恵器甕、などがある。

SI-125（第 43・53 図）

位置：SI-124 から北へ 0.5 m の地点に位置する。　**規模と形状：**南北の壁面同士の距離から一辺約４m 前後の住居跡であったと考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**出土遺物は土師器と須恵器の小破片のみで、図示しえないと判断した。

SI-126（第 43・53 図）

位置：SI-125 から北へ約１m の地点に位置する。　**重複遺構：**複数回の攪乱を受けている。攪乱からは現代遺物が出土している。　**規模と形状：**南北壁面同士の距離から一辺約 2.5 m前後の住居跡と考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**出土遺物は土師器と須恵器の小破片のみで、図示しえないと判断した。

SI-127（第 43・54・59 図、第 53 表、図版一四）

位置：SI-126 から北へ 12 m の地点に位置する。　**規模と形状：**南北の壁面同士の距離から一辺約 3.5 m 前後の住居跡であると考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**壁溝：**南北の壁下に壁溝を確認した。壁溝は幅約 20cm、深度約 10cm を計測する。　**遺物：**１は甕の体部片で内面を下にし、伏せるように床面から出土した。体部外面には明瞭なヘラミガキが施される。

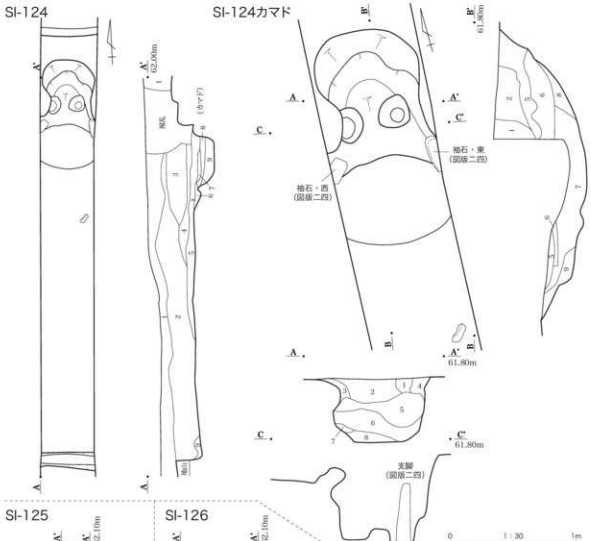
SI-128（第 43・54・60 図、第 54 表、図版一四、図版二五）

位置：SI-127 から北へ 22.5 m の地点に位置する。　**規模と形状：**南北の壁面同士の距離から一辺約 3.5 m前後の住居跡であったと考えられる。**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**付属施設：**南北の壁下に壁溝を確認した。壁溝は幅約 20cm 深度約 10 ｃmである。

遺物：図示した遺物は、土師器甕２点、土師器坏２点、須恵器捏鉢１点、鉄鉢形須恵器１点、石錘３点である。１の土師器甕は口縁部片で体部外面をヘラケズリで整形されている。２の捏鉢は胎土から三毳窯跡群の製品と考えられる。非常に丁寧に作成されており、底部は手持ちヘラケズリにより整形されている。また、１の甕と２の捏鉢は外側に甕を内側に捏鉢を重ねた状態で床面から出土した。４は口唇部と底部が磨滅した土師器坏である。灯明皿として転用されている。６の鉄鉢形須恵器も胎土から２の捏鉢同様に三毳窯跡群の製品と考えられる。７～９の石錘は住居南壁際の床面上に３つ並んだ状態で出土した。捏鉢と石錘の出土状況から両者共になんらかの意図があっての行為の可能性がある。

SI-129（第 44・54・60 図、第 55 表、図版一五）

位置：SI-128 から北へ 10.5 m の地点に位置する。　**重複遺構：**北壁上部は SI-138 を切る。　**規模と形状：**住居跡コーナーの一部のみの確認であったため全体の規模と形状は不明である。　**覆土：**攪乱のためほぼ把



SI-124

1	黒褐色土	ローム粒(1～2mm)・焼土粒多量含む。しまりなし。粘性なし。
2	褐色土	灰白色粘土粒子多量、焼土粒(2～3mm)多量含む。しまりなし。粘性なし。
3	褐色土	灰白色粘土粒子多量、焼土粒(2～3mm)少量含む。しまりなし。粘性なし。
4	褐色土	ローム粒(2～3mm)・焼土粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
5	黒褐色土	ローム粒(5mm前後)多量含む。しまりなし。粘性なし。
6	黒褐色土	ローム粒(5mm前後)多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-124カマド

1	灰白色土	灰白色粘土多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2	黒褐色土	灰白色粘土粒含む。しまりややなし。粘性ややなし。
3	灰白色土	灰白色土粘土多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
4	灰白色土	灰白色土粘土多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
5	褐色土	焼土を多く含む。しまりや弱い。粘性ややなし。
6	黒褐色土	灰・焼土を多く含む。しまりや弱い。粘性ややなし。
7	灰白色土	灰を多く含む。しまりややなし。粘性ややなし。
8	黒褐色土	焼土粒多量含む。しまりややなし。粘性ややあり。
9	黒褐色土	ロームブロック多量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

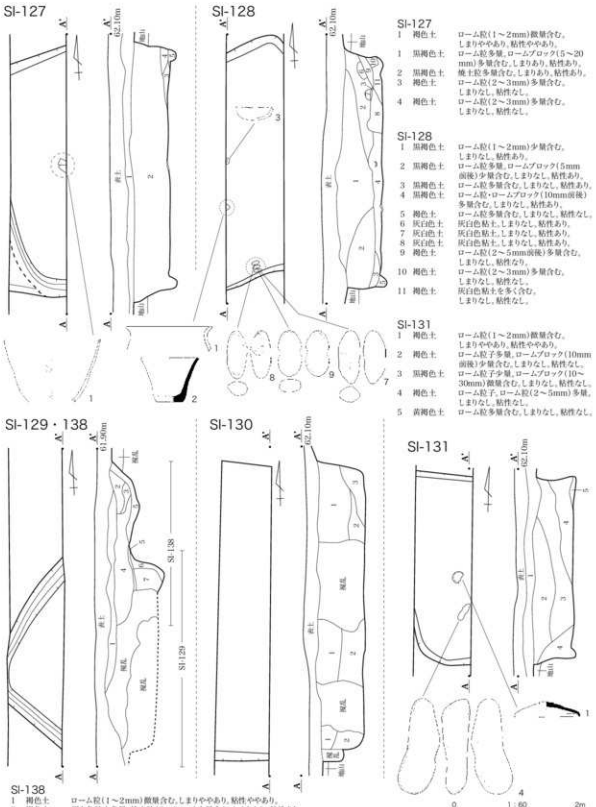
SI-125

1	褐色土	ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2	黒褐色土	ローム粒子多量、焼土粒(2～3mm)微量含む。しまりなし。粘性なし。
3	褐色土	ローム粒子多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-126

1	褐色土	ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性あり。
2	褐色土	ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)少量含む。しまりなし。粘性なし。
3	褐色土	ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
4	黄褐色土	ローム粒多量含む。しまりなし。粘性なし。

第53図　15区SI-124・125・126実測図



SI-127

1	褐色土	ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
1	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)多量含む。しまりあり。粘性あり。
2	黒褐色土	焼土粒多量含む。しまりあり。粘性あり。
3	褐色土	ローム粒(2～3mm)多量含む。しまりなし。粘性なし。
4	褐色土	ローム粒(2～3mm)多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-128

1	黒褐色土	ローム粒(1～2mm)少量含む。しまりなし。粘性あり。
2	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック(5mm前後)少量含む。しまりなし。粘性あり。
3	黒褐色土	ローム粒多量含む。しまりなし。粘性あり。
4	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック(10mm前後)多量含む。しまりなし。粘性あり。
5	褐色土	ローム粒多量含む。しまりなし。粘性なし。
6	灰白色土	灰白色粘土。しまりなし。粘性あり。
7	灰白色土	灰白色粘土。しまりなし。粘性あり。
8	灰白色土	灰白色粘土。しまりなし。粘性あり。
9	褐色土	ローム粒(2～5mm前後)多量含む。しまりなし。粘性なり。
10	褐色土	ローム粒(2～3mm)多量含む。しまりなし。粘性なし。
11	褐色土	灰白色粘土を多く含む。しまりなし。粘性なし。

SI-131

1	褐色土	ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2	褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック(10mm前後)少量含む。しまりなし。粘性なし。
3	黒褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック(10～30mm)微量含む。しまりなし。粘性なし。
4	褐色土	ローム粒子、ローム粒(2～5mm)多量。しまりなし。粘性なし。
5	黄褐色土	ローム粒多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-138

1	褐色土	ローム粒(1～2mm)微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2	褐色土	灰白色粘土多量、焼土粒(2～3mm)少量含む。しまりなし。粘性あり。
3	赤褐色土	焼土粒多量含む。しまりなし。粘性あり。
4	黒褐色土	ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
5	褐色土	ローム粒多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-129

6	黒褐色土	ローム粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
7	褐色土	ローム粒多量含む。しまりなし。粘性なし。

SI-130

1	褐色土	ローム粒(1～2mm)・焼土粒少量含む。しまりなし。粘性なし。
2	褐色土	ローム粒(1～2mm)多量、ロームブロック(10mm前後)やや多量含む。しまりなし。粘性なし。
3	褐色土	ローム粒(1～2mm)やや多量、ロームブロック(10mm前後)、灰白色粘土(5～10mm)少量含む。しまりなし。粘性なし。

第54図　15区SI-127・128・129・130・138／16区SI-131

握できなかった。　**付属施設：**一部に壁溝を確認したが、撹乱により残存状況は悪い。

遺物：図示しえた遺物は、土師器坏４点である。１は灯明皿転用の土師器坏である。ロクロ成形で内面はヘラミガキと黒色処理が成されている。底部にはヘラ起こしの痕が残る。２・３・４も同様に作成されている。他に弥生時代後期十王台式土器の破片が１点出土している（第 62 図・第 62 表）。

SI-138（第 54 図、図版一五）

位置：SI-129 に重複する。　**重複遺構：**SI-129 に切られている。　**規模と形状：**床とカマドの一部を調査区壁面に確認したのみで大半が撹乱を受けているため規模と形状は不明である。　**覆土：**僅かながらに残存するカマドと床面では自然堆積による埋没過程が確認できた。　**付属施設：**カマドを１基確認したが、調査区外に微かに焼土と灰白色粘土が斜位に堆積しているのを確認したのみである。　**遺物：**出土遺物は土師器・須恵器の小破片のみで図示しえなかった。

SI-130（第 44・54 図）

位置：SI-129 から北へ 9m の地点に位置する。　**規模と形状：**調査区外へ続くため不明である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できたが、撹乱が一部に入る。　**付属施設：**掘削時に北側床面にて灰白色粘土がまばらに確認できたためカマドを有するものと考えられる。　**遺物：**出土遺物は土師器・須恵器の小破片のみで図示しえないと判断した。

３．16 区

16 区は東西幅約１m、南北長約 120 m の墓地付近で西回りに半周する調査区である。調査した遺構は住居跡３軒、古墳の周溝１基、土坑２基である。土坑については周溝掘削の際に確認されたものである。

SI-131（第 44・54・60 図、第 56 表、図版一五・二五）

位置：16 区南端から 12 m の地点に位置する。　**規模と形状：**南北の壁面同士の距離から一辺約 2.5 m前後の住居跡であったと考えられる。　**付属施設：**北壁下に壁溝を確認した。壁溝は幅約 20cm 深度約 10cm である。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**出土遺物のうち図示しえた資料は、須恵器坏蓋１点、土師器坏１点、土師器甕１点である。１の須恵器坏蓋は倒位状態で出土した。２の土師器坏は口唇部直下外面側に非常に浅い２条の沈線が施されている。また、２の坏は灯明皿として転用されている。３は土師器甕と考えられるが磨滅が激しく整形などは不明である。４の台石は僅かに使用痕があり、石の表面がつぶれてやや光沢がある。石の側面は黒色を呈し、石の表面と色調が大きく違う。

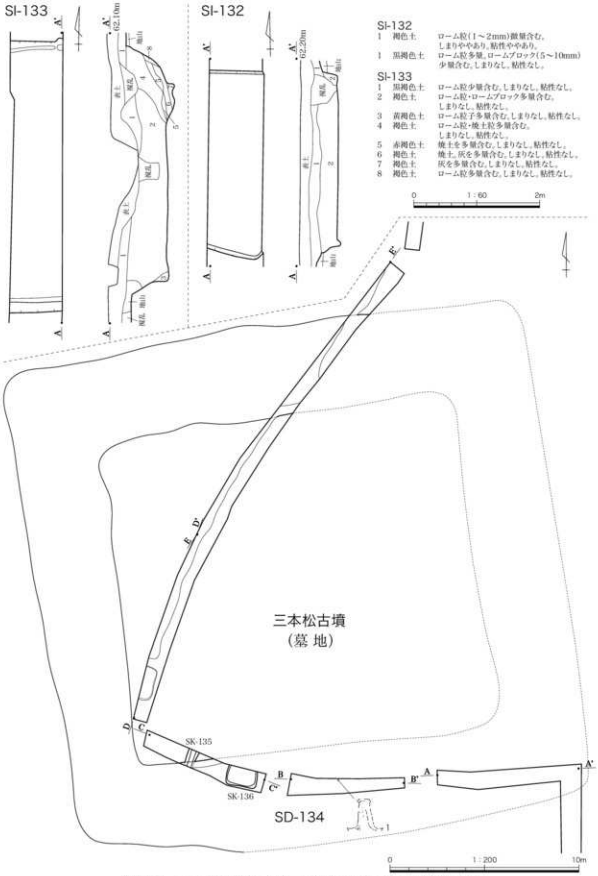
SI-132（第 44・55・61 図、第 57 表）

位置：SI-131 から北へ 15.5 m に位置する。　**規模と形状：**南北の壁面同士の距離から一辺約３m前後の住居跡であったと考えられる。　**壁溝：**南壁下に壁溝を確認した。壁溝は幅約 10cm 深度約 10 ｃmである。

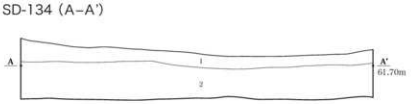
覆土：自然堆積による埋没過程が観察できた。　**遺物：**出土遺物のうち図示したのは、土師器坏１点のみである。１の坏は薄手で底部内面は格子状のミガキが施されている。底部は丁寧にナデつけられているが、僅かに残存する痕跡からヘラ切り起こしにより切り離されていることがわかる。

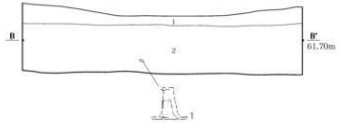
SI-133（第 44・55・61 図、第 58 表）

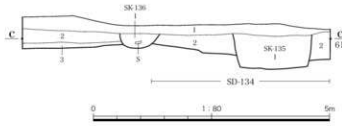
位置：SI-132 から北へ２m に位置する。　**規模と形状：**南北の壁面同士の距離から一辺約４m前後の住居跡であったと考えられる。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が観察できた。　**カマド：**カマドが１基確認できたが、残存状況は悪い。長軸約 0.6 m である。　**遺物：**図示しえたのは土師器坏２点である。１の坏は内面に放射状のミガキが若干残存する。外面体部～底部にかけてはケズリにより整形されている。２の坏は



第 55 図　16 区 SI-132・133・SD-134・SK-135・136 実測図







SD-134

1　表土

2　褐色土　　ローム粒(1～2mm)多量含む,しまりややあり,粘性ややあり。

3　褐色土　　ローム粒(1～2mm)多量含む,しまりややなし,粘性ややあり。

4　黒褐色土　ローム粒を少量含む,しまりややなし,粘性ややあり。

5　黒色土　　ローム粒微量含む,しまりややあり,粘性ややあり。

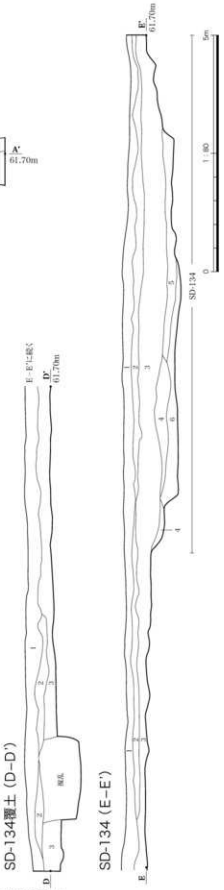
6　褐色土　　ローム粒多量含む,しまりややなし,粘性ややあり。

SK-135

1　黒色土　　しまりややなし,粘性ややなし。

SK-136

1　黒色土　　ローム粒少量含む,しまりややなし,粘性ややなし。



第 56 図　16 区 SD-134・SK-135・136 実測図

口唇部が僅かに内面に傾く。体部外面～底部は１同様にケズリによって整形されている。ほかに住居内覆土から、縄文時代中期阿玉台式土器の破片が１点出土している（第 62 図・第 62 表・図版二六）。

SD-134（第 45 ～ 48・55・56・61 図、第 59 表、図版一五・二五）

位置：16 区北端にある墓地周囲に位置する三本松古墳の周溝である。　**重複遺構：**SK-135・136 に一部を切られる。　**規模と形状：**三本松古墳の墳丘は、現在大半が墓地として利用されており正確な墳形等は不明であった。調査の結果、周溝の幅は約４m、深度は約１m で断面逆台形を呈すことが判明した。東西方向に長い調査区は周溝のほぼ中央を通っていた。墓地西側の北東に傾く南北方向の調査区ではその北端にて周溝の横断面を確認した。また、調査区外の墓地南西側にて直角に曲がる周溝のプランを２箇所確認した。このことから、三本松古墳は「方墳」であると結論付けた。　**覆土：**周溝は自然堆積による埋没過程が確認できた。複数箇所に近現代の土坑墓、耕作痕、畑の導水管等の攪乱を確認した。　**遺物：**出土遺物のうち図示しえたのは、土師器高坏１点、須恵器高台付坏１点、かわらけ１点、須恵器壺２点、縄文土器３点である。天目茶碗１点、陶磁器１点は小破片のため写真と表で報告する（第 62 図・第 64 表・図版二五）。１の高坏は周溝内底部から約 20cm の高さで出土した。脚柱部の中央がやや膨らみ、脚部裾がやや外反する。脚柱部は全体的に縦方向のミガキが施されている。また、１の高坏と類似した破片が他に２点出土している。２の須恵器高台付坏は SD-134 西側から出土した。攪乱によって流入したと考えられる。３のかわらけと縄文土器３点も同様に攪乱土からの流入である。４・５の須恵器壺は同一個体である。胎土や焼成、内面のナデと体部外面全体にタタキが行われていることなどから須恵器と判断した。表採のため厳密な出土位置は不明だが、表採した地点は SD-134 北側である。他に天目茶碗と陶磁器片が出土している。小破片のため表と写真で掲載した。９の天目茶碗は高坏とほぼ同じ高さから出土した資料だが、近くの土坑から同一個体と思われる天目茶碗が出土しているため、流入した資料であろう。　**時期：**高坏から古墳時代中期頃。

SK-135（第 45・55・56 図、図版二六）

位置：SD-134 の南西に位置する。　**重複遺構：**SD-134 を切る。　**規模と形状：**細長い溝状遺構と考えられる。長軸不明、短軸は約 60cm を計測する。　**覆土：**自然堆積による埋没過程が確認できた。SD-134 堆積後に構築された土坑である。　**遺物：**天目茶碗の破片が１点出土した。SD-134 出土の天目茶碗と同一個体と考えられ、小破片のため表と写真で掲載した（第 64 表・図版二六）。

SK-136（第 45・55・56 図）

位置：SD-134 の南に位置する。　**重複遺構：**SD-134 を切る。　**規模と形状：**平面形は長方形である。長軸は約 1.6 m を計測する。　**覆土：**自然堆積による埋没過程を確認できた。

４．その他遺構外出土遺物

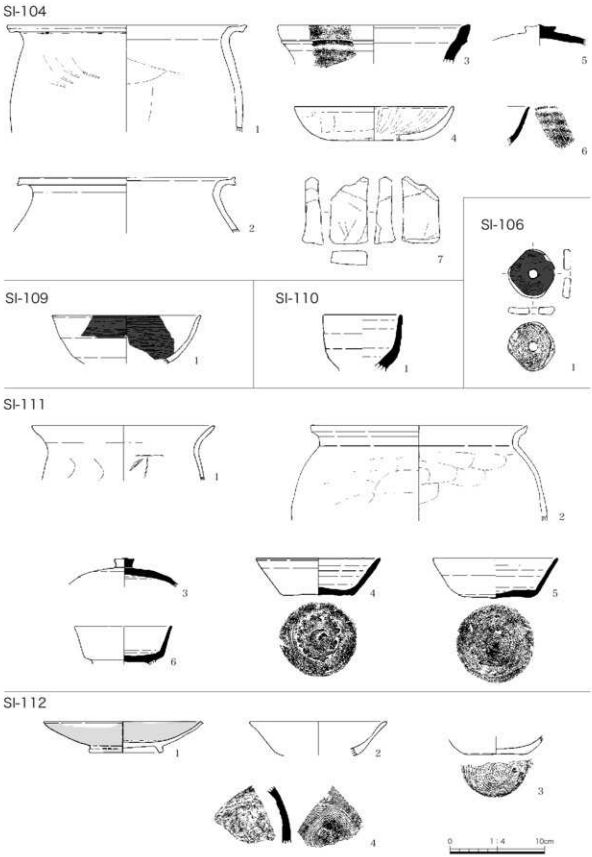
遺構外出土遺物のうち特徴的な資料や残存状態の良好な資料を選択し報告する。

14 区表採資料（第 62 図、第 60 表、図版二五）

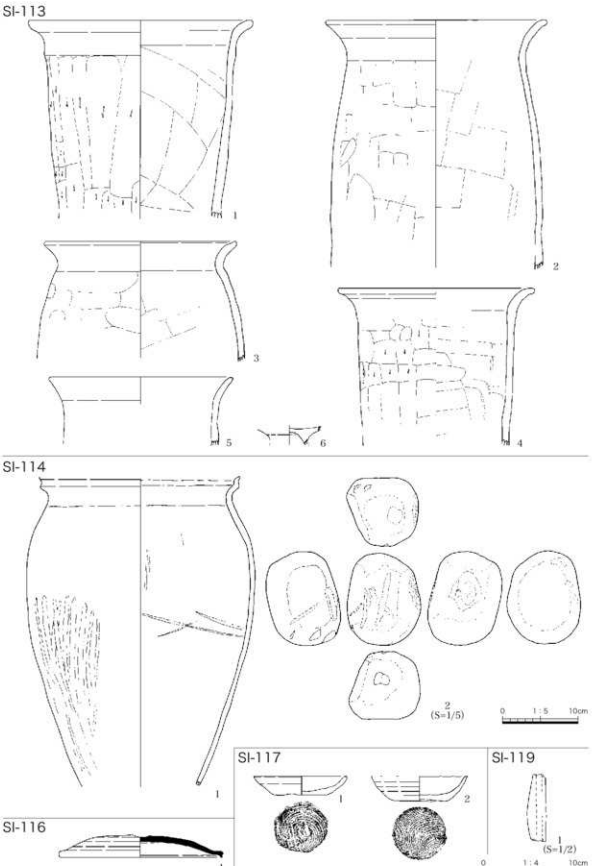
１はロクロ成形のかわらけである。全体的に薄く、深度も浅いが広く平たい形状である。２は須恵器の底部片である。台付きで、端部の断面形が三角形を呈す。全体の破断面を観察すると、表面は還元焼成により青灰色をしているが、内部は暗赤褐色をしている。特徴的な高台を有する。

15 区表採資料（第 61・62 図、第 60 表、図版二六）

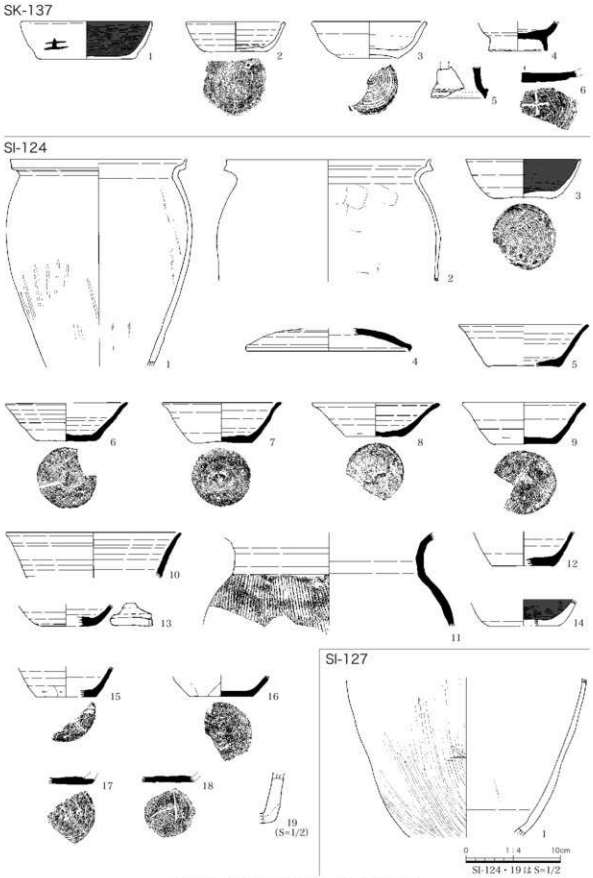
１は SI-129 の調査区外南西にて現表土上から表採した土師器坏である。内面はミガキと黒色処理にて仕上げられ、口唇がやや外反する特徴をもつ、器面外面には墨書で『□田』と書かれている。



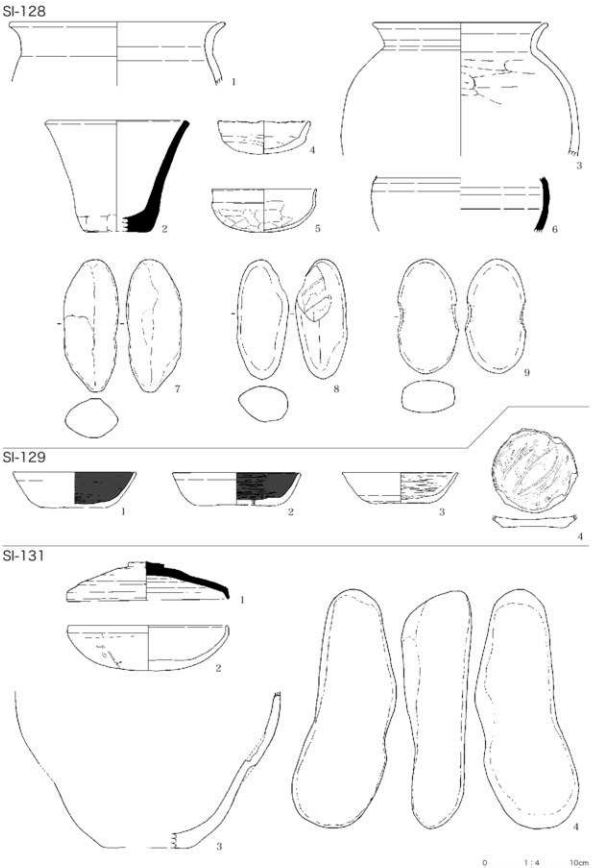
第57図　SI-104・106・109・110・111・112遺物実測図



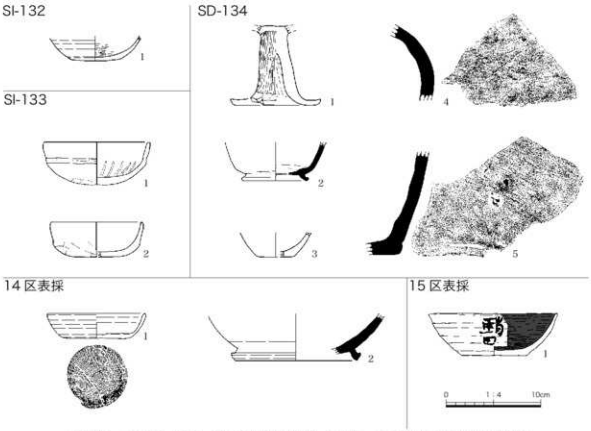
第 58 図　SI-113・114・116・117・119 遺物実測図



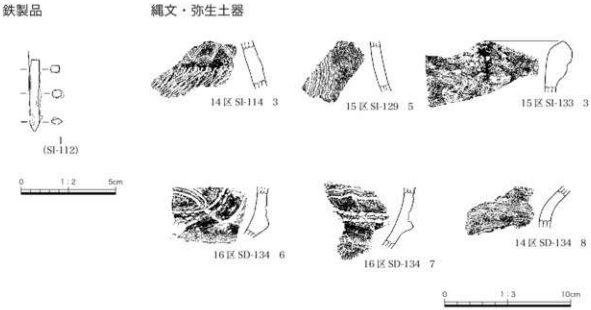
第 59 図　SK-137・SI-124・127 遺物実測図



第 60 図　SI-128・129・131 遺物実測図



第 61 図　SI-132・133・SD-134 遺物実測図／ 14 区・15 区遺構外出土遺物実測図



第 62 図　遺物実測図（縄文・弥生土器・鉄製品）

第40表　SI-104 出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
57	1	土師器 甕	口径 25.3 底径 － 器高 (11.3)	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	雲母少量、石英・長石微量	良好	口縁部片のみ	口：ヘラナデ・ヨコナデ /ヘラナデ 体：ヘラケズリ/ナデ・ヘラナデ 底：－/－	内外共に工具によるヘラナデが明瞭である。また、受け口は浅いが口縁部全体に廻る。	SI-104 カマド
57	2	土師器 甕	口径 22.8 底径 － 器高 (5.8)	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	雲母少量、石英・長石微量	良好	口縁部片のみ	口：ヘラナデ・ヨコナデ /ヘラナデ 体：ヘラナデ/ヘラナデ 底：－/－	受け口部は工具で段を形成した後に指でつまみ上げている。	SI-104 カマド No.4
57	3	須恵器 口縁部片	口径 21.0 底径 － 器高 (4.1)	内：5Y6/1 灰 外：2.5Y6/2 灰黄	白色砂粒・長石・黒色砂粒微量	良好	口縁部片のみ	口：ロクロナデ/ロクロナデ 体：－/－ 底：－/－	口縁の中央に断がある。外面の段には沈線一本廻る。	SI-104 覆土一括
57	4	土師器 坏	口径 16.6 底径 8.4 器高 3.6	内：5YR4/6 赤褐 外：5YR3/4 暗赤褐	赤色粒子少量、黒色粒子・雲母微量	良好	約 70%残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：撫飾ミガキ/ヘラケズリ 底：撫飾ミガキ/ヘラケズリ	内面のススから、灯明皿として用いられたと思われる。	SI-104 カマド No.2
57	5	須恵器 横瓶平蓋	口径 － 底径 － 器高 (2.0)	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：2.5Y5/2 暗灰黄	赤色砂粒・長石微量	良好	約 20%残存	蓋部：ナデ/ヘラケズリ	つまみはスピナデと工具を用いて整形してある。	SI-104 覆土一括
57	6	須恵器 坏	口径 － 底径 － 器高 (4.2)	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：7.5Y6/1 灰	長石・白色砂粒微量	良好	口縁部片のみ	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ヨコナデ 底：－/－	口縁部はやや外反するようにつまみ出されている。	SI-104 覆土一括

第41表　SI-106 出土遺物観察表

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
57	1	紡錘車	最大長 5.1 最大幅 4.9 器厚 0.8 重量 19.07	内：7.5Y2/1 黒 外：10YR5/3 にぶい黄褐	雲母少量、石英・長石微量	良好	完品	上：ミガキ・黒色処理 下：赤切り・ナデ	内黒土師器転用紡錘車。転棒は無いが、直径 1 cm の穿孔が確認できた。	SI-106 覆土一括

第42表　SI-109 出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
57	1	土師器 坏	口径 15.4 底径 － 器高 (5.1)	内：7.5Y2/1 黒 外：2.5Y7/3 浅黄	白色砂粒少量、雲母微量	良好	口縁部片のみ	口：ヨコナデガキ・黒色処理 /ヨコミガキ・黒色処理 体：ヨコミガキ・黒色処理 /ヘラケズリ 底：－/－	内面のヘラミガキは放射状に磨いた後に横方向に磨いている。	SI-109 覆土一括

第43表　SI-110 出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
57	1	須恵器 高坏	口径 8.2 底径 － 器高 (6.0)	内：2.5Y5/1 黄灰 外：5Y5/1 灰	白色砂粒少量、長石・石英微量	良好	約 30%残存	口：ロクロナデ/ロクロナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ ・ヘラケズリ 底：－/－	内外共にロクロによる成形であるが、外面には工具を用いた整形部位が3箇所みられる。	SI-110 覆土一括

第44表　SI-111 出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
57	1	土師器 甕	口径 19.2 底径 － 器高 (5.8)	内：5YR4/6 赤褐 外：5YR5/6 明赤褐	白色砂粒・黒色砂粒微量	良好	口縁部片のみ	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラケズリ 底：－/－	頸部付近まで丁寧に横方向のヘラケズリが施される。	SI-111 覆土一括
57	2	土師器 甕	口径 23.0 底径 － 器高 (10.0)	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：7.5YR6/4 にぶい橙	雲母・石英・長石少量	良好	約 20%残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ ・ヘラケズリ 体：ヨコナデ/ヘラケズリ 底：－/－	受け口部はやや小さいが工具により丁寧に作り出されている。	SI-111 カマド
57	3	須恵器 坏蓋	口径 (11.4) 底径 － 器高 (3.1)	内：5Y5/1 灰 外：5Y5/2 灰オリーブ	白色砂粒少量	良好	約 40%残存	ツマミ：スピナデ 蓋：ヨコナデ/ヘラケズリ	回転ヘラ切りによって形成した蓋の外面につまみを丁寧に取り付けている。	SI-111 覆土一括

57	4	須恵器 坏	口径 12.9 底径 7.5 器高 3.9	内：N5/ 灰 外：N4/ 灰	白色砂粒 少量	良好	完品	口：ロクロナデ/ロクロナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ナデ/ヘラ切り	底部はヘラ切り後に ヘラ起しを し、部分 的にナデつけた痕が ある。	SI-111 覆土一括
57	5	須恵器 坏	口径 13.1 底径 4.3 器高 8.3	内：N5/ 灰 外：N5/ 灰	黒色砂粒・ 白色砂粒 少量	良好	約 70% 残存	口：ロクロナデ/ロクロナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ナデ/ヘラ切り	底部はヘラ切り後に ヘラ起しを し、ナデ をしている。	SI-111 カマド
57	6	須恵器 高台付坏	口径 10.2 底径 (6.6) 器高 (4.0)	内：5Y5/1 灰 外：N5/ 灰	白色砂粒 少量	良好	約 90% 残存	口：ロクロナデ/ロクロナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ナデ/ヘラ切り	底部はヘラ切り後に 高台を付けた痕がみ る。高台は全て欠損 している。	SI-111 カマド

第 45 表　SI-112 出土遺物観察表

（ ）：残存値

検図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内／外）	胎土	焼成	残存率	技法（内／外）	特徴・備考	出土位置
57	1	灰釉陶器 皿	口径 16.8 底径 7.6 器高 3.4	内：2.5Y8/2 灰白 外：2.5Y8/1 灰白	緻密な灰 白色砂粒 少量、黒 色粒子微 量	良好	約 70% 残存	口：ロクロナデ/ロクロナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ヘラ切り	外面口縁下に工具による 洗線あり。重ね焼きによ る痕跡が上下にある。高 台部は後付けで、ナデと ケズリによりラ籠に整形 されている。	SI-112 カマド No.1, 2・ 14 区表採
57	2	土師器 坏	口径 14.3 底径 － 器高 (3.6)	内：2.5Y6/2 灰黄 外：7.5YR6/4 にぶい黄橙	長石・白 色砂粒・ 雲母微量	良好	約 40% 残存	口：ロクロナデ/ロクロナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：赤切り	全体的に歪んだ形を している。口縁部は やや丸く厚い。	SI-112 覆土一括
57	3	土師器 坏	口径 － 底径 (1.9) 器高 (3.4)	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	白色砂粒 少量、長 石・雲母・ 黒色粒子 微量	良好	約 20% 残存	口：－/－ 体：－/－ 底：ナデ/赤切り	含有物が粗く、全体 的にやや粗雑と言え る。	SI-112 カマド No.7
57	4	須恵器 椀体部片	口径 － 器高 (6.1) 器厚 0.9	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	緻密な白 色砂粒微 量	良好	体部片の み	体：ユビナデ/工具による 回心円状の沈線	提椀か椀椀と考えられ る。内面には工具による に指紋の痕跡がある。	SI-112 覆土一括

第 46 表　SI-113 出土遺物観察表

（ ）：残存値

検図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内／外）	胎土	焼成	残存率	技法（内／外）	特徴・備考	出土位置
58	1	土師器 甕	口径 23.4 底径 － 器高 (21.0)	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	長石・白 色砂粒・ 赤色砂粒・ 黒色砂粒 少量	良好	約 20% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ヘラケズリ 底：－/－	外面のヘラケズリは 縦方向で上から下に 削っている。	SI-113 カマド No.1
58	2	土師器 甕	口径 23.0 底径 － 器高 (26.1)	内：10YR7/3 にぶい橙 外：10YR6/4 浅黄橙	赤色砂粒・ 黒色砂粒 少量、石 英微量	良好	約 40% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラケズリ 底：－/－	外面のヘラケズリは 縦方向で上から下に 削っている。	SI-113 カマド No.2
58	3	土師器 甕	口径 20.2 底径 － 器高 (12.4)	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：10YR5/3 にぶい黄橙	赤色砂粒、 白色砂粒 少量、石 英・長石 微量	良好	約 10% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラケズリ 底：－/－	内外共に摩滅が激し く調整は一部でしか 確認できなかった。	SI-113 カマド No.5
58	4	土師器 甕	口径 20.5 底径 － 器高 (16.6)	内：7.5YR7/6 橙 外：5YR6/6 橙	白色砂粒・ 赤色砂粒 少量、石 英微量	良好	約 10% 残存	口：ヘラナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ/ヘラケズリ 底：－/－	外面のヘラケズリは 縦方向で上から下に 削っている。	SI-113 カマド No.4
58	5	土師器 甕	口径 19.2 底径 － 器高 (7.2)	内：10YR8/4 浅黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	赤色砂粒・ 石英微量	良好	口縁部片 のみ	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラナデ・ヨコナデ /ヘラナデ 底：－/－	口唇部はやや丸みを 帯びるようにつくり 出されている。	SI-113 覆土一括
58	6	土師器 台付甕	口径 － 底径 (4.2) 器高 2.0	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：7.5YR6/4 にぶい橙	石英・黒 色砂粒少 量	良好	底部片の み	口：－/－ 体：－/－ 底：ナデ/ヨコナデ	台部と体部接合部の み残存。	SI-113 覆土一括

第 47 表　SI-114 出土遺物観察表

（ ）：残存値

検図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内／外）	胎土	焼成	残存率	技法（内／外）	特徴・備考	出土位置
58	1	土師器 甕	口径 20.9 底径 － 器高 (32.5)	内：10YR3/2 黒褐 外：10YR4/2 灰黄褐	雲母少量、 長石・石 英微量	良好	約 40% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ ・ヘラナデ 体：ヘラナデ/ヘラナデ ・ミガキ 底：－/－	内外ともにヘラナデを施す。 外面には一部にヘラケズリと 見られる痕跡もある。外面体 部半ばから底部にかけて縦方 向のミガキを施される。	SI-114 床面

第48表　SI-116 出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
58	1	須恵器 坏蓋	口径 17.1 底径 – 器高 (2.3)	内：5Y5/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	白色砂粒 少量	良好	約 90% 残存	蓋：ロクロナデ / ロクロナデ ・ヘラケズリ	回転ヘラケズリにより丁寧に成形した後につまみ部を付け端部をナデによりと調整している。つまみ部は剥落している。	SI-116 覆土一括

第49表　SI-117 出土遺物観察表

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
58	1	土師器坏	口径 9.8 底径 5.4 器高 2.0	内：10YR7/6 明黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	石英・赤色砂粒微量	良好	完品	口：ロクロナデ / ロクロナデ 体：ロクロナデ / ロクロナデ 底：ロクロナデ / 糸切り ・手持ちヘラケズリ	糸切りで底部を切り離し工具で数箇所底部を押さえている。一部は側にヘラケズリで面取りをしている。	SI-117 カマド No.3
58	2	土師器坏	口径 10.1 底径 5.5 器高 2.6	内：10YR8/4 浅黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	赤色砂粒少量、石英微量	やや悪い	約 90% 残存	口：ロクロナデ / ロクロナデ 体：ロクロナデ / ロクロナデ 底：ロクロナデ / 糸切り ・手持ちヘラケズリ	口縁部がやや外反するようにつまみ出されている。	SI-117 カマド No.4，5・ 覆土一括

第50表　SI-119 出土遺物観察表（土製品）

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
58	1	土錘	最大長 3.6 最大幅 1.0 最小幅 0.6 重　量 2.83	内：2.5Y7/1 色灰黄	黒色砂粒・石英微量	良好	約 90% 残存	口：–/– 体：工具による摩孔 / ナデ 底：–/–	摩孔部の形状から棒状工具は左右に振りながら引き抜いたと考えられる。	SI-119 覆土一括

第51表　SK-137 出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴	出土位置
59	1	土師器 坏	口径 13.9 底径 10.5 器高 4.0	内：7.5Y2/1 黒 外：7.5YR6/6 橙	雲母少量、黒色砂粒微量	良好	約 30% 残存	口：ミガキ / ナデ 体：ミガキ・黒色処理 / ナデ 底：ミガキ・黒色処理 / ナデ	口縁部がやや外反するようにつまみ出されている。内面に暗紋がある。坏身外面には墨書の痕跡がある。	SK-137 覆土一括
59	2	土師器 坏	口径 10.5 底径 6.0 器高 3.2	内：10YR8/4 浅黄橙 外：10YR8/3 浅黄橙	赤色砂粒少量	良好	約 60% 残存	口：ナデ / ナデ 体：ロクロナデ / ロクロナデ 底：ロクロナデ / ロクロナデ	口縁部内面側にややふくらみを持つ。	SK-137 覆土一括
59	3	土師器 坏	口径 13.5 底径 9.4 器高 4.6	内：10YR8/4 浅黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	赤色砂粒少量、石英・黒色砂粒微量	良好	約 40% 残存	口：ナデ / ナデ 体：ロクロナデ / ロクロナデ 底：ナデ / 糸切り	口縁部は全体的に厚く、やや外反する形状を呈す。	SK-137 覆土一括
59	4	須恵器 底部片	口径 – 底径 6.2 器高 3.1	内：5Y5/2 灰オリーブ 外：7.5Y4/1 灰	白色砂粒少量	良好	高台部片のみ	口：–/– 体：ロクロナデ / ロクロナデ 底：ナデ / ヘラ切り	底部から体部の立ち上がりはやや急角度である。	SK-137 覆土一括
59	5	須恵器 円面硯	口径 – 底径 – 器高 3.3	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	白色砂粒少量	良好	脚部のみ	口：–/– 体：–/– 底：ナデ / ナデ	脚端部はやや下方へ突出する。透かし孔がある。	SK-137 覆土一括
59	6	須恵器 底部片	口径 – 底径 – 器高 (1.0)	内：10Y5/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	白色砂粒少量	良好	底部片のみ	口：–/– 体：–/– 底：ナデ / ヘラケズリ	底面にヘラケズリを行った痕跡が若干ある。底面にヘラ記号がある。	SK-137 覆土一括

第52表　SI-124 出土遺物観察表

（ ）：残存値

掲図番号	掲載番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴	出土位置
59	1	土師器 甕	口径 18.7 底径 – 器高 (21.8)	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：10YR5/4 にぶい黄褐	雲母少量、長石・石英微量	良好	約 20% 残存	口：ヨコナデ /ヘラナデ・ヨコナデ 体：ヘラナデ /ヘラナデ・ミガキ 底：–/–	外面の一部にヘラナデの痕跡を残すが、摩滅によりほぼ消えている。体部中ほどから底部にかけては縦方向のミガキが施されている。	SI-124 覆土一括
59	2	土師器 甕	口径 21.6 底径 – 器高 (12.8)	内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：5YR6/8 橙	長石・石英少量、雲母微量	良好	約 20% 残存	口：ヨコナデ /ヘラナデ・ヨコナデ 体：ヘラナデ / ナデ 底：–/–	全体的に摩滅が激しいため成形・調整の痕跡は一部しか確認できなかった。	SI-124 カマド一括

59	3	土師器 坏	口径 12.0 底径 6.0 器高 4.1	内：N2/ 黒 外：5YR5/6 明赤褐	白色砂粒・ 石英微粒	良好	約 60%残 存	口：ナデ・黒色処理/ナデ 体：ミガキ・黒色処理/ナデ 底：ミガキ・黒色処理 /糸切り	SI-124 覆土一括
59	4	須恵器 坏蓋	口径 (17.1) 底径 — 器高 (2.4)	内：2.5Y5/1 黄灰 外：5Y5/1 灰	白色砂粒・ 黒色砂粒 少量	良好	約 10% 残存	蓋：ナデ/ナデ・ケズリ	SI-124 覆土一括
59	5	須恵器 坏	口径 13.5 底径 (7.5) 器高 4.4	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	白色砂粒 少量	良好	約 40% 残存	口：ナデ/ナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 カマド一括
59	6	須恵器 坏	口径 12.3 底径 6.3 器高 4.0	内：N5/ 灰 外：N5/ 灰	白色砂粒 少量	良好	約 70% 残存	口：ナデ/ナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 カマド一括
59	7	須恵器 坏	口径 12.5 底径 6.1 器高 4.2	内：N5/ 灰 外：7.5Y5/1 灰	白色砂粒 少量	良好	約 60% 残存	口：ナデ/ナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 カマド一括
59	8	須恵器 坏	口径 (13.2) 底径 (6.1) 器高 3.6	内：7.5Y2/1 黒 外：2.5Y5/3 黄褐	雲母・長 石・白色 砂粒少量	良好	約 50% 残存	口：ナデ/ナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 覆土一括
59	9	須恵器 坏	口径 12.8 底径 6.4 器高 4.4	内：7.5Y5/1 灰 外：5Y5/2 灰オリーブ	白色砂粒 少量	良好	約 50% 残存	口：ナデ/ナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ ・ヘラケズリ 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 カマド一括
59	10	須恵器 坏	口径 18.4 底径 — 器高 (4.3)	内：5Y5/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	白色砂粒 少量	良好	約 20% 残存	口：ナデ/ナデ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：—/—	SI-124 カマド一括
59	11	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 (19.7)	内：2.5Y7/3 浅黄 外：7.5Y3/1 オリーブ黒	雲母少量, 長石・黒 色砂粒微 量	良好	約 10% 残存	口：ヘラナデ/ヨコナデ 体：ナデ/タタキ締め 底：—/—	SI-124 覆土一括
59	12	須恵器 坏	口径 — 底径 (5.2) 器高 (3.6)	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y6/3 にぶい黄	白色砂粒 少量	やや 悪い	約 30% 残存	口：—/— 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 カマド一括
59	13	須恵器 坏	口径 — 底径 (5.4) 器高 (2.4)	内：7.5Y6/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	長石少量, 白色砂粒 少量	良好	底部片の み	口：—/— 体：—/— 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 覆土一括
59	14	土師器 坏	口径 — 底径 (7.4) 器高 (2.8)	内：5Y3/1 オリーブ黒 外：5YR6/6 橙	雲母微量	良好	約 10% 残存	口：—/— 体：ミガキ・黒色処理/ナデ 底：—/—	SI-124 覆土一括
59	15	須恵器 坏	口径 — 底径 (6.2) 器高 (3.2)	内：2.5Y5/1 黄灰 外：2.5Y5/1 黄灰	白色砂粒・ 黒色砂粒 少量	良好	底部片の み	口：—/— 体：—/— 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 覆土一括
59	16	須恵器 坏	口径 — 底径 (6.8) 器高 (2.4)	内：5Y7/1 灰白 外：5Y6/1 灰	黒色砂粒 少量	良好	底部片の み	口：—/— 体：—/— 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 覆土一括
59	17	須恵器 坏	口径 — 底径 (7.2) 器高 (0.8)	内：5Y5/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	白色砂粒 少量	良好	底部片の み	口：—/— 体：—/— 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 覆土一括
59	18	須恵器 坏	口径 — 底径 — 器高 (0.7)	内：7.5Y5/1 灰 外：10Y5/1 灰	白色砂粒 少量	良好	底部片の み	口：—/— 体：—/— 底：ナデ/ヘラ切り ・ヘラケズリ	SI-124 覆土一括

59	19	土師器 製塩土器	口径 － 底径 － 器高 (2.6)	内：7.5YR6/6 橙色 外：7.5YR7/6 橙色	白色針状 物質多量	良好	底部片の み	口：－/－ 体：ナデ/ユビナデ 底：－/－	外面のナデは指で押 さえた痕跡。	SI-124 覆土一括

第53表　SI-127 出土遺物観察表

（ ）：残存値

神岡 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内／外）	胎土	焼成	残存率	技法（内／外）	特徴・備考	出土位置
59	1	土師器 甕	口径 － 底径 － 器高 (17.3)	内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：5YR5/6 明赤褐	雲母・長 石多量、 石英微量	良好	約20% 残存	口：－/－ 体：ヘラナデ/ヘラミガキ 底：－/－	体部下半の破片で外 面には摩滅している ものの、ミガキの痕 跡が全面にみられる。	SI-127 カマド No.1, 2

第54表　SI-128 出土遺物観察表

（ ）：残存値

神岡 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内／外）	胎土	焼成	残存率	技法（内／外）	特徴	出土位置
60	1	土師器 甕	口径 22.4 底径 － 器高 (6.8)	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR5/4 にぶい褐	黒色砂粒 少量、石 英微量	良好	口縁部片 のみ	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ヘラケズリ 底：－/－	体部のヘラケズリの痕 きは、統一されていな い。2の須恵器程は縁 上口縁部をあわせるよ うに出土した。	SI-128 床
60	2	須恵器 瓶底	口径 15.3 底径 (7.1) 器高 11.7	内：2.5Y8/2 灰白 外：2.5Y6/1 黄灰	黒色砂粒 少量、白 色砂粒微 量	良好	約40% 残存	口：ナデ/ナデ・ヘラケズリ 体：ロクロナデ /ロクロナデ 底：ナデ/手持ちヘラケズリ	内面は概ねに整形されて る。外面底部は丸に手持 ちヘラケズリを施す。 1の土師器程と口縁部を合 わせ、入れ子状に出土した。	SI-128 床
60	3	土師器 甕	口径 18.7 底径 － 器高 (14.0)	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：5YR6/6 橙	黒色砂粒 少量	良好	約20% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヨコナデ/ナデ ・ヘラケズリ 底：－/－	口縁部は内外共にヨコナデ を施す。内面の胴部下半 は一部ではあるがヘラケズ リが見られる。	SI-128 覆土一括
60	4	土師器 坏	口径 10.2 底径 － 器高 3.7	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	黒色砂粒 少量	良好	ほぼ完品	口：ヨコナデ/ヨコナデ 体：ヘラケズリ/ヘラナデ 底：ヘラナデ/ヘラケズリ	ススが吸着しているため 明確ではないが使用された痕 跡がある。底部は手持ち ヘラケズリによって平滑状に 整形されているが、使用痕 では摩滅している。	SI-128 床
60	5	土師器 坏	口径 10.8 底径 － 器高 (4.4)	内：2.5Y5/1 黄灰 外：10YR8/4 浅黄橙	赤色砂粒・ 石英微量	良好	約60% 残存	口：ナデ/ナデ 体：ヘラナデ/ヘラケズリ 底：ナデ/ヘラケズリ	内面にヘラナデの痕跡 が若干残存する。転用 灯明説。	SI-128 覆土一括
60	6	須恵器 鉢形	口径 － 底径 － 器高 (5.9)	内：5Y7/1 灰白 外：2.5Y6/1 黄灰	黒色砂粒 微量	良好	破片のみ	口：－/－ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：－/－	口縁部との変換点の位 置には比較的明瞭に残 る。	SI-128 覆土一括

第55表　SI-129 出土遺物観察表

（ ）：残存値

神岡 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内／外）	胎土	焼成	残存率	技法（内／外）	特徴	出土位置
60	1	土師器 坏	口径 12.9 底径 6.8 器高 3.5	内：N2/ 黒 外：10YR6/3 にぶい黄橙	長石・石 英微量	良好	約60% 残存	口：ミガキ ・黒色処理/ロクロナデ 体：ミガキ ・黒色処理/ロクロナデ 底：ミガキ ・黒色処理/ヘラ切り	ロクロによる調整と整形の 後に、回転ヘラ切り、ヘラ 起しを行う。内面はミガキ・ 黒色処理が施されている。 灯明皿として転用されている。	SI-129 覆土一括
60	2	土師器 坏	口径 13.4 底径 8.5 器高 3.4	内：5Y2/1 黒 外：10YR にぶい黄褐	赤色粒子 少量、雲 母微量	良好	約50% 残存	口：ミガキ ・黒色処理/ロクロナデ 体：ミガキ ・黒色処理/ロクロナデ 底：ミガキ ・黒色処理/ヘラ切り	ロクロによる調整と整形の 後、回転ヘラ切りを行う。 内面はミガキ・黒色処理が 施されている。	SI-129 覆土一括
60	3	土師器 坏	口径 12.2 底径 6.0 器高 3.3	内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：2.5Y6/3 にぶい黄	雲母少量	良好	約40% 残存	口：ミガキ/ロクロナデ 体：ミガキ/ロクロナデ 底：ミガキ/ヘラ切り	ロクロによる調整と整形の 後、回転ヘラ切りを行う。 内面は幅1mm程度のヘラ ミガキが密に施される。口 縁部分や外反させるよう につまみ出されている。	SI-129 覆土一括
60	4	土師器 坏	口径 － 底径 7.0 器高 : (1.3)	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：7.5YR6/6 橙	雲母少量	良好	底部片の み	口：－/－ 体：－/－ 底：ミガキ/ヘラ切り	底部片のみ。 内面は幅1mm程度のミガ キが施されており、外面は 底部分が転ヘラ切りのみ確 認した。	SI-129 覆土一括

第56表　SI-131 出土遺物観察表

（ ）：残存値

神岡 番号	掲載 番号	種類 器種	計測値 (cm)	色調（内／外）	胎土	焼成	残存率	技法（内／外）	特徴・備考	出土位置
60	1	須恵器 坏蓋	口径 17.0 底径 － 器高 4.1	内：7.5Y6/1 灰 外：5Y6/1 灰	白色砂粒 少量	良好	約80% 残存	ツマミ：ナデ 蓋：ロクロナデ /ロクロナデ・ケズリ	全体的に歪んだ形を している。	SI-131 床面

60	2	土師器 坏	口径 16.8 底径 － 器高 4.8	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：7.5Y2/1 黒	石英少量、 白色砂粒 少量	良好	約 60% 残存	口：ナデ/ナデ 体：ナデ/ケズリ 底：ナデ/ケズリ	外面は全体的にケズリが見られるが、口縁部はヨコナデで整形している。口縁直下には2条の沿線に沿い、沈線が施されている。灯明具として転用されている。	SI-131 覆土一括
60	3	土師器 甕	口径 － 底径 (8.6) 器高 (16.8)	内：2.5YG6/2 灰黄 外：10YR7/4 にぶい黄橙	黒色砂粒 少量	良好	約 10% 残存	口：－/－ 体：ナデ/ナデ 底：ナデ/ナデ	全体的に摩滅が激しい。	SI-131 覆土一括

第 57 表　SI-132 出土遺物観察表

（　）：残存値

神岡番号	掲載番号	種類器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
61	1	土師器 坏	口径 － 底径 5.0 器高 (2.7)	内：2.5Y4/2 暗灰黄 外：2.5Y5/4 黄褐	雲母微量	良好	約 20% 残存	口：－/－ 体：ミガキ/ナデ 底：ミガキ/ヘラ切り	内面のミガキは底部は粗子状にミガキが施されている。外面はヨコナデで成形し、底部はヘラ切りが行われている。	SI-132 覆土一括

第 58 表　SI-133 出土遺物観察表

神岡番号	掲載番号	種類器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
61	1	土師器 坏	口径 11.3 底径 － 器高 4.5	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR5/4 にぶい黄褐	白色砂粒 微量	良好	約 50% 残存	口：ヨコナデ/ヨコナデ　体：ケズリ/ミガキ 底：ミガキ/ケズリ 内面は摩滅が激しい。一部にヨコナデと微細なのミガキの痕跡がみられる。口縁部の外面はヨコナデを施し底部は手持ちヘラケズリで整形している。口縁部との変換点には工具を用いた沈線が観察。	SI-133 覆土一括
61	2	土師器 坏	口径 9.7 底径 4.5 器高 3.6	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	白色砂粒 微量	良好	約 60% 残存	口：－/－ 体：ナデ/ケズリ 底：ナデ/ケズリ	外面は口縁部をヨコナデで整形し、底部を手持ちヘラケズリで整えている。	SI-133 覆土一括

第 59 表　SD-134 出土遺物観察表

（　）：残存値

神岡番号	掲載番号	種類器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
61	1	土師器 高坏	口径 － 底径 9.4 器高 8.4	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：10YR5/4 にぶい黄褐	黒色砂粒少量、石英微量	良好	約 40% 残存	脚柱：しぼり/ミガキ　裾：ヨコナデ/ヨコナデ 杯部脚部接続は、脚柱端は杯の裾部から、裾部ではコナデになる。裾端部はやや上向きとなる。脚柱外面は縦方向のミガキが施される。指ナデは脚柱中央が整うな。杯部の破片は他2点あるが、いずれも小破片で接合しえないと判断した。	SD-134 周溝底
61	2	須恵器 底部片	口径 － 底径 6.7 器高 (4.1)	内：5Y5/1 灰 外：5Y4/1 灰	白色砂粒少量、黒色砂粒微量	良好	底部片のみ	口：－/－ 体：ロクロナデ/ロクロナデ 底：ナデ/ヘラ切り	外面はヘラ切り後に高台をつけている。	SD-134 覆土一括
61	3	かわらけ	口径 － 底径 3.8 器高 (2.0)	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	白色砂粒・黒色砂粒微量	良好	約 20% 残存	口：－/－ 体：ナデ/ナデ 底：ナデ/糸切り	底部にうっすらと糸切りの痕跡がある。	SD-134 覆土一括
61	4・5	須恵器 甕	口径 － 底径 － 器高 －	内：2.5Y4/1 黄灰 外：5YR3/1 黒褐	白色砂粒少量	良好	約 30% 残存	口：－/－ 体：ユビナデ・ユビ押さえ /タタキ締め 底：ユビナデ/ヘラケズリ	外面全体にタタキの痕跡がうっすらと残る。外面底部から上は自然釉が覆っている。内面底部にも自然釉がある。	SD-134 覆土一括

第 60 表　遺構外出土遺物観察表

神岡番号	掲載番号	種類器種	計測値 (cm)	色調 (内 / 外)	胎土	焼成	残存率	技法 (内 / 外)	特徴・備考	出土位置
61	14 区表採 1	土師器 坏	口径 10.3 底径 6.1 器高 2.6	内：2.5Y8/2 灰白 外：10YR8/3 浅黄橙	黒色砂粒・赤色砂粒微量	良好	約 80% 残存	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ/糸切り	口縁部の形状は、口縁部平ばに窪みを持ち、口唇に向かって やや細くなる。	14 区表採
61	14 区表採 2	須恵器 底部片	口径 － 底径 12.8 器高 5.0	内：5Y4/1 灰 外：N3/ 暗灰	白色砂粒微量	良好	底部片のみ	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ/ケズリ	体部外面の一部にケズリによって整形した箇所がある。高台部は最部断面から三角形に近い形状をしている。	14 区表採
61	15 区表採 1	土師器 坏	口径 13.6 底径 6.8 器高 4.4	内：7.5Y2/1 黒 外：10YR5/3 にぶい黄褐	雲母少量	良好	ほぼ完品	内：ミガキ/黒色処理 外：ロクロナデ/ヘラ起し	底部は回転ヘラ切り後にヘラ起しで切り離している。内面黒色で、外面には黒書がある。	15 区表採

第 61 表　出土遺物観察表（石器）

挿図番号	掲載番号	出土位置	種類	計測値 (mm・g)				特徴・備考
				最大長	最大幅	最大厚	重量	
57	7	SI-104 床面	砥石	7.1	4.0	2.2	69.03	4面に研面がある砥石である。
58	2	SI-114 床面	磨石	12.1	9.8	9.0	965.10	複数個所に使用痕がみられる。凝灰岩。
60	7	SI-128 床面	石錘	13.9	5.8	4.1	402.18	住居壁際に用の字で置かれていた。
60	8	SI-128 床面	石錘	12.6	5.4	3.7	299.72	住居壁際に用の字で置かれていた。
60	9	SI-128 床面	石錘	12.6	6.4	3.4	307.84	住居壁際に用の字で置かれていた。
60	4	SI-131 床面	台石	25.2	8.9	7.3	2349.22	微かに使用痕が残存する。

第 62 表　出土遺物観察表（縄文・弥生土器）

挿図番号	掲載番号	出土位置	時期	残存	特徴・備考
62	SI-114 3	SI-114 覆土一括	弥生・後期 二軒屋式	体部片のみ	[色調(内/外)] 5YR5/4 にぶい赤褐/5YR4/3 にぶい赤褐 [胎土] 白色砂粒・石英微量 [特徴] 乱調な波状文と附加状縄文が施されている。
62	SI-129 5	SI-129 覆土一括	弥生・後期 十王台式	頸部片のみ	[色調(内/外)] 7.5YR5/4 にぶい褐/7.5YR4/4 褐 [胎土] 白色砂粒・石英・雲母微量 [特徴] 外面に薄く磨き目が見られる。櫛描き11 10 本～ 12 本の洗線がおおよそ垂直に施文されている。
62	SI-133 3	SI-133 覆土一括	縄文・中期 阿玉台式	口縁部片のみ	[色調(内/外)] 2.5Y3/1 黒褐/10YR3/2 黒褐 [胎土] 雲母・長石少量 [特徴] 口縁部に貼り付け浮文が施される。全体はナデにより成形されている。
62	SD-134 6	SD-134 覆土一括	縄文・中期 阿玉台Ⅱ式	体部片のみ	[色調(内/外)] 10YR6/4 にぶい黄橙/7.5YR6/6 橙 [胎土] 雲母・白色砂粒・長石少量 [特徴] 内面にミガキによる光沢を確認。外面は粘土紐貼り付け帯と半截竹管による押し引きがみられる。
62	SD-134 7	SD-134 覆土一括	縄文・中期 阿玉台Ⅱ式	体部片のみ	[色調(内/外)] 10YR7/4 にぶい黄橙/10YR7/6 明黄橙 [胎土] 雲母・白色砂粒・長石少量 [特徴] 内面にミガキによる光沢を確認。外面は粘土紐貼り付け帯と半截竹管による押し引きがみられる。
62	SD-134 8	SD-134 覆土一括	縄文・中期 阿玉台Ⅱ式	体部片のみ	[色調(内/外)] 10YR7/4 にぶい黄橙/10YR7/7 明黄橙 [胎土] 雲母・白色砂粒・長石少量 [特徴] 内面は磨滅しているが、ナデと若干ミガキの痕跡がある。外面には洗線の痕跡がわずかに残る。

第 63 表　出土遺物観察表（鉄製品）

挿図番号	掲載番号	出土位置	種類	計測値 (mm・g)						特徴・備考
				最大長	最大幅	最小幅	最大厚	最小厚	重量	
62	1	SI-112 床面	鉄鏃茎部片	3.8	0.6	－	0.4	0.3	2.08	茎端部の破片である。端部はやや緩平な楕円状を呈している。

第 64 表　出土遺物観察表（陶磁器）

図版番号	掲載番号	出土位置	種類 器種	計測値 (cm)	色調(内/外)	胎土	焼成	残存率	技法(内/外)・特徴・備考
二六	SI-119 2	SI-119 覆土一括	灰釉陶器 瓶	口径 ― 底径 ― 器高	内：2.5Y7/1 灰白 外：5Y7/2 灰白	白色砂粒・黒色砂粒微量	良好	肩部片のみ	内：ロクロナデ 外：釉薬 内面にも釉薬が付着している。
二六	SI-122 1	SI-122 覆土一括	灰釉陶器 瓶	口径 ― 底径 ― 器高	内：5Y7/2 灰白 外：2.5Y8/1 灰白	黒色砂粒少量、白色砂粒微量	良好	口縁部片のみ	内：釉薬 外：ロクロナデ 1の灰釉陶器の胎土とは若干異なる。
二六	SK-137 7	SK-137 覆土一括	茶碗	口径 ― 底径 ― 器高	内：10Y8/1 灰白 外：10Y8/1 灰白	緻密な白色砂粒微量	良好	底部片のみ	内：釉薬 外：釉薬 内面の使用痕が顕著である
二六	SD-134 9	SD-134 覆土一括	天目茶碗	口径 ― 底径 ― 器高	内：5Y2/1 黒 外：5Y3/1 オリーブ黒	白色砂粒微量	良好	約 10% 残存	内：黒釉 外：黒釉 高坏とほぼ同じレベルで出土。
二六	SD-135 1	SD-135 覆土一括	天目茶碗	口径 ― 底径 ― 器高	内：5Y2/1 黒 外：5Y3/1 オリーブ黒	白色砂粒微量	良好	約 10% 残存	内：黒釉 外：黒釉 SD-134 覆土出土・4の天目茶碗と同一個体と考えられる。
二六	SD-134 10	SD-134 覆土一括	茶碗	口径 ― 底径 ― 器高	内：2.5Y7/4 浅黄 外：5Y7/4 浅黄	緻密な白色砂粒微量	良好	底部片のみ	内：釉薬 外：釉薬 黄土色の釉薬が全体的に厚くかかっている。

第4章　総　括

今回のくるま橋遺跡での発掘調査は限定された調査区であるため、暫定的な発掘調査報告を示すにとどまる。第1次・第2次調査にて確認・調査した遺構は総数124基である。内訳は、古墳1基、住居跡56軒、掘立柱建物2軒、掘立柱柱穴14基、土坑37基、基溝状遺構13基、性格不明遺構1基である。最も遺構数の多い住居跡を中心に調査成果を報告する。

調査した住居跡から出土した遺物は、概ね奈良～平安時代の時期を示していると考えられる。また、破片を含め出土量の多かった甕は下野型の甕で、ほとんど全ての住居跡から出土している。武蔵型の甕も出土しているが6区SI-26の1点のみで、下野型の甕と共伴している。概ねこれら下野型の甕が伴う住居跡は奈良・平安時代頃の遺構とみて間違いないが、1区SI-5や14区SI-113のように長胴の甕や、7区SI-40の張出し貯蔵穴をもつやや古い時期の住居跡もある。他に、14区SI-112ではカマドから灰釉陶器の高台付皿Ⅰ点が出土し、15区SI-117ではカマドから10世紀末～11世紀前半の土師器坏が2点出土した。SI-117は土師器坏の年代から10世紀末～11世紀前半の住居跡と考えられる。くるま橋遺跡全体をみても、10世紀末～11世紀前半の土師器坏や灰釉陶器が出土する住居跡は少ない。

その他、溝状遺構も出土遺物から奈良・平安時代以降に構築されたと考えられるが、溝状遺構はその分布に特徴がある。遺跡東側、主に25年度の調査範囲では溝状遺構は全く無く、反対に台地上ほぼ中央に位置する。8区SD-54の様に3度同地点に溝状遺構を構築した痕跡をもつ遺構もある。残念ながら規模等不明な点が多いため特徴的分布の示唆に留める。土坑については出土資料が少ないため言及はしない。

また、今回の調査では、かねてから墳形に諸説あった「三本松古墳」が方墳であると判明したことが成果の一つとして挙げられる。方墳は周溝西側の一部と南側の一部のみが調査範囲内であったため調査を行ない、調査区外では周溝のプラン図を記録するに留めた。現状の三本松古墳は墳丘西側の一部が残存しており、残存部も墓地として活用されている状態である。そのため主体部や墳丘の構造上の特徴については述べる術が無いことを記しておく。方墳の時期は、方墳の南側周溝内から古墳時代中期頃とみられる高坏が出土していることから、方墳も近似した時期と考えられる。

出土遺物についてみていく。須恵器は益子窯跡群の製品が多いが、三毳山窯跡群、新治窯跡の製品等も少量ではあるが確認されている。特に15区SI-124では、それらが破片資料であるものの2穴式のカマド内から大量に出土しており、中には益子窯跡群の製品によく似た胎土で、製作技法が新治窯跡の須恵器坏も確認されている。

土器以外の出土遺物では編物石や土錘・石錘、紡錘車などが確認されている。特に15区SI-128・SI-129で出土した土錘・石錘は、くるま橋遺跡台地縁東を流れる五行川との関連が考えられるため、くるま橋遺跡での生業を想定する上で貴重な資料だろう。

くるま橋遺跡の変遷について簡単にまとめると、旧石器時代、縄文時代、弥生時代と、継続的あるいは断続的に石島地内を利用していたと考えられ、特におよそ古墳時代中期、三本松古墳出現以降の古墳時代後期には石島地内に人が居住するようになり、奈良・平安時代以降にかけて居住者が増加し、その最盛期を迎えていたと考えられる。この期間のいずれかで掘立柱建物や溝状遺構の構築などが台地中央付近で行われるようになる。また、土錘・石錘や紡錘車などから付近の五行川と関連する生業形態が存在したと考えられる。そしてSI-117が出現する11世紀頃には台地上の石島地内の利用は低調化していったと推定される。

写　真　図　版

図版一　くるま橋遺跡

くるま橋遺跡遠景（南東から）

くるま橋遺跡遠景（北東から）

図版二　第1次発掘調査　遺構（1区）

1区全景（北から）

SB-1　P 1完掘状況（東から）

SB-1　P 2完掘状況（東から）

SB-1　P 3完掘状況（東から）

SB-2　P 1土層堆積状況（西から）

SB-2　P 2完掘状況（西から）

SB-2　P 3完掘状況（西から）

SI-3　完掘状況（西から・左は SD-98）

SI-4　完掘状況（西から・左は SB-1 P1）

SI-5　カマド完掘状況（南から）

SI-5　完掘状況（南から）

SI-6　完掘状況（南東から）

SI-7　完掘状況（南東から）

図版四　第1次発掘調査　遺構（2～4区）

SI-9　完掘状況（南西から）

SI-10　完掘状況（南東から）

3区全景（東から）

SI-11・SK-100　完掘状況（北から）

SI-22　完掘状況（南から）

4区全景（北から）

SB-14　土層堆積状況（東から）

SB-14　完掘状況（東から）

SB-16　完掘状況（西から）

SD-19　完掘状況（西から）

SI-20　完掘状況（北西から）

SI-20　旧カマド（左）・新カマド（右）完掘状況（北西から）

SI-20　遺物出土状況（南から）

5区調査風景（北西から）

SI-21　完掘状況（北西から）

SI-21　カマド完掘状況（西から）

図版六　第1次発掘調査　遺構（6区）

6区全景（西から）

SI-24　完掘状況（南から）

SI-24　カマド完掘状況（南西から）

SI-25　完掘状況（西から）

SI-25　カマド完掘状況（西から）

SI-26　完掘状況（北東から）

SI-26　カマド確認状況（南から）

SI-26　遺物出土状況（南東から）

7区南全景（南から）

SI-28　完掘状況（北西から）

SI-29　土層堆積状況（北西から）

SI-38・SD-39　完掘状況（北西から）

SI-40　土層堆積状況（北西から）

SI-40　貯蔵穴（張り出しピット）遺物出土状況（東から）

SI-41　完掘状況（北西から）

8区全景（北から）

図版八　第1次発掘調査　遺構（8・9区）

SD-42・SD-44　土層堆積状況（南西から）

SI-53　完掘状況（西から）

SD-54　完掘状況（南東から）

9区全景（南から）

SI-58　完掘状況（南から）

SB-64・SK-62・SK-63　完掘状況（南西から）

SI-68　完掘状況（東から）

SI-69　完掘状況（北から）

11区南全景（北西から）

SD-71　土層堆積状況（西から）

SI-72　完掘状況（西から）

SD-74・SD-76　完掘状況（南東から）

SI-78・SD-79　完掘状況（東から）

SI-82　カマド確認状況（南西から）

SI-82　完掘状況（南東から）

SK-83　完掘状況（東から）

図版一〇　第1次発掘調査　遺構（12・13区）

12区全景（北東から）

SD-86　遺物出土状況（南西から）

SD-86　土層堆積状況（西から）

SI-87　カマド完掘状況（南から）

SI-87　完掘状況（南東から）

12区調査風景（北東から）

13区全景（東から）

SI-88・SK-97　完掘状況（東から）

SI-111　カマド前遺物出土状況（南から）

SI-111　完掘状況（南から）

SI-112　カマド遺物出土状況（西から）

SI-112　完掘状況（西から）

SI-113　土層堆積状況（南から）

SI-113 貯蔵穴　土層堆積状況（南から）

SI-113　遺物（カマド袖構築材転用甕）出土状況（東から）

SI-113　貯蔵穴（左）・カマド（右）完掘状況（南から）

図版二二　第2次発掘調査　遺構（14・15区）

SI-113・114・115　完掘状況・西（南から）

SI-113・114・115　完掘状況・東（南から）

SI-114　遺物出土状況（遺物下はSI-115カマド）（北から）

SI-115　カマド完掘状況（南から）

SI-113・114・115　完掘状況（東から）

15区遠景（南から）

SI-117　カマド内土層堆積状況（西から）

SI-117　カマド内土層堆積状況（南から）

SI-117　遺物出土状況（南から）

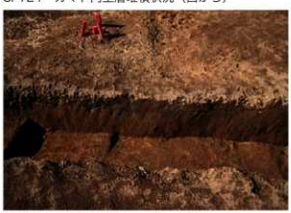
SI-117　完掘状況（南から）

SI-118　完掘状況（北から）

SI-122・137　完掘状況（西から）

SI-124　カマド内土層堆積状況（西から）

SI-124　カマド内土層堆積状況（南から）


SI-124　土層堆積状況・南（東から）

SI-124　土層堆積状況・北（東から）

SI-124　土層堆積状況・カマド付近（写真中央がカマド）（東から）

SI-124　カマド完掘状況（写真中央左が支脚）（西から）

SI-124　完掘状況（南から）

SI-127　遺物出土状況（西から）

SI-128　遺物出土状況（東から）

SI-128　遺物出土状況（北から）

SI-128　遺物（石錘）出土状況（北から）

SI-128　遺物（左：捏鉢、右：坏）出土状況（東から）

SI-129　完掘状況（南から）

SI-131　遺物出土状況（西から）

SI-133　完掘状況（西から）

SI-138　確認状況（奥壁がカマド、写真手前が床面（一部残存））（西から）

SD-134　方墳周溝確認状況（東から）

SD-134　遺物（高坏）出土状況（南から）

SD-134　確認状況（墓地西側）（西から）

方墳（SD-134）調査風景（東から）

図版一六　第1次発掘調査　遺物1（土器）

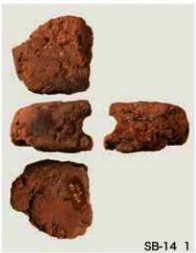
図版一七　第1次発掘調査　遺物2（土器・土製品）

SI-7 1

SI-7 1内面

SI-7 1底部

SI-7 3


SB-14 1

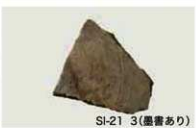
SI-10 1

SD-19 1（墨書あり）

SD-19 2（ヘラ書きあり）

SI-20 1

SI-20 3


SI-21 3（墨書あり）

SI-21 4（朱書きあり）

SI-21 8

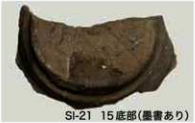
SI-24 1

図版一八　第1次発掘調査　遺物3（土器・陶器・土製支脚）

SI-21 15

SI-25 1

SI-25 2


SI-21 15底部(墨書あり)

SI-25 3

SI-29 2

SI-26 1

SI-26 2

SI-40 1

SI-40 2

SI-41 1

SI-53 2

SI-53 3

SD-54 1

SD-54 3

SI-69 2

SD-74 1

図版一九　第1次発掘調査　遺物4（土器・土製品）

SI-68 1

SI-78 1

SD-86 3

SI-87 3

SI-87 1

SI-87 1
外面

SI-87 1 外面拡大（ヘラ状痕）

SI-87 2

SI-87 2
底部

SI-87 2 外面拡大（鉄）

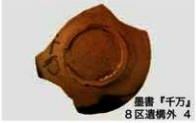
SD-86 4

SD-86 5

墨書『千万』
8区遺構外 4

SD-86 7

SI-87 4


墨書『千万』
8区遺構外 4

図版二〇　第1次発掘調査　遺物5（土器・石器・鉄製品）

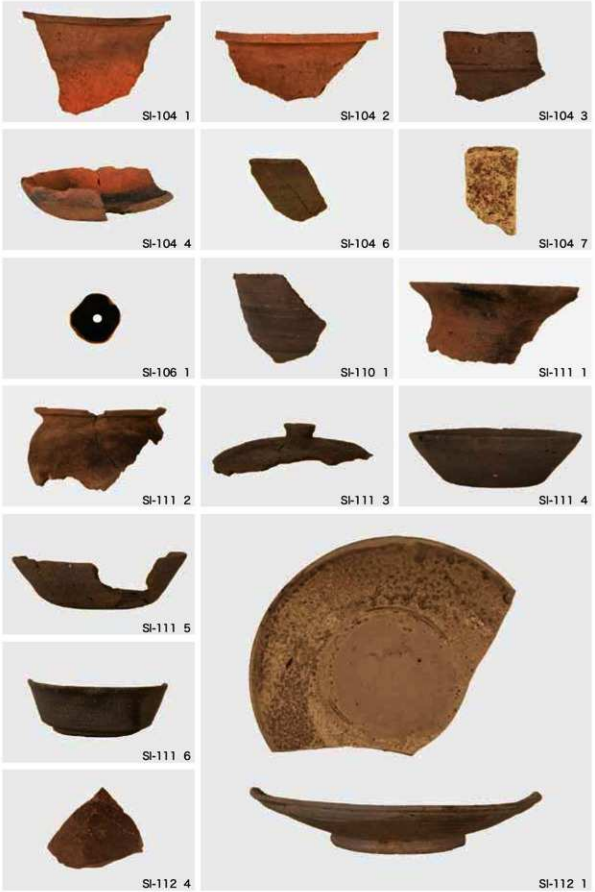
鉄製品

図版二一　第1次発掘調査　遺物6（縄文土器・陶磁器）

縄文土器

陶磁器

図版二二　第2次発掘調査　遺物1（土器・土製品・砥石・陶器）



図版一三　第2次発掘調査　遺物2（土器・土製品）

SI-113 1

SI-113 2

SI-114 1

SI-113 3

SI-113 4

SI-116 1

SI-117 1

SI-117 2

SI-119 1

SK-137 1(墨書あり)

SK-137 2

SK-137 4

SK-137 5

SI-124 2

SI-124 3

SI-124 5

SI-124 6

SI-124 7

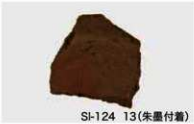
図版二四　第2次発掘調査　遺物3（土器・袖石・支脚）

SI-124 8

SI-124 9

SI-124 10

SI-124 11


SI-124 13(朱墨付着)

SI-124 14

SI-124 19

SI-124 袖石(東)

SI-124 袖石(西)

SI-124 支脚

図版二五　第2次発掘調査　遺物4（土器・石器）

図版二六　第2次発掘調査　遺物5（土器・鉄製品・陶磁器）

15区表採　1

鉄製品

SI-112　1

縄文・弥生土器

SI-114　3

SI-129　5

SI-133　3

SD-134　6

SD-134　7

SD-134　8

陶磁器

SI-119　2

SI-122　1

SK-137　7

SD-134　9

SK-135　1

SD-134　10

報告書抄録

ふりがな	くるまばしいせき
書名	くるま橋遺跡
副書名	農地整備事業（畑地帯担い手育成型）石島地区における埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第368集
編著者名	植木茂雄、市川岳朗
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団　埋蔵文化財センター
所在地	〒329−0418　栃木県下野市紫474番地　TEL 0285−44−8441
発行機関	栃木県教育委員会　公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦　2013年3月25日（平成26年3月25日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
くるま橋 遺跡	真岡市石島	09209	6014	36°23′24″	139°58′29″	20130115～ 20130315 20131114～ 20131209	625㎡ 455㎡	農地整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
くるま橋 遺跡	古墳 集落	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代中期 古墳時代後期～ 奈良・平安時代	方墳　1基 竪穴住居跡　56軒 掘立柱建物跡　2棟 掘立柱柱穴　14基 溝状遺構　13条 土坑　37基 性格不明遺構　1基	ナイフ形石器 条痕文土器、阿玉台式土器 後期弥生土器 高坏 緑釉陶器、灰釉陶器、須恵器、土師器、紡錘車、土錘、鉄鏃、鉄製品、編物石、砥石、石錘	奈良・平安時代の集落

要約	くるま橋遺跡は真岡台地南端に位置し、台地縁東端には五行川が流れている。集落は遺跡の西側と東側では若干時期差があり、西側は古墳時代後期～奈良・平安時代の住居跡が多く、東側は奈良・平安時代から住居が増加する傾向にある事が今回の調査により判明した。さらに、東側の出土遺物のうち製塩土器と新治の須恵器等、茨城県との関連が想定される資料が多く、須恵器から9世紀後半頃の住居であり、遺跡東側における奈良・平安時代以降の住居軒数増加との関連が伺われる。また、今回の調査で三本松古墳は方墳である事が分かった。古墳時代以前にも台地上を活用していた事を示す資料として旧石器、縄文土器、弥生土器が出土した。

栃木県埋蔵文化財調査報告第 368 集

くるま橋遺跡

－農地整備事業（畑地帯担い手育成型）石島地区における
埋蔵文化財発掘調査－

発行　栃木県教育委員会
宇都宮市塙田１－１－２０
TEL　０２８（６２３）３４２５

公益財団法人とちぎ未来づくり財団
宇都宮市本町１－８
TEL　０２８（６４３）１０１１

平成２６年３月２５日発行

編集　公益財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫４７４番地
TEL　０２８５（４４）８４４１

印刷　下野印刷株式会社